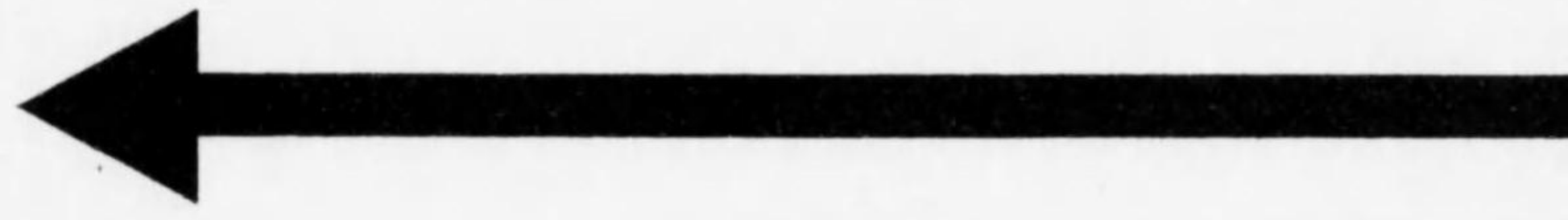


347
463



始



347

463

三
天
辭

持274
931



公認
標準

今田莊一纂述

百

犬辭典



公認
標準

百

犬辭典



自序

犬を見んとする人、犬を飼はんとする人乃至は犬を作らんとする人は先づその犬種を持つべき正しき標準を知らねばならぬ。これを知りたる上實際の犬に接するならば、否、度々實際の犬と標準書とを照し合せて研究するならば、いつの間にか自己の心の底に正しき犬の繪姿が描き出さるゝものである。この繪姿こそ理想の犬——正しきモデル犬であり明かな鏡であるのだ。

實に本書はこの目的の爲に最も權威ある公認の標準書に基づき何人にも解り易き言葉を以て改竄説述したものである。而も原本の眞意を傷はぬやうに、又その重要なものは二三の標準書を彼是參酌して説述することにした。且ツこゝに挿し入れた寫眞は可成正しき體型を示すものを選んだつもりである。若しこの小篇が幾分なりとも上に叙へた趣旨に報るであらうならば編者の幸これに過ぎぬ。

纂述者しるす。

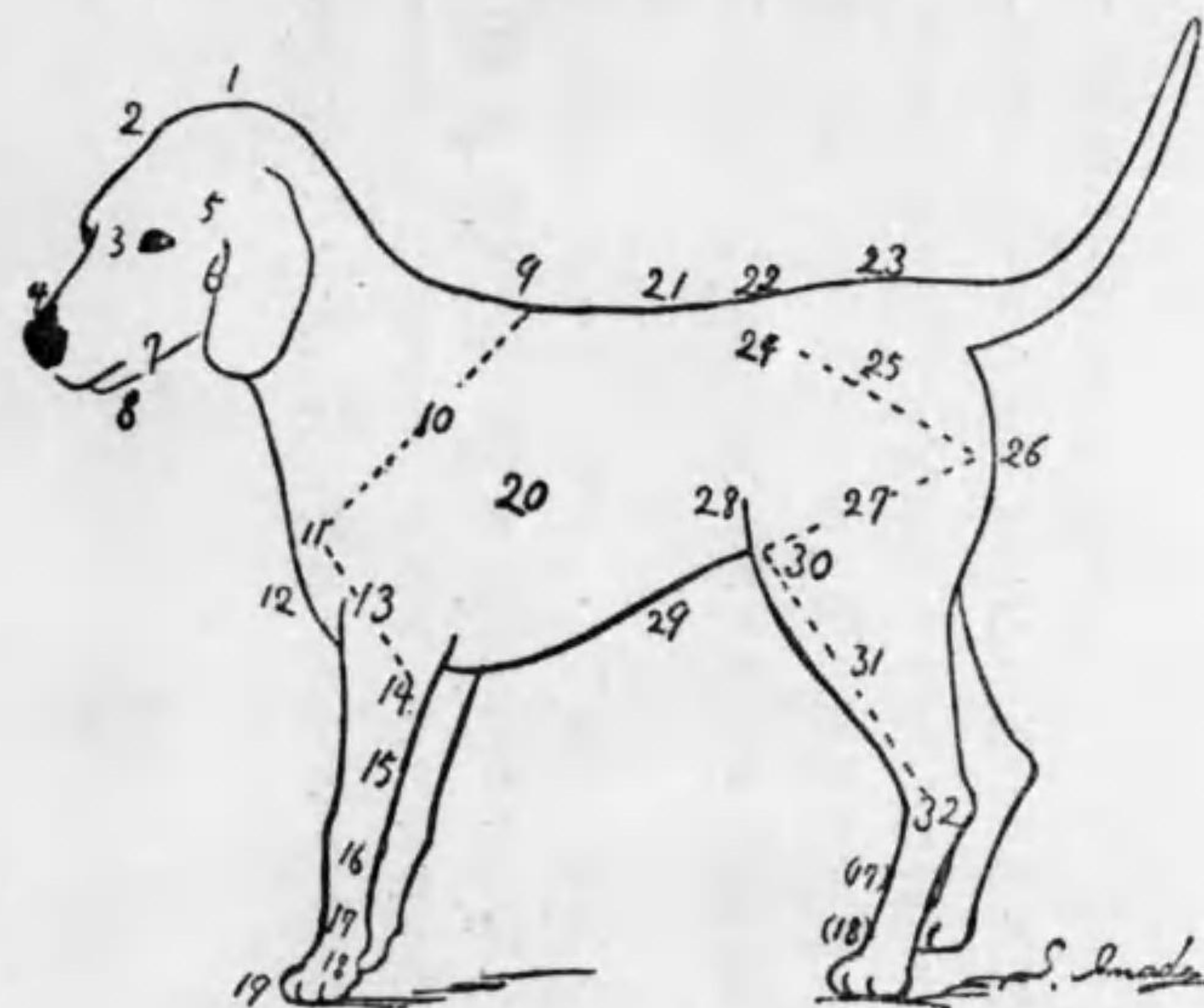
静の中動



アリテ・ルーデアエ
 “—ユヴド—ロブ、ブオ・ンロクア”
 (KV—NO. A1)

僕の家ぼくのいえの坊ぼくちゃんちゃんはいたづらで困こまります。「よい寫眞機しやしんきを借りて来たから、アクロンあクロン寫うしてやらう、あの小枝こえだに四足よんあしを揃そろへて座まつて居ゐれ」さ云いふのです。
 お蔭かげで武藏野むさしののの秋景色あきげしきが見渡みわたされた！
 「この寫眞しやしんは仲々おもしろ面白い。輕快けいかいと豪膽ごうたんとがよく現あらはれてゐる。本の口繪くちえにするやうに急いそいで送おくつてやらう……」さいふやうなお話はなしは聞きえて居ゐたが、僕ぼくにはその寫眞しやしんを見みせて呉くれないです。

解圖語用ノ書本



- | | |
|------------------|------------------------|
| 1 後頭頂 (ウシロアタマ) | 2 額 (ヒタイ) 1—2 頭蓋 (ヅガイ) |
| 3 ストツブ | 4 ハナバシラ |
| 5 コメガミ | 6 頬 (ホウ) |
| 7 顎 (アゴ) | 8 頤 (オトガイ) |
| 4—7—8 鼻口部 (クチバシ) | 9 肩ノ頂 (カタノイタダキ) |
| 10 肩胛骨 (カタノホネ) | 11 肩サキ |
| 12 胸先 (ムナサキ) | 13 上膊 (ウラウデ) |
| 14 肘 (ヒジ) | 15 前腕 (マエウデ) |
| 16 膝 (ヒザ) | 17 髁 (アクト) |
| 18 アシクビ | 19 足 (アシ) |
| 20 胸 (ムネ) | 21 背 (セ) |
| 22 腰 (コシ) | 23 尻 (シリ) |
| 24 腰角 (コシカド) | 25 シリボネ |
| 26 臀端 (シリサキ) | 27 上腿 (ウラモモ) |
| 25—27 臀 (シリ) | 28 脇腹 (ワキバラ) |
| 29 腹 (ハラ) | 30 後膝 (アトヒザ) |
| 31 下腿 (シタモモ) | 32 飛節 (ヒセツ) |

百犬辞典目次

(ア)の部

(3)	(2)	(1)
アイリツシユ、ウルフハウンド……………	アイリツシユ、セツタ……………	アイリツシユ、テリア……………
一	四	五

(イ)の部

(6)	(5)	(4)
イタリアン、グレイハウンド……………	イングリツシユ、スプリング……………	イングリツシユ、セツタ……………
二〇	三	五

(7)
イングリツシユ、ポインタ……………
一八

(ウ)の部

(10)	(9)	(8)
ウエスト、ハイランド、ホワイト、テリア……………	ウエルシユ、テリア……………	ウルフハウンド……………
三	二六	二六

(エ)の部

(12)	(11)
エアデル、テリア……………	エルクハウンド……………
二九	三

(オの部)

(14)(13) オールド、イングリッシュ、シーブ
ドツグ……………三七
オッターハウンド……………四

(キの部)

(16) 15) キースホンド……………四
キング、チャールス、スパニエル……………四

(クの部)

(19)(18)(17) グリホン、ブラッセルズ……………四
グレート、デーモン……………五
グレイハウンド……………五

(サの部)

(27)(26) サモエド……………七
サルキー……………七

(シの部)

(33)(32)(31)(30)(29)(28) シープドッグ……………九
シーリハム、テリア……………九
シエトランド、シープドッグ……………八
シエバド……………八
シュナウゼル……………八
シパーキー……………九

(ケの部)

(21)(20) ケイアン、テリア……………七
ケリー、ブルウ、テリア……………六

(コの部)

(25)(24)(23)(22) コツカア、スパニエル……………六
ゴードン、セツタ……………七
コリー……………六
ゴールデン、リトリバー……………七

(スの部)

(36)(35)(34) スカイ、テリア……………九
スコッティッシュ、テリア……………九
スパニエル……………九

(セの部)

(38)(37) セツタ……………一〇
セント、バーナード……………一〇

(タの部)

(39) タックスフンド……………一四

(62)(61)(60)(59)(58)(57)(56)(55)(54)(53)

(フ)の部

ブー ドル……………一四二
 ファイルド、スパニエル……………一四四
 フオツクス、テリア……………一四八
 フオツクス、ハウンド……………一五三
 フラット、コーテッド、リトリバー……………一五五
 ブラッドハウンド……………一五八
 ブラック、エンド、タン、セッタ……………一六〇
 ブラック、エンド、タン、テリア……………一六一
 ブラッセルズ、グリフォン……………一六四
 プリンス、チャールズ、スパニエル……………一六六

(70)(69)(68) (67) (66)(65)(64)(63)

(ホ)の部

ポイ ペット……………一八四
 ポイ ン タ……………一八六
 ポストン、テリア……………一八六

(ヘ)の部

ベキ ニース……………一八一

ブルテリア……………一六六
 アルドツク……………一六九
 ブルマスチフ……………一七七
 フレンチ、アルドツク……………一七九

(45) (44) (43)(42) (41)(40)

(チ)の部

チャウ、チャウ……………一六六
 チ ン……………一九九

(テ)の部

ディアハウンド……………二二三

(ト)の部

トイ、スパニエル……………二二七

(52) (51)(50) (49) (48)(47)(46)

(ニ)の部

ニユウ、フオンランド……………二三三

(ハ)の部

バセットハウンド……………二三四
 バピ ロン……………二三六

(ヒ)の部

ビー グル……………二三六

トイ、テリア……………二七
 トイ、ブー ドル……………二七
 トーベルマン、ピンシエル……………二七



Photo. J. Hinds, Keshley.
RYAN OF RAIKESHILL.
By Coler of R. ex Cairn Beag.

アイリッシュ、ウルフハウンド

百犬辞典

(ア)の部

(1) アイリッシュ、ウルフハウンド

原産地—**アイランド** サイズ—**大型の軽種** 用途—**獣獵** (今は主として伴侶犬)
◎**權威のクラブ**。ザ、**アイリッシュ、ウルフハウンド、クラブ** (英國)

標準

全貌 本種は**グレート、デーン**のやうに**重大**ではいけない。しかし**全體の形が** **アイハウンド**に似てそれよりも**重くて大きい**。

(76)	(75)(74)(73)	(72)(71)
ヨークシア、テリア	マスケフ	ボメラニアン
.....二〇三	マルチーゾ	ボルゾイ
(ヨの部)	マンチエスタア、テリア一九三
二〇一一九九
一九七	
	(マの部)	

(80)	(79)	(78)	(77)
ロットワイレル	ルビイ、スバニエル	リトリバー	ラブラドア
.....二一〇二〇九二〇八二〇六
(ロの部)	(ルの部)	(リの部)	(ラの部)
(目次終り)			六

優美な骨組ではあるが、大型で威圧する外觀を持ち、極めて肉附がよくて強い。動作は軽妙で活潑である。頭と頸とは高く保つ。擡げてゐる尾は先の方を僅に曲てあたりを掃ふ。最少限の高さと重さは、牡にあつては三十一吋で百二十封度、牝にあつては二十八吋で九十封度である。これより以下のものは競争場裡には落第である。大きなサイズ(肩の高いこと)と、釣合のとれた胴の長いこと)が可成狙はれてゐる。必要なる體力と活潑、勇敢と對照とを表はすならば、牡にあつては平均三十二吋乃至三十四吋のものが本種の確證として儲に望まれてゐる。

頭は長くて、額の骨が極めて僅に高くな

つてゐる。兩眼の間には極めて僅の凹痕がある。鼻口部は長くて程よく尖つてゐる。耳は小さくしてグレーハウンドのやうに保持してゐる。

頸はむしろ長く、極めて強くて肉附がよい。頸はよくアーチして、そのまはりには喉垂皮や緩い皮が附いてゐる。

胸は極めて深く、胸先が広い。

背は短いといふよりもむしろ長い。腰はアーチしてゐる。

尾は長くして僅に曲つてゐる。太さは程よく、尾は毛を以てよく被はれてゐる。

腹はよく引き上つてゐる。

前軀 肩は胸の廣さを與へるやうに肉附が

よい。傾いて附てゐる。肘は内にも外にも向かないでよく下つてゐる。

脚 前腕は筋肉に富み、脚全體は強くて全然真直である。

後軀 臀は筋肉に富み、下腿はグレーハウンドのやうに長く強い。飛節はよく下つて内にも外にも向いてゐない。

足 はほどよく大きく圓い。内にも外にも向いてゐない。趾はよくアーチして互に密著してゐる。爪は極めて強く且つ曲つてゐる。

毛 胴と脚と頭の毛は粗くて剛い。特に眼の上と顎の下のものはワイア毛で長い。色と斑紋 承認せられたる色は灰、虎毛、

赤、黒、純白、鹿毛又はディアハウンドが持つ色なら何でもよい。

缺陷 頭の輕過ぎるもの、重過ぎるもの。前頭骨のあまり高くアーチしてゐるもの。大なる耳と顔にべつたり垂れてゐる耳。短い頸と澤山な喉垂皮。胸の廣過ぎるもの、狭過ぎるもの。落ち込んで凹んだ脊又は全く水平な脊。曲つた前脚。曲り過ぎの足頸。捻ぢれた足。廣がつた趾。あまり曲つた尾。弱き後軀、牛飛節。一般に筋肉の不ぞろい。胴の過短。

編者曰ふ……牛飛節とは牛の後脚のやうに飛節が互に内方に寄つてゐる。極めてあしき肢勢をいふ……即ち外踏肢勢。



FRIEZE OF ARDAGH.
Winner chili. cert. Darlington, 1930, and three res. chili. certs.

アイリッシュ、セツタ

(2) アイリッシュ、セツタ

原産地—アイルランド サイズ—中型の中
用途—銃獵—(伴侶用として美毛を賞観)
◎權威のクラブ。アイルツシユ、レッド、
セツタ、クラブ(英國)

標 準

色を除き他はイングリツシユ、セツタに同
じ……毛色はきらきらする金栗毛にして胸や
足に白毛や黒毛があつてはいけない。但し額
の小屋又は鼻筋の白線は失格でない。鼻の色
は暗き胡桃色である。その他は(6)を見よ。



HIBERNIAN MURPHY.

アイリッシュ、テリア

(3) アイリツシユ、テリア

原産地—アイルランド サイズ—中型の小
用途—土 獵 ◎權威のクラブ。
ザ、アイリツシユ、テリア、クラブ(英國)

標 準

頭—は長い。頸蓋は平たく、兩耳の間隔は
むしろ狭く、眼の方へ下るに従ひ僅に狭くな
る。皺はない。ストツプは横からでなくては
殆ど見えない。顎は強くて肉附がよくなくて
はならぬ。しかし頬はあまり張つて居らず、
頸は充分咬み附くだけの長さを持つてゐる。
眼の下はグレイハウンド程ではないが僅瘠せ

てゐる。頭の毛は体と同様であるが短い（長さ約四分の一時）。見た所では殆ど平滑で直い。唯僅の鬚が長いだけである（他の部分に比較して長いと云ふ意味）。それは差支がないのであり又これが特色なのである。

歯は強くて、よく揃つてゐる。

唇はブルテリア程しつかり緊つてゐないが、よく接合つて黒い線が毛を透して見える。

鼻は黒くなくてはならぬ。

眼は濃いはしばみ色で小さい。突き出てゐない。生氣と熱心と才智に満ちてゐる。

耳は小さく程よい厚さを持つV字型で、頭部に具合よく付き、頬に密着して前方に垂

れてゐる。耳は縁房がなくその毛は體の毛よりも短かく且つ色が濃い。

頸は可なりの長さで肩の方へだん／＼と廣くなつてゐる。具合よく保持して喉垂皮はない。通常一種の鬚縁が頸の兩側に僅に見え

る。それは耳の角の所まで行つてゐる。肩と胸は美しく長い。よく後方に傾いてゐなければならぬ。胸は深く、肉附はよいが肥満もせず又廣くもない。

背と腰 胸は適度に長い。脊は強くて真直でなくてはならぬ。肩の後に凹陷は見えない。腰は廣い、力強く僅にアーチしてゐる。肋は可なり張つて居り、圓いといふよりもむしろ深い。肋は後の方へよく組み上つて居る。

後軀は強くて筋肉に富んでゐなければならぬ。腿は力強く。飛節は地面に近く、後膝は程よく曲つてゐる。

尾は一般に断尾するを例とす。縁飾即ち飾毛はないが、剛い毛でよく被はれて居る

可なり高く附いて居り、軽く揚げる。しかし脊の上に揚げたり、捲いたりしてはならぬ。

足と脚 足は強く、可なり圓く、適度に小さくなくてはならぬ。趾はアーチして、外

向きでも内向きでもない。黒い爪が一番所望である。前脚は適度に長く、肩に具合よく附いて居り、十分真直で、骨と肉に富んで居る。肘は兩脇から離れて自由に動く。前脚もは短く真直で、見えるか見えない位。前脚も

後脚も歩くときは真直に前へ動かさねばならぬ。後膝は外向きでない。脚には飾毛がなく、頭と同様剛毛で被はれて居る。その毛の質は體のものと同じ剛さであるが體の毛程長くはない。

被毛は剛くてワイアである。柔かくも絹糸状でもなく、又體の輪廓線を陰す程長くもない。殊に後軀部はさうなくてはならぬ。毛は真直で平たく、もちやく／＼でなく、からみ合つたり捲いたりしてはならぬ。

毛色は總毛でなくてはならぬ。その色は光澤のある赤か麥蘗色かそれとも黄赤のものがよいとせられてゐる。白毛が時々胸や足に現はれるが胸の白いものよりも足の白いもの

は非難すべきである。一般に單色の犬には時々胸に白い斑點があるものである。

大さと釣合 品評會の規定で最も望ましい體重は牡二十四封度、牝二十二封度である。この犬は活潑と生氣と柔軟とワイアらしき觀を現はさねばならぬ。實質に惠まるゝと共に不恰好でなく、速力と耐久力と體力が極めて肝要である。この犬はごつ／＼でもなく又づんづくでもなく、美しい快走輪廓を現はすやうに速力外線で出來上つて居らねばならぬ。

性格 眞に狩獵に適する犬は普通意地惡で咬み付く癖のあるものである。アイリツシュテリアは種類としては極めて善性であるから

これだけは除外例である。この犬は人間に對しては善性であるが、他の犬に對しては多分挑みかかつて行く氣持が多少なりともある。

これは恕すことにしたい。アイリツシュ、テリアは無謀の勇氣を持つてゐる。それは本種の特性である。向ふ見ずの猪突と全然盲目的に敵に向つて突進するので「無謀漢」と云ふ綽名を受けてゐる。それが濟んでしまへば後は冷靜に歸り、いかにも撫てやりたくなるのである。誰でもこの犬が主人の手許に可愛らしく小膽に頭を突き出すのを見ては、「かかれ」の命令で、それが獅子の如き勇敢を現はし息の續づく限り奮闘するこゝが出來ると云ふことを保證することは困難である。この

犬は主人に對する愛著心が非常に發達してゐる。殆ど信ずべからざる程遠い距離に主人の跡を追ふといはれてゐる。

要點の價値

頭、耳及表情	20
脚	15
頸	5
肩	10
脊	5
後軀	10
被毛	15
毛色	10
大さ	10
釣合	10
合計	100

非難すべき點 白き爪と趾。趾。胸部に

ある大なる白毛。顔面に於ける暗きぼかし

下頸の過長と腐つた齒。髭毛又は捲毛或は

柔かき被毛。毛色の所々に不揃のあるもの。

編者曰ふ……エアデールと異ふ主なる點……

◎體型——(一)サイズがエアデールの半分(二)毛色が單色 (三)耳が前方保持 (四)鼻口部がヨリ尖つてゐる (五)口ひげが少い ◎氣質——エアデールと反對に他犬と争鬪を好む。

要するにエアデールの不洗鍊のものにこの犬に似たものがある。但し毛色だけは別。二十數年前編者も一度この犬を飼つたことがあるが、立派なエアデールがゐる今日では飼ひたいと思ふ犬でない……我國には極めて稀に見る犬。



Photograph by Russell
Italian Greyhounds
Rosemead Una and Rosemead Laura.

イタリアン、グレーハウンド

(イの部)

(4) イタリアン、グレーハンウンド

原産地—イタリア(英國にて改良洗鍊)

サイズ—トリー型(大小二種)

用途—トリー ◎權威のクラブ。サ、イタリ
アン、グレーハウンド、クラブ(英國)。

標準

全貌 小型英國グレーハウンドは凡てが
割合よりも一層繊細で、體形、釣合及動作は
理想の優美を持つ。
頭蓋は長く、平にして狭い。鼻口部
は極めて精細。鼻の色は濃暗。耳はロー

ズ型で具合よく後に附いて居り、柔で精美である。後頭部に觸れるか觸れない位。眼は大きく、輝いて、表情たつぷりである。胸頸は長くて優美にアーチして居る。肩は長くて傾いて居る。脊はカーヴして尻は下つてゐる。
脚と足 前脚は眞直で、肩の下に具合よく附いてゐる。骸は精細で、脚は小さな細い骨を持つ。後脚は飛節がよく低下し、腿は肉附がよい。足は長い—兎足である。
尾、被毛、毛色 尾はむしろ長く、低く垂れて居る。皮膚は精細でしなやかである。毛は縞子のやうに薄くて光澤がある。單色の方が望ましい。最も賞讃せらるゝ色は總鹿

毛であるが色々のぼかしのある鹿毛—赤、鼠クリムや白のぼかし—も認められてゐる。黒や虎毛や駁のものは好ましくない。
動作 歩様は高くて自由である。
體重 ニツに區別せられてゐる—一は八封度以下、他は八封度以上のもの。

編者曰ふ……(一)ローズ耳とは後にたんだ耳即ち耳の内側が前から見える耳。
(二)この犬は我國ではあまり見ないが、西洋では貴婦人用の軽い散歩の伴侶犬として飼はれてゐる。體が特に蚊細いさいふのが風がわりといふだけのこと。



イングリッシュ、スプリング

(5) イングリッシュ、スプリング

原産地—イギリス。 サイズ—中型の

小。

用途—銃 獵 (家庭の伴侶にもよい)

◎權威のクラブ。 イングリッシュ、スプリング、スパニエル、クラブ (英國)。

標準

頭蓋 は長さが適度で、可なり廣くなくてはならぬ。 僅に圓くなつてゐる—深いストツブとよく削られた眼凹とを持つてゐるので、林檎頭といへばいはれぬことはない。

頸 は充分な長さを持ち、鼻口部は眞直で

四角で深い。絶對に尖つてはいない。唇は充分深く。鼻孔はよく發達してゐる。

眼 ははしばみ色即ち暗色で、可なり大きい。兎に角突き出ると云ふよりも具合よく附いてゐると云ひたい。

耳 は長くて、眼と同線に附いて居り、頬に美しく接著して垂れ。豊富な飾毛を持つて居なければならぬ。

頸 は強くて肉附はよく、可なりの長さをもち喉垂皮はない。肩は長くて、傾斜して脊に具合よく接合してゐる—これは大なる活潑と速度を興へるものである。

前脚 はすつきりした平たい骨を持ち且ツ豊富な飾毛を付け、程よき長さがなくてはな

らぬ。足は圓くて、足裏は厚い。

胸は強くなくてはならぬ—強き脊と肋を持ち、胸は深くて心臟の室が豊であること。

腰 は筋肉が張つて大なる力を持つてゐなければならぬ。兎に角、僅にアーチして小じんまりと具合よく連結してゐる。

後軀 は後脚と共に強くなくてはならぬ。後膝は程よく曲つて内外いづれにも捻れてゐてはならぬ。

尾 は低く保ち決して脊と同一水平線よりも上に揚げてはいけない。飾毛が豊富であつて且ツ活潑に動かすこと。

被毛 は平毛か又は直毛で厚くなくてはならぬが、散ら散らの波毛は排斥すべきである。

毛色 は赤と白とを除いてはどんな色でもよい。

高さ は二十一吋より高くないこと。

體重 は二十五封度以下のもの又は五十封

度以上のものはいけない。

全貌 釣合がとれ、小じんまりとして居り、力が強くて、爽快活潑であり。耐久と敏活の結構を持たねばならぬ。

编者曰ふ……スプリングはいふまでもなくスバニエルの一種である。スバニエル中の比較的新しい種類である。抑も獵用スバニエルには水獵と陸獵との二大別がある。水獵種にはアイリツシュ、ウオータ、スバニエル、

イングリツシュ、ウオータ、スバニエルの二種。陸獵種にはクラムバー、サセツクス、フイルド、イングリツシュ、スプリング、ウエルシュ、スプリング、コツカア、スバニエルの六種がある。スバニエルの起源はスペインであつてセツタの親類である。

(6) イングリツシュセツタ

原産地—イングランド サイゾ—中型
用途—銃 獵 (家庭の伴侶としてもよい)
◎權威のクラブ。イングリツシュ、セツタ、クラブ (英國)。

標準

頭 は長くて瘠せて居り、はつきりしたストップを持つて居なければならぬ。頭蓋は耳から耳まで卵形であり腦の爲廣い室があることを示してゐる。又可なり明瞭な後頭部の瘤を持つてゐる。鼻口部は適度に深く、可なり四角である。ストップから鼻先まで長くて



FANTAIL OF ARDAGH.
Winner chall. certs. L.K.A. and Richmond, 1931.

イングリツシュ、セツタ

鼻孔は廣い。顎は殆ど上下同じ長さである。唇は垂皮があまりぶら／＼してゐない。鼻の色は黒或は暗いレヴァ或は淡いレヴァ色で、各その毛色に相應すべきものである。眼は輝いて、溫和で、理智的であり、その色は暗いしばみ色でなくてはならぬ。しかも暗ければ暗い丈よいのである。耳は長さ適度で、附根が低く、美しい鬘を持つてゐる。それは頬に密着して垂れ、その先は天鷲絨様の、上の部分は精細な絹絲狀の毛に被はれてゐる。

頸 はむしろ長く、肉附がよく、傾斜して項の所で僅にアーチしてゐる。又頭の附際はずつきりしてゐなくてはならぬ。頸は肩の

方に下るに従ひ大きくなつて極めて肉附がよく、喉の下にはぶら／＼する垂皮はない。しかし優美でどことなくブラツドハウンドの様子が見えねばならぬ。

胴 は適度に長くて、肩は後に附いて傾いてゐる。脊は短くて水平。腰は廣く僅かにアーチし、強くて肉附がよい。胸は胸前の所が深く。肋は具合よく圓くてよく張つて居り後部肋骨は深い―即ち肋骨がよく組み上つてゐる。

脚と足 後膝はよく曲り角張つてゐる。腿は臀から飛節迄の間が長くなつてはならぬ。前腕は大きくて極めて肉附がよい。肘はよく下つてゐる。骹は短くて筋に富み眞直で

ある。足は極めて密接して引きしまつて居り、趾の間は毛を以て保護せられて居る。

尾 は殆ど脊の水平線に附いて居り、其の長さは適度で捲いて居らず又繩のやうでもないのである。僅曲り所謂彎刀形をなしてゐる。しかし上向になる傾は更でない。フラツグ即ち飾毛が長くひら／＼として垂れて居る。その飾毛は尾の附根の所からでなく、少して下つた所から始まり中程で増し又段々と先の方に尖つて居なければならぬ。その毛は長くて輝いて居り、柔かで絹絲狀である。波狀であるが捲いてはならぬ。

被毛と飾毛 耳と同線の頭の後の方は軽く波打つた長い絹絲狀の毛で被はれてゐなければ

ばならぬ。全體の被毛もこれと同様である。臀先と前脚は殆ど足の所までよく飾毛を有つべきである。

毛色と斑紋 色は黒と白、レモンと白、レヴァと白若しくは三毛（即ち黒、白、タン）の中何れでもよい。これ等の毛色は大きな斑紋でなくて全體に亘つて点々のあるものがよいとせられてゐる。

編者曰く……以前はブルー・ベルトンの毛色でなくてはならぬ様に考へられてゐたが、その後だん／＼この標準書にある色々の色が認められるやうになつた。而もよい系統のものは大體に白地勝である。併し、三毛のものよりかブルーの更紗斑のものが喜ばれてゐる。



WOLVERSHILL TRUE.
Winner (Hall, cert. Darlington, 1931; 1st Open, Kennel Club, 1931).

イングリッシュ、ポインタ

(7) イングリッシュ、ポインタ

原産地—イングラランド サイズ—中型
用途—銃 獵 (家庭の伴侶にもよい)
◎權威のクラブ—ザ、イングリッシュ、ポインタクラブ (英國)。

標準

頭は耳と耳との間が廣くて、長さは長く頭蓋の頂點から鼻の附根まで傾斜してゐなければならぬ。頬は突き出て居る。耳は低く付き、その質は薄くて柔で天鵞絨のやうである。鼻は基底が廣い。口は大きくて顎は上下揃つてゐる。

頸は極めて強くなくてはならぬ。しかし長くして僅にアーチして肩に附いてゐる。肩は具合よく脊に連結し、脊は眞直で、廣い腰に連つてゐる。
心臟の爲の室は深く、胸前は極めて深い。兎に角、胸はむしろ狭くて、肩は長く良く傾斜してゐなければならぬ。
脚と足 脚は可成フオックスハウンドの脚によく似てゐなければならぬ。實にこの兩者の間には差異がない。即ち脚は眞直で、膝は大きくて、骨は趾の所まで十分に太く、足は極めて圓く、即ち猫足でなくてはならぬ。
後軀部 ポインタ種の特徴の大なるものはこの後軀部にある。ポインタは下腿のあまり

長過ぎるものも後膝のあまり峻し過ぎるものもよくない。後膝はよく曲らねばならぬ。優良ポインタの下腿の筋肉はいつも著しく發達してゐる。飛節はフオックスハウンド種よりも直くてもよい。即ちポインタは飛節を鋭く引上げてその上に體重の大分を托する。
色 ポインタは各種の毛色のものに優良犬がゐる。「ダアビ」色と云ふのはポインタには常にレヴァに白、鬮雞には胸黒の赤といふことになつてゐた。セフトン系も同様レヴァに白であり、又エチエス、オブ、ストレリ系もさうであつた。しかしこれには餘程點々が多かつた。ブロットトンのパウンスもさうであ

り、チャンピオンのバングやマイクやヤング、バングも同様であつた。ドレークはダアピ色の今少しく強いものであり。即ち濃いレヴァと白であつた。ホワイトハウスの犬はハムレットの遺傳を受けて大部分のものがレモンと白であつた。これに同色の有名な犬はスクエア、バング、バング、及ホワイトハウスのバックスやプリアムであるが、これ等は皆野外競技の優勝犬である。又黒と白との犬にも色々優秀犬がある。フランシス氏のチャングは黒と白で、野外競技の優秀犬であつた。もつとよい犬はベケツト氏のレクタであつた。この犬は見た所では稍々小さかつたが仕事にかけては非常に勝れてゐた。この犬はシ

ユリユースベリーの未成犬級競場で優勝を取り、その後續いて三年全級競場で優勝を占めた。サルタ氏のロムブは周知の如く色に於て著名のものであつた。白地に黒の斑と斑點が重く附いて居た。以上の犬よりもつと優れた犬はこれ迄の所になかつたのである。又黒のポインタにも優れたものがあつた否、現在もゐる。

高さと大きさ 大きなポインタは肩の高さが二十四吋半乃至二十五吋ある。故にチャンピオンのバングやヤング、バングは廿四吋半あり。ロイド、フライス氏のベルは廿四吋あつた。大形のポインタは凡そ牡が六十封度、牝が五十六封度。小形のものでは牡が五十四封度

牝が四十八封度である。もつと〜小さなものにだん〜大變優秀なものがある。



Photo. Ralph Robinson, Redhill.
CH. OPHIR CHIEL.

ウエスト、ハイランド、ホワイト、テリア

(ウの部)

(8) ウエスト、ハイランド、ホワイト
テリア

原産地—スコットランド サイズ。小型
用途—土 獵 (家庭の小伴侶にもよい)
◎權威のクラブ。ザ、ウエスト、ハイランド
ホワイト、テリア、クラブ (英國)。

標準

全 貌 本種の全貌は小さな、獵好き、頑丈なテリアと云ふべきで、「腕白兒」のやうに少からざる自尊心を持つてゐる。頑丈

な骨組と深い胸と肋、並に直い背と力強の後
軀を肉附のよい脚の上に載せ、體力と活動
力との著しき結び付きを現はしてゐる。

毛色 は白。

被毛 は極めて大切であるが完全なものが
少い。二重毛でなくてはならぬ。上毛は剛き
毛で出来、長さ二吋半にして少しも捲いてゐ
ない。下毛は鼠の毛皮に似てゐて短くて柔
かく且ツ密である。散毛は排斥すべきであ
る。

大さ 體重は牡十四封度乃至十八封度、牝
は十二封度乃至十六封度であつて、肩の高さ
は八吋から十二吋の間である。

頭蓋 は強力なる顎に釣合ふべきで、あ

犬の體の割合に大きい。鼻と口中の上蓋は
極めて黒くなくてはならぬ。

耳 は小さく、立耳か半立耳であつて決し
て垂れずしてしつかりと持ち上げて居る。半
立耳のものは先が美しく垂れて、その折目は
下から四分ノ三の所である。立耳のものも半
立耳のものも先が鋭く尖つてゐる。先の圓い
廣い、大きな耳は排斥すべきであり。又あま
り重く毛の生えて居るものもいけない。
頸 は肉附がよくて、傾いてゐる肩に美し
く附いてゐる。

胸 は極めて深く、犬の割合には廣い。
胸 は小じんまりとして背は直い。平た
く見える肋の上半部はよくアーチしてゐる。

まり狭くてはいけない。割合に長くて僅に圓
屋根形になつて居り、漸次眼の方に尖つてゐ
る。眼の間には僅かのストップがある。眉
は重く。頭蓋の毛は四分の三吋乃至一吋で
可なり剛い。

眼 は廣く離れて居り。程よき大さで、暗
きはしばみ色である。僅に凹んで重き眉の下
から見らるる鋭さと賢さとは宛も射るやうな
觀を與へる。張り切つた眼や淡色の眼は甚し
く排斥すべきである。

鼻口部 は力強く、長さは釣合よく鼻の方
へ漸次尖つて居る。鼻は可なり廣く而も上
唇の前方に突き出てゐない。顎は上下よく
揃ひ力が強い。齒列は四角でよく揃つてゐて

腰は強く直い。後軀は強く、肉附がよく
そして上部は廣くなつてゐる。

脚と足 前後共に短かくて、筋に富んでゐ
る。肩胛骨は割合に廣くてよく後方に傾い
てゐる。犬が歩むとき肩胛骨の動くのが見え
るやうに、肩胛骨の先は背骨にきつしり接合
してゐる。兩肘は犬が立つて居るときも歩
むときも近く寄つて居る。従つて兩前脚は肩
の下に具合よく附いてゐる。前脚は眞直で
なくてはいならぬ。そして短き剛き毛を以て厚
く被はれてゐる。後脚は短かくて臙がよく
發達してゐる。腿は極めて肉附がよくて互
にあまり廣く離れてゐない。飛節は曲つて
ゐて、立つてゐるときでも、歩むときでも、

走るときでも可なり互に近接するやうに體の下によく置かれてゐる。犬が立つてゐるときは後脚は飛節以下足頸關節迄は垂直であつて甚しく離れてはならぬ。後足よりも大なる前足は圓くて、犬の大きさに釣合ひ、強くて足裏が厚い。これは短き剛き毛で被はれてゐる。足は前方に向かねばならぬ。後足はより小さく、前脚のものやうに圓くない。その足裏は厚い。足裏の下の表面もどの爪も著しく黒くなくてはならぬ。牛飛節は全貌を害する。又直飛節は弱いものである。この兩種の飛節は好ましくないから、これに陥らぬやうに保護せなければならぬ。

尾は長さが六寸か七寸で、剛き毛で被は

れ、飾毛をもたない。尾は出来るだけ眞直であること。輕快に保つべきであるが背の上に捲いてはならぬ。長い尾は排斥すべきである。

動作は自由で、眞直で、どちらへ動くのも容易である。前脚は肩に依つて前方に自由伸ばされ、後脚の運動は自由で強くそれで互に近接して居る。飛節は自由に屈撓し體の下に近く引きよせられる。足が地を離れると體は或力を以て前方に抛り出され突進められる。後の方へ竹馬のやうな運動をする。後膝は極めて排斥すべきである。

缺陷 被毛……絹絲狀のもの、ウエーヴしたもの、捲毛の傾あるものは散毛と共に嚴し

く罰點を受ける。黒と灰色の毛は競争には失格である。大き……體重の極限よりも大なるものも小なるものも排斥すべきである。

眼……張り切つたもの又は淡色のもの。

耳……先の圓いもの、垂れ耳、廣く大なるもの又はあまりにも重く毛の生えたもの。

鼻口部……上長又は下長の顎と衰損したる齒を持つもの。

評點規尺

全貌	5
毛色	10
被毛	10
大きさ	7½
頭蓋	7½
眼	5
鼻口部	5
耳	5
顎	7½
胸	7½
胴	10
脚と足	7½
尾	5
運動	7½
合計	100



Photo. Hedges, Latham.
CHAMPION JOEKIN.

ウエルシュ、テリア

(9) ウエルシュ、テリア

原産地—ウエルルス、サイズ—小型の大、用途—土、獵（家庭の伴侶にもよい）
◎權威のクラブ。ザ、ウエルシュ、テリア、クラブ（英國）。一八八五年本種のクラブが創設せらるる前には「ブラツク、エンド、タン、ワイア、ヘアード、テリア」と呼ばれて居た。

標準

頭 頭蓋は平くなくはならぬ。兩耳の間隔はワイア、ヘアード、フォックス、テリアよりもむしろ廣い。顎は力強く、すつきり削

られて居り、普通のフォックステリアよりもむしろ深く且つ咬む力が強くなくてはならぬ。それで頭はヨリ多く肉附があるやうに見える。ストツプはあまり際立て居ない。ストツプから鼻先までの長さは可なり長い鼻は黒色である。
耳 はV字形で小さくなくてはならぬ。あまり薄くはない。可なり高く附いて前向きに保ち頬に接着して居る。
眼 は小さくなくてはならぬ。頭蓋にあまり深くはまり込んでも居ないし又飛出して居ない。色は暗きはしばみ色で、表情に富み、勇敢そのものであることを表さねばならぬ。

頸 是は適度の長さを持たねばならぬ。僅にアーチして肩の方へ優美に傾斜して居る。
胴 背は短くて、肋はよく組み上つてゐなければならぬ。腰は強く。胴の深さは程よく、胸の廣さは適度である。肩は長くなくてはならぬ。傾斜して具合よく後方に附いて居る。後軀は強くなくてはならぬ。飛節は肉附がよく充分な長さを持つこと。飛節は適度に直くて、よく低下し、可なり骨に富んでゐること。尾は適度に高く附いてゐなければならぬが、あまり輕快に保持するのはいけない。
脚と足 脚は眞直で、肉附がよくなくてはならぬ。上の部分にも散にも骨が豊富である

こま。足は小さくて、圓く、猫の足のやうでなくてはならぬ。
 被毛はワイアで剛く、極めて密接して豊富でなくてはならぬ。
 毛色 黒と黄褐色或は濃暗鐵灰色と黄褐色でなくてはならぬ。タンの部分には黒の横線がないこと。

大小 肩の高さ牡にありては十五吋、牝はその割合で少し小さい。體重は作業に適合のよい状態にて平均二十封度。しかし一封内外は變化するものである。

頭と頸.....	10
耳.....	5
眼.....	5
頸と肩.....	10
胴.....	10
腰と後軀.....	10
脚と足.....	10
被毛.....	15
毛色.....	5
尾.....	5
全貌.....	15
計	100

編者曰く……毛色に於て「タンの部に黒の横線がないこと」といふは、元來短毛のブラツク、エンド、タン、テリア種の足にはペンシル、マークと呼ばれる、黒線があるのであるが本種はそのマークがあつてはいけないと云ふ意味である。……(60)を参照せよ。

一寸エアデールを半分程小さくした犬である。我國のエアデールにはこの雜種がある。

(10) ウルフハウンド

(1)のアイリッシュユ、ウルフハウンドを見よ。

(エの部)

(11) エアデール、テリア

原産地—北部イングランド、サイズ
 中型の中 用途—軍用、警察用、鳥
 獣獵、その他水陸の諸作業及護身番
 犬に適す。

◎權威のクラブ。ザ、サウス、オブ、
 イングランド、エアデール、テリア、
 クラブ及ミッドランド、カウンチース、
 エアデール、テリア、クラブ(以上英
 國)、全日本エーヤデール、テリヤ、ク
 ラブ、帝國軍人犬協會等。



Photo. Hodges, Latham.

BROWNFIELD BRIGAND.

エアデール、テリア

標準（主として軍用警察犬としての規定）

性格 從順 忠實にして智勇を兼備し。感覺鋭敏、警戒心に富むも徒に興奮することなし。

全貌 肩の高さと軀幹の長さと同等に於て各部の釣合よし。筋肉硬くしてよく緊張す。動作敏捷にして歩様軽快なり。本種の具備すべき性格は眼の表情と耳及尾の保持法とに依つて完全に表現せられねばならぬ。

頭 頭は長く、頭蓋は扁平にして敏なし。兩耳の間隔はあまり廣くなく眼に近づくに従ひ僅に狭くなる。ストップは殆ど見えずして、頬は張り出ない。顎は深くして強い。

眼の前方は十分に豊である。眼は小さくして暗色の張り出ることなくして十分テリア種獨特の相を持つ。耳はV字形にして側方に保持して小なり。而も犬の割合に比べて小さくない。唇は引張り、齒は強大にして、上下よく揃ふ。鼻は黒色である。

頸と肩 頸は適度の長さで厚さを有ち、肩の方に至るに従ひ漸次廣くなる。喉垂皮を保持し、肩は長くして背の方によく傾き、肩胛骨は扁平である。

胴と胸 背は短く直くして強い。胸は十分深きも胸前は廣くない。肋はよく張つて後方に組上がる。後軀 腰と尻とは強く水平である。臀は

強筋に富む。尾は附根高く、輕快に保つべきも背の上に捲かない。尾は斷尾するを例にす。

脚と足 前後脚とも骨に富み。前脚は眞直に立ち、且つ趾先で立たねばならぬ。後脚は飛節よく低下し、後膝と飛節とは共に良好なる角度を保つ。後から見て左右に偏してゐない。足は小さくして圓い。趾は程よくアイチして互に密接して居る。足裏は深くして硬く、爪は黒か褐色である。

被毛 は二重毛にして密生し體の各部を完全に被ふ。上毛は剛きワイア毛にして眞の捲毛又は波状毛ではない。長さは適度である。下毛は脂ぎつたる綿毛が密生してゐる。

ければならぬ。

毛色 黒と帶黃褐色或は濃暗鐵灰色と帶黃褐色との二種に限る。兩種とも頸より背を経て尾端に至る上面及その側面を除く他の部分は帶黃褐色である。しかし耳、頬、頬には暗きぼかしを有つ。白毛は凡てこれを忌むも、胸前にある小さなもの限りこれを許す。

大きさ 牡は肩の高さ五十八糎乃至六十三糎（體重は約二十一疋）。牝は肩の高さ五十六糎乃至五十九糎（體重は約十九疋）とす。



MIRKEL OF THE HOLLOW.
エルク、ハウンド

全貌 中型犬で、尖つた耳としつかり捲いた尾と天候に抗堪する深い被毛とを持つ、小じんまりした體格の極めて美しい男性的の獵犬である。この犬は長背ではいけない。しかし、深い胸とよく張つた肋と強い頸と頑

標準

原産地—スカンディナヴィア サイズ—
中型の中 用途—獸獵
權威のクラブ。エルクハウンド、クラブ（原産國）。ブリツチシユ、エルクハウンド、ソサイテイ（英國）。

(12) エルクハウンド

評點規尺

綜合 { 性格10 均齊 5 }
 { 筋骨 5 運動 5 }35
 { 健康 5 大き 5 }

各部（標準に合するを要す）
頭 { 頭蓋2 耳2 眼3 }15
 { 顎 3 鼻2 齒3 }
前軀（頸3 肩3 前脚・足7）...13
中軀（胸5 背3 腰6 腹2）...13
後軀（臀部5 尾3 後脚・足7）...15
被毛（組織 8 色 1）..... 9

65

合計 100

編者曰く……本種の大きさと評點規尺に就ては各俱樂部に依つて多少觀點を異にするも、軍用、警察用等の使役犬としては前掲のものを最も適當なりと信ず。
家庭の犬として極めて飼ひよい第一流の護身番犬である。——病氣をすることが少い。無駄吠えをしないが必要のときは猛烈にやる。主人の命令をよく聞き分ける。平素は狭い庭でおとなしくしてゐるが、散歩の時はいき／＼して行動する。他の犬にけんかを仕向けないが、先方からかかつて来ればグレートデンにさへひげをとらぬ。——特に血種に注意せよ。

丈な四肢とを以て彈性ある曲折の運動をなすことが出来ねばならぬ。

頭 は容量に富み、深くして楔状である。

兩耳の間隔は適度に廣くて傾斜をなして居るが、頭蓋は圓屋根型ではない。ストツプはよく際立つて居るがあまりはつきりしてゐない。

眼の下は豊で、鼻口部は適度の長さを以て鼻の方へ氣持よく尖つてゐる。しかし尖銳ではない。

鼻孔はその嗅覺の鋭いことを想はしむるやうに發達して居る。而も鼻は上唇よりも僅に突出してゐる。

唇は重り合ふことなく引きしまつてゐる。顎は揃つた齒と強き犬齒を具へて強い。

耳 は附根が極めて動き易く、大さは適度

で、立つて居り且つその先の方へ漸次に尖つてゐる。耳は感情を現はすときや眠つて居るときは後の方へ倒すことが出来るが、平素は直立して保持しなければならぬ。

眼 は適度の大きさできら／＼して充分の眼力を持つてゐる。眼の縁は充分に暗色を帯びてゐるが持ち上つてゐない。兩耳はあまり離るることなく、鋭く前方を見渡さねばならぬ。

狼の相貌を持つ斜な眼付は好ましくない。**頸** は力強くして、喉垂皮を持ち、長さはよく釣合ひ、よく持ち上げてゐる。

胸 は短くして、背は廣い。頸より尾に至る迄眞直である。胸はむしろ廣くて深い。

よく張つた肋を持つてゐる。腰は肉附がよく。肩は傾斜してゐる。

脚と足 前脚は長さ適度にして肘の部分が後に附いて居り、強くて眞直に、而もよき骨

を持つ。後脚は後膝が具合よき圓味を帯び。臙に富んだる飛節はよく低下するといふよりも、むしろ稍高く又甚しく曲つてゐない。

足はひきしまり、その形は卵形である。足裏は發達してゐる。爪は丈夫で堅く抜き出てゐる。

尾 は長さ適度（即ち捲かないときは飛節に達せねばならぬ）で背の上にしつかりと捲き、背の右にも左にもあまり多く出さない。尾は叢生する散毛風の毛を豊富に持つてゐる。

が叢毛尾ではない。**被毛** は短く密にして頭と足とは平滑である。胸の毛は長さが適度で生氣がある。それは厚い綿毛風の下毛と、この下毛を貫いて生えてゐる上毛で出来て居り、上毛は體より離れて散立し、その表面はむらなく揃ひ而も全然捲いてはならぬ。頸と胸の前部とは毛が長く一種の頸卷を作る。この頸卷は立つた耳と力のある眼と捲いた尾と共に比なき機敏な風を與へる。

毛色 上毛の尖端が黒色で色々のぼかしを有つ灰色である。淡灰色、狼灰色、麁灰色、茶褐色等である。不定の黒斑を有つ灰色は排斥すべきである。全黒、全茶褐色、全白の

犬は許すべきでない。背と尻に於ては長毛の表面の先は根本よりもヨリ暗色なるを常とする又耳は黒色でもよい。胸と體の下部と足とは銀白に近き淡き色でなくてはならぬ。膝から下の骸や足にはつきりした暗色のあるものは欠點であると考えねばならぬ。

性格 この犬は極めて獨立的の性格を有し不當なる神經過敏の兆候なき頑丈と、勇敢と、才智と敏感とを兼ね具へてゐる。

牝犬 は通常牡犬よりも小さく、躰重が軽く、むしろ精美の容貌を有ち、全貌に於てヨリ精細である。

缺點 上長又は下長の頸。牛脚飛節。斜に附いた眼と不當の神經過敏。

編者曰く……この犬はエルク即ち大鹿を狩するこゝが上手なので、エルクハウンドと名附けられたものである。原産地で極めて古くから飼はれとゐた土著犬で、一寸我國の日本犬といつた古風の犬である。近頃英國人に認められてぼつ／＼飼はるるやうになつた——これにつけても、我らの日本犬も早く世界的に進出せしめたい。



Photo, Sport and General. CH. BRIDAL COWH.

オールド、イングリッシュ、シーブドッグ

(オの部)

(13) オールド、イングリッシュ、シーブドッグ

原産地—イングリランド。サイズ—中型。用途—羊護犬(家庭犬としても適當)又水中作業犬や銃獵犬となる。

◎權威のクラブ。オールド、イングリッシュシーブドッグ、ソサイティ(英國)

標準

全貌 大に釣合のとれた強い小じんまりした様子の犬で、絶対に長脚でなく、全身豊富な被毛で被はれて居る。疾走に於ては極め

て弾性があるが、常歩や速歩の時は特色のある歩調をとる。吠聲は一種特別の調子で聲高いものである。凡ての方面に向けてこの犬は全然ブードルやデアハウンドの性格がなくて、極めて賢い表情を持つづんぐりした肉附のよい勞役に耐える犬である。

頭蓋 は頭腦に大なる室を與へるやうに潤大でむしろ四角張つて居る。眼の上の部分はよくアーチして居り、全部よく毛を以て被はれてゐる。

頸 は可なり長い。強くて四角に斷ち切られて居る。**ストップ**はデアハウンドの顔らしくないやうに際立つてゐる。審査員は、長い狭い頭は欠點であるとして叙上の素質に

注意を拂ふ。

眼 の色は毛色によつて變化するが、暗色か青磁色がよいとせられてゐる。

鼻 は何時も黒くて、大きく潤大である。

齒 は強大にして、よく生え揃つて正しい。

耳 は小さくて頭の側方に平たく保つてゐる。適度に毛が生えてゐる。

脚 前脚は骨が豊富で、全然眞直である。長脚に傾くことなく、中庸の高さに於て體を移動する。全部よく毛で被はれてゐる。

足 は小さくて圓い。趾はよくアーチして、足裏は厚くて固い。

尾 斷尾を要する仔犬は一寸半か二吋を殘

して切らねばならぬ。この手術は生後四日以上過ぎぬ内にすること。(編者曰く……この犬は無尾で生れるものが少くない)

頸と肩 頸は可なり長くて優美にアーチして居り、豊富なる被毛を持つてゐなければならぬ。肩は傾いて居り、その頂上は狭くなつて居る。この犬は立つてゐるとき、腰よりも肩の方が低い。

胴 はむしろ短く、極めて小じんまりとしてゐる。肋はよく張り、胸は深く潤大である。腰は極めてしつかりとしてなだらかにアーチしてゐる。それに伴つて臀は圓くて肉附がよい。飛節はよく低下し、足頭は他の部分よりも一段と厚い長い毛を以て被は

れてゐる。

被毛 は豊富でその質は可なり剛い。毛は眞直でなくて毛であるが捲いてはならぬ。下毛は手入や季節の關係で取除かれてゐないときは、防水の力ある二重毛でなくてはならぬ。

毛色 は灰色、鐵灰色、ブルー又はブルー、マイルのぼかしに白の斑点のあるものもある。若くは以上の反對のものもある。褐色或はセーブル色のぼかしは明に排斥すべきものと考へられて居り推奨すべきでない。

高さ 牡は二十二吋かそれ以上。牝は僅に低い。體型と性格と釣合とは最も肝要の

ものであるから、兎に角サイズだけでこれ等を犠牲にしてはならぬ。

頭.....	5
眼.....	5
毛色.....	10
耳.....	5
胴、腰、後軀.....	20
頸.....	10
鼻.....	5
齒.....	5
脚.....	10
頸と肩.....	10
被毛.....	15
合計	100



Champion Team of the Dumfriesshire Otterhounds.

オッターハウンド

編者曰く……この犬は露西亞のシーブドッグ即ちオツアールから出来たもので極めてよくそれに似てゐる。「オールド、イングリッシュユ」いふ名が冠せられてゐるのは羊護犬であるスコットランドのコリーやシエトランドのシーブドッグと區別する爲であつて敢て舊式の棄たれた犬といふのではない。言葉の聞き分けが上手で小兒にもやさしい。
エアデル、テリアにはこの犬の血が幾分か混じつてゐると一般に認められてゐる。

(14) オッターハウンド

原産地—英國、**サイズ**—中型の中、用途—**獸獵犬**（家庭の好伴侶）

◎權威のクラブ。ザ、オッターハウンド、クラブ（英國）

標準

頭 **ブラッドハウンド**と**フ** **オックスハウンド**の中間といはれてゐる頭はそのいづれよりも固くて角張つてゐる。適度の峯を形成くるやうに高くなつてゐるが額は狭い。

耳は長くてぶらりと垂れてゐるが、先の方までは飾毛を有つてゐない。附根が低くて頬にべつたり附いてゐる。

眼は大きく暗色で凸んで居り、特別考深い表情を持つてゐる。眼は著しく瞬膜を現はしてゐる。

鼻は大きくてよく發達し、鼻孔は擴がつてゐる。

鼻口部はワイア毛でよく保護されて居り額は深き唇を持つて力が強い。

頸は強くて肉附がよいがむしろ長い。喉垂皮は緩く變となつて居る。

胸は深く潤大であるが餘り廣くない。背は強くて廣く且つアーチしてゐる。

肩は傾斜してゐなければならぬ。前膊は實質に富んで肉附がよい。

足は可なり大きくて擴がつて居る。しつかりした足裏に強い爪は鋭い岩角に抵抗することか出来る。

尾は犬が仕事に従事してゐるときは、粗毛ウエルシュ、ハリアのやうに輕快に保つてゐる。尾は梯子の役をするやうに太くして且つ毛を以てよく被はれてゐる。

被毛は水が透らぬ様にワイアで剛く、長くして毛根が密である。

毛色は灰色、黄褐色、黄色、黒色又は紅褐の赤色で、黒や灰色が混ざつてゐる。

高さは二十二吋乃至二十四吋である。



Photo., Sport and General.
GUELDER GERON.

キースホンド

(キの部)

(15) キースホンド

原産地—和蘭陀 サイズ—中型の小、用途—小艇の番犬(家庭の伴侶としてもよい)

標準(暫定)

全貌—ホメラニアンの大形のものと思はるる犬で、小じんまりした頑丈な快活な様子を持つてゐなければならぬ。

頭—頭全體は狐型であつて、頭蓋は割合に大きく眼の前方から口先にかけて俄に尖つてゐる。小さな三角形の耳はしまりよく

立つてゐる。眼は暗色で表情に充ちてゐる。眼の周邊には淡色のぼかしを有つてゐなければならぬ。唇は引きしまつて歯はよく揃ふ。鼻は黒い。

頸と体 頸はむしろ短くよく持ち上げてゐる。背は強く短く、胴は引きしまつて肋はよく張つてゐる。胸は可なり深いが、あまり廣くはない。

後軀 腰は強く、背と尻とは具合よく接合してゐる。臀と腿とは肉附がよい。尾は附根が高く、しつかりと背の上に捲き上げてゐる。帽子の前立の如きふさふさとした飾毛は大に本種の美觀を發揮するものである。脚 前脚は長さ適度にして眞直であり、よ

き飾毛を持つ。肘はあまり張り出てゐない。後脚は腿の部分に豊富なる飾毛を持つ。後膝と飛節とは適度の角度を有ち後から見れば内方にも外方にも偏つてゐない。足は小さくよく引きしまつてゐる。

被毛 密なる二重毛で、上毛は眞直にして剛く、ばらばらに散立して居る。被毛は本種の爲極めて大切なる特徴を現はすもので、殊に頸の周圍、胸前、臀端及尾には極めて豊富なる飾毛を持たねばならぬ。

毛色 全體に狼灰色であつて淡き陰影が規則正しく體の各部に現はれてゐなければならぬ。即ち胸前、肩の後方、臀端、尾、眼の周邊には淡きぼかしを持つてゐる。



キング、チャールス、スパニエル

大きさ 牡は肩の高さ十八寸かそれよりも僅に小さく。牝は牡よりも一、二寸小さい。

(16) キング、チャールス、スパニエル

原産地—東洋(スペインを経て英國に於て完成) サイズ—トリー型 用途—トリー
◎權威のクラブ。サ、トリー、スパニエル、クラブ(英國)

標準

頭 頭蓋はよく圓屋根型になつてゐなくてはならぬ。優良血種のものには全然半球形であつて、時としては半圓形以上に發達して居り殆ど上向になつてゐる鼻に出會ふことさへもある。

眼は廣く離れてゐて、皆は顔の線に直
角で決して斜になつてゐない即ち狐の眼のや
うではいけない。眼自體が大きくて色は黒と
思はるる位暗い。瞳は尙更りこと絶對に黒い。
いつも眼の内角には何か物思ひをしてゐる様
子が見えるものがある。これは涙管の缺陷
から來るものである。

ストツブ ストツブ即ち兩眼の間の凹所は
ブルドックのやうに否、それよりもヨリ多く
際立つてゐる。或優良血種のもは小さな玉
が埋れる位深く凹んでゐる。

鼻は短くて眼の間によく上轉してゐなけ
ればならぬ。右左いづれの方へも人工的に
歪められた傾向を持たぬこと。鼻は黒色で、

ム種は時々長さ二十四時に達するものがあ
る。

大小 最も好ましき大きさは七封度乃至十封
度である。

形 この犬の小じんまりしてゐる點はパツ
グに比適するものである。被毛が長いので一
寸大きく見えるが、被毛が濡れてゐるときは
パツグに比べて小さく見える。この犬は強
い確かりした脚と短い廣い背と廣い胸を持つ
「小作り」のものであらねばならぬ。キング
チャールスは「均齊」といふことが肝要であ
るが、これに就てはあまり缺陷のあるものは
少い。

被毛 は長く、絹絲狀で、柔くて波狀をな

鼻孔は廣く深く開いてゐなければならぬ。
顎は四角で深くなくてはならぬ。下顎
は兩側縁の間が廣くて、舌の爲に又下唇の
附着の爲に充分なる餘地を與へ、齒を陰すこ
とが出来るやうになつてゐること。下顎はそ
れと同様に上轉したる上顎の端末が出會ふこ
とが出来るやうに上轉即ち「仕上げ」られて
ゐる。

耳 は地面に近づくやうに長くなくてはな
らぬ。普通大の犬にあつては先から先まで二
十寸、或は二十二寸もしくはそれ以上。耳は
頭に低く附いて居り、頬の兩側にペツたりと
垂れ、そして重き飾毛を持つてゐる。耳の様
子はブレンハイム種を第一とす。ブレンハイ

してゐなければならぬ。しかし捲いてはいけ
ない。ブレンハイム種は胸の前方迄も擴が
つてゐる豊富な鬣を持つてゐる。

飾毛は脚と足とによく現はれてゐなければな
らぬ。足の飾毛は蹠を附けてゐるかのやう
に厚い。脚の後側にも亦飾毛がよく附いてゐ
る。ブラック、エンド、タン種では耳の飾毛
は極めて長く且ツ豊富である。ブレンハイム
種よりも一吋か、それ以上も長い。尾(三
吋半から四吋の長さに切斷せらる)の飾毛は
絹絲狀でなくてはならぬ。その長さは五吋乃
至六吋で、四角な旗を作り、それを背と同
水平線よりも高く揚げてはいけない。

毛色 は種類によつて異なるブラック、エン

ド、タン種は綺麗なびかしくした黒と濃いマホガニ様の黄褐色である。眼の上のタンの点と鼻口部、胸及脚に於ける普通あるべき斑紋は必要とせられてゐる。(編者曰く……ブラツク、エンド、タンの定形模様のこと) ルビイ種は綺麗な栗色の赤である。而も赤一枚でなくてはならぬ。ブラツク、エンド、タン種の胸の黒毛中に或はルビイ種の胸の赤毛の中に於る數本の白毛は犬に厄介をかけるものであるが全然の失格ではない。胸の白き斑點又はブラツク、エンド、タン種並にルビイ種共その他の部分にある白斑は失格である。ブレインハイム種は兎に角全色であつてはならぬ即ち眞珠のやうな純白の地にびかしくする栗

毛即ちルビイの駁が大きな紋を平均に對想的に附けてゐなければならぬ。そして耳と頬とは赤で鼻から額にかけて白の流星を持ち、三日月形の曲線を描いて耳の間に終らねばならぬ。この流星の中央に額の頂上に五錢銅貨大の赤いのはつきりした斑點を持たねばならぬ。又前脚と鼻口部の白地にタンのボチ／＼の點があるものが好ましい。三毛種はブラツク、エンド、タン種のタンの部分がブレインハイム種のやうに白地であつて赤の代りに黒の紋があり、耳と耳の下面はタンの色で裏附けられてゐる。三毛種にあつてはブレインハイム種の美しき特徴である所のボチ／＼の點が一ツでもあつてはいけない。總赤のキング

チャールスは又ルビイ、スパニエルとも呼ばれ、その鼻は黒である。ルビイ種の各部の標準は唯色が異ふだけのことで、全部ブラツクエンド、タン種のもと同様である。(以上)

編者曰く……この標準書の毛色の書き方は随分混雑してゐるが、要するにキング、チャールス、スパニエルは毛色に依つて四種に別たれてゐる。(一)ブラツク、エンド、タン種―普通一般のブラツク、エンド、タンに於けると同様の定形模様を持つ。(二)ルビイ種―總栗毛である。一名ルビイ、スパニエルともいふ。(三)ブレインハイム種―白地に赤の大なる駁を持つ。(四)三毛種―白と黒とタンの三毛を持ち、眼の上の點、兩頬、耳の裏及尾の裏だけには

タンの正しき斑紋があり、その他は白地にして黒の大なる駁が散在する。本種はプリンスチャールス、スパニエルともいふ。

(クの部)

(17) グリフォン、ブラッセルズ

(61) ブラッスルズ、グリフォンを見よ……
(グリフォン、ブラッセルア、グリフォン、ベルゲス、グリフォン、ブラパンソン)



CH. RECORD OF OUBOROUGH.

グレート、デーン

(18) グレート、デーン

原産地—獨乙乃至デンマーク附近
サイズ—大型の輕重中間種 用途—獸獵
(野猪) 目下有力なる護身番犬
◎權威のクラブ。ザ、グレート、デーン、ク
ラブ(英國)。

標 準

全 貌 グレート、デーンはマスチフのや
うに重大でなく又グレイハウンドの體型に
もあまり近似つてゐない。著しく大きくて
筋肉に富んで居り、優美な體格だが強力で
ある。頭と頸とは高く、尾は背と同線上或は
これよりも僅に高く保持せねばならぬ。しか

し尾は背の上に捲くことはない。輪廓の優雅
なこと、體形の上品なことはデーンの爲最も
肝要な事である。大さは極力必要であるが、
表情の敏活と動作の活潑を具へてゐなけ
ればならぬ。それなくしてはデーンの特徴は
亡くなるのである。デーンは何所へても進み
又何事をも遂行んとする邁進と果敢の風采を
有たねばならぬ。
性格 グレート、デーンは善性で愛嬌が
あり又主人に忠實である。知らぬ人にはこの
性格を表現しない。才智があり勇敢で常に敏
活である。護身番犬としてのデーンの價値は
無比である。デーンは善く訓練すればその
取扱は容易であるが、過度に閉ぢ込めるか

鎖で繋ぎ切りにして置くとか又は逆待すれば
凶暴になるものである。
高さ 牡犬の中位の物は肩の高さ三十吋、
牝犬にあつては二十八吋である。
體重 牡犬の中位のものは百二十封度、牝
犬にあつては百封度である。特性と釣合と
を兼備してゐるものとすれば、高さと重さこ
は大なれば大なる程よい。
頭 頭全體に就ていへば、頭は極めて長く
且頸の力が強いといふ觀念を與へねばなら
ぬ。鼻口部即ち前顔部は廣くて、頭蓋は割
合に狭い。従つて頭全體は上から見ても前か
ら見ても全然同じ廣さであるやうに見える。
頭の長さ 頭の全長は犬の高さに従つ

て異ふ。肩の高さ三十二吋の犬には鼻の先より後頭部の後までの長さが十三吋といふのが恰好である。鼻の先から眼の中間点迄の長さは、眼の中間点より後頭部の後までの長さと同様に等しいか、むしろそれよりも長いのが喜ばれる。

頭蓋 は圓屋根型といふよりもむしろ平形である。輕き凹所が中央に流れて居り後頭骨の峯は高くない。眼の上に際立つた隆起即ち肩間があるが、眼の間のストツプは急劇でない。
顔 はうまく削られて前顔は長くてその深さが同じである。眼の下は押しつけたやうに見えないで豊満である。



Photo. Walter Guiser, N. H.
AZELLE VON LOHELAND OF OUBOROUGH

グレートデーンの頭部

頬の筋肉 頬の筋肉は全く平で、ふくらみ即ち頬の隆起がない。顎骨の角はよく際立つてゐる。

唇 は前面に於ては四角になつて、前顔の上の線と直角をなしてゐる。

下線 横から見た頭の下線は唇の角から顎骨の角まで殆ど一直線である。唇の鬚はあ

るが緩い皮は少しもぶら下つてゐない。
顎 下顎は殆ど上顎と揃つてゐる。兎に角

一吋の十六分の一より多くは突出してゐない。
鼻と鼻孔 鼻梁は極めて廣い。鼻の軟骨が

骨に接合する部分に僅の稜がある(これは全く本種の特徴である)。鼻孔は大きくて廣く開いてゐる。それで鼻はづんぐりしたやうに

見える。 **バツタフライ** 或は肉色鼻は **ハール**

クイン種 に限り排斥すべきでない。
耳 は小さくて頭蓋に高く付き、僅に立つ

てその尖端は前方に垂れてゐる。
頸 は頭に亞いて主なる特徴の一である。

頸は長くてよく **アイチ** し、全くすつきりして皮に緩みがない。蛇の頸のやうによく持ち

上げて居り、肩に具合よく接合して頭と頸との連接部は明瞭である。

肩 は筋肉に富むも過重でない。又よく後に傾斜し、肘は體の下に具合よく附いてゐる即ち前から見れば犬はあまり廣く立つてゐないことになる。
前脚と足 前脚は全然真直であり、太き平

な骨を持つてゐる。足は大きくて圓い。趾はよくアーチして互に密接してゐる。爪は強くて曲つてゐる。胸は深くよく張つた肋を持つてゐる。腹はよく引き上つてゐる。背と腰 背と腰とは強くて、腰はグレーハウンドのやうに僅にアーチしてゐる。後軀 臀と腿とは非常に肉附がよく、いかにも大なる體力と疾走する能力がある感じを表はす。下腿はグレーハウンドのやうに長くてよく發達してゐる。飛節はよく低下し内にも外にも向いてゐない。尾は根本が強く先は精細に尖つて居り、飛節の所までか又はそのすぐ下の所まで届

く。尾は犬が行動するときには、背と同線上に揚げその先の方に少しく曲ける。しかし、背の上に曲げてはならぬ。被毛 毛は短くて密で、すべ／＼して見える。どんな折でも粗糙の傾があつてはならぬ。歩様と行動 歩様はしなやかで撥ね上つて自由に歩く。行動は高い。飛節は極めて自由に動き頸は持ち上げる。色 は虎毛、黄褐色、ブルー、黒又はハールクインである。ハールクインは純白の白地に濃黒の斑紋と點とを持つべきで、灰色の斑紋は望ましくないが許されてゐる。しかし黄褐色や虎毛の陰影のあるものは排斥すべきである。



CH. DEWEY OF DEVOIR.

グレイハウンド

(19) グレイハウンド

原産地—元祖はエチプト方面（英國にて洗練）—サイズ—大型の輕種。用途—競走及獸獵（整飾的伴侶犬）◎權威のクラブ。ザ、グレイハウンド、クラブ及ザ、ナショナル、コーシング、クラブ（以上英國）

標 準

頭は長くして狭い而も頭蓋は腦髓に大きな室を與ふる爲に僅にヨリ廣い。唇には垂皮なくしつかりと結んでゐる。眼は輝い

て才智を現はしその色は暗色である。
耳は小さくてその質は精緻で、半立である。

歯は極めて強くよく揃つてゐる。衰へたものや腐蝕したものはいけない。

頸は長くて喉垂皮はない。しかし肉附はよい。

肩は肩の方へよく引けて居り、可なり肉附がよいが重みを負ふてゐない。

前脚は全然真直で、肩に具合よく附いてゐる。骸は強く又趾はよく出来上り互に密接してゐる。

胸は極めて深く、その肋はよく張つてゐる。背と腰とは肉附がよく脇腹はよく切

れ上つてゐる。

後軀 臀は廣くてよく低下してゐる。飛節はよく曲り地面に近く下腿は肉附がよい。

それは大なる推進力を表すものである。尾は長く精細でありその先は尖つて全體僅に上の方へ彎つてゐる。

被毛 毛はその組織が可なり精細である。重さ 牝の理想の體重は六十封度乃至六十

五封度。牝は五十五封度乃至六十封度である。

評點規尺

釣合と質	10
頭と頸	20
胸と肩	20
背	10
後軀	20
脚と足	20
合計	100



Photo. Thos. Fall. SHINNEL HARMONY.

ケイアン、テリア

(ケ の 部)

(20) ケイアン、テリア

原産地—スコットランド

サイズ—小型。

用途—土 獵 (家庭の小伴侶)

◎權威のクラブ。ザ、ケイアン、テリア、クラブ (英國)。

標 準

全 貌 活潑で獵好きの、強壯で彪々の外観を持つてゐる。小つまりの結構であるが強い前足にて前の方へよく立たねばならぬ。

後軀が強く、肋は深い。運動は極めて自由自在。被毛は雨に堪え得るやうに剛い。頭は小さいが體に釣合つてゐる。大體狐の風毛を持つてゐる。この作業テリアの主なる特徴である。

頭蓋 は割合に廣い。顎は強いがあまり長くも重くもない。兩眼の間には際立つた凹痕がある。額の被毛は豊富でなくてはならぬ。

鼻口部 は力強いが重くはない。顎は極めて強く、大きな齒を持つてゐる。顎は上長又は下長ではないけない。

眼 兩眼は廣く離れてゐる。大さは適度である。暗きはしばみ色で、毛の眉を持つて

い。しかし前足は僅に外方に向いてゐる。前足は後足よりも大きい。脚は剛い毛を以て被はれてゐなければならぬ。足裏は厚くて強くなくてはならぬ。薄い馳のやうな足は排斥すべきである。

被毛 は極めて肝要である。豊富で剛い二重毛でなくてはならぬ。しかし、上毛は粗糙ではないけない。下毛は毛皮のやうで、短くて柔く密である。散毛は排斥すべきである。頭は具合よく毛で調へられてゐなければならぬ。

毛色 赤、砂色、灰色、虎毛又は黒がかつたもの等。耳や鼻口部に暗色の斑紋があるものは模範的のものである。

むしろ落ち込んでゐる。

耳 は小さくて尖つて居り、よく保持して立つてゐるが、あまり兩耳は接近してはゐない。

尾 は短くて、毛を以てよく調へられてゐるが、飾毛を付けてゐない。輕快に保つてゐるが背の方へ捲きおろしてはいけない。

胴 は小じんまりで、背は直ぐ、肋はよく張つてゐる。臆は強い。後軀は極めて強い。背の長さは適度であつてひきしまつてゐる。

肩、脚、足 傾斜する肩と適度の長さの脚を持つ。骨は發達してゐるがあまり過大でない。前脚は肘のところを外方に出てゐない。

体重 牡は十四封度乃至十六封度。牝は十一封度乃至十四封度。

最も良好な古きタイプを維持せんとするには、現代のスコツチシュ、テリアと交雑することは排斥すべきものと考へねばならぬ。…

(编者曰ふ…元はスコツチシュを交雑したものである。)

缺陷 **鼻口部** 上長又は下長。 **眼** 一あまり飛び出てゐるもの又はあまり淡色のものはいけない。

耳 一あまり大なるもの又は先の圓いもの、耳はあまり重く毛を付けてゐてはいけない。 **被毛** 絹絲狀又は捲毛は排斥すべきもので、僅に波狀をなしてゐるものは許される。

鼻—肉色或は淡色のものは最も排斥すべきものである。

評點規尺

頭蓋	5
鼻口部	10
眼	5
耳	5
胴	20
肩、脚、足	20
尾	5
全貌(大きさ・被毛)	30
合計	100

編者曰く……この標準書には可なり異議がある……「體が小つまりである」といふが稍長い方がよい。それは岩穴に這入るに都合



Photo., Thos. Fall, CH. PRINCETON SORLEY BOY.

ケーリ、ブルウ、テリア

がよいからである。(二)「頭蓋は割合に廣い。顎は……長くない」といふが、一般に作業テリアの頭は頭蓋が狭くして平たく、顎は長いのがよいと承認せられてゐる。(三)「眼の大きさは適度である」といふが作業テリアとしては眼は小さくひつこんだものがよいはずである。(四)「あまり兩耳は接近してゐない」とあるが兩耳は接近して緊肅してゐる方がよい。驢馬の耳の如きはケイアンには忌むべきであらう。(五)「脚の骨は……あまり過大でない」といふが大なるだけよいわけではないか等……

(21) ケーリ、ブルウ、テリア

原産地—アイルランド(ケーリ地方)

サイズ—中型の小。用途—水獸獵、銃獵(又家庭の伴侶)

◎權威のクラブ。ザ、オール、アイルランドケーリ、ブルウ、クラブ及ザ、ケーリ、ブルウ、クラブ、オブ、イングランド。本種の起源はよくは判らないが、英國ケネル、クラブの品評會に出陳せられたのは今より約十年前(一九二二年)。

標準

體重 充分成長した牡の最も好ましき體重

は三十三封度乃至三十七封度。牝はその割合に少し軽い。しかしこの犬は三十五封度といふ所がよいものとして狙はれてゐる。

高さ 肩の高さ牡は十八寸。牝はそれよりも僅に低い。

被毛 は柔かで、豊富で、波状をなしてゐる。

頭 は強くてよく釣合がとれてゐる。毛が豊富で、ストツプは僅に見え、前顔は程よく長く、顎は強くて肉附がよい。鼻は黒く、鼻孔は大きく広い。歯はよく揃ひ、大きくて白い。歯齦ミ口蓋とは暗色であつて、特に歯の上の方に暗色の線がある。耳はあまり大きくなく、具合よく保持してゐる。

眼 は暗色即ちはしばみ色のやうに暗い。大きさは中等で、張り出てゐないで程よく附いてゐる。

頸 は釣合がとれてゐて、具合よく肩へ附いてゐる。長さは適度である。

肩と前軀 肩は精美で胴の方へ傾いてよく接合してゐる。胸は深くて廣さは中位である。

脚 前脚は真直で、骨は充分である。足は小じんまりして、足裏は強くて圓い。爪は黒い。

背 は長さが中等で、腰が伸んでゐない。肋 はよく張つてゐる。

腿 は肉附がよくて、よく發達して居り、

飛節は強い。

尾 は具合よく附ひて、輕快に保持してゐる。

毛色 色々の影のある淡いブルウ乃至暗いブルウ。頭と脚に於ける小さなタン色は幼犬には許さるべきである。成犬には胸にある眞に小さな白は當分許されてもよい。クラブの目的はこのあしき遺傳を取り去るべきである。審査員は胸にある僅の白毛を以て失格とする事が出来ないと共に、これはタンの毛と同様好ましくなく又罰點を附すべきである。全般の結構と性格 典型的のブルウ、テリアは眞直に立つて居り、關節の接合がかつちりとして、均齊がとれてゐなければならぬ。

これに依つておきまりのテリアの姿勢と性格を充分に保つて、よく發達したる肉附のよいことを表さねばならぬ。

◎排斥すべき失格の點
被毛 剛きもの、ワイア毛、さら／＼する毛、あまりにも短いもの長いものは本質的に罰點を附けられる。

頭 純石竹色の口、上長又は下長の齒列は排斥せらる。しかし唯僅に上齒列が下齒列よりも出過ぎてゐるものは缺點と見られない。

眼 黄色即ちグズベリ色のもの。

脚 押し出された肘、白即ち骨色の爪、後脚の狼爪又はこれを取り去つた痕のあるもの。

前軀 狭ひ胸

背 ローチ、バック即ち四背



GULVAL BONSON.

コツカア、スパニエル

(コ の 部)

(22) コツカア、スパニエル

原産地—イギリス、サイズ—中型の小
用途—銃獵(家庭の愛物にもよい)
◎權威のクラブ。ザ、スパニエル、クラブ及
ザ、コツカア、スパニエル、クラブ(英國)。

標 準

頭 是體の割合に左程重くない。又現代の
フィールド、スパニエルのやうに左迄後頭部
が高くない。そして程よく發達したる鼻口部
と顎とを有つてゐる。頭部は瘠せてゐるが

削り取つたやうでもなく而も克蘭バア、ス
パニエルやサセツクス、スパニエル程四角で
はない。しかし常に十分廣く、よく發達した
る鼻を現はしてゐる。額は全然滑で、ス
トツプがあまり明瞭でなく、鼻口部から頭蓋
の方へ高くなつてゐる。この頭蓋は頭腦に充
分なる室を與へる爲比較的廣く圓くて、よく
發達してゐる。
眼 是充實してゐるが突出してゐない。色は
はしばみ色即ち鶯色で、大體才智と柔和の相
を表はしてゐる。全然抜目がなく、きら／＼
して陽氣であるが、決してキング、チャール
ス、スパニエルやブレンハイム、スパニエル
のやうにきよろつかず又眼力が弱くない。

耳 是木葉型で附根が低く、耳皮は精美で
鼻の外方までは擴がらず、長き絹絲狀の毛で
よく被はれてゐる。その毛は眞直のものかそ
れとも波毛でなくてはならぬ—本格の捲毛即
ち旋毛ではない。
頸 是強く、肉附がよく、美しく傾斜して
ゐる肩に具合よく接着してゐる。
胸 (大さと釣合を含む) 胸は他種のスパ
ニエルのやうに全く長くもなく低くもない。
もつと引きしまつて各部の連接がしつかりし
てゐる。即ち體力と不撓の活動力とが體に集
中してゐる感想を與へねばならぬ。
躰重 牝牡共に約二十五封度及至二十八封
度である。兎に角、これより大きくても小さ

くても罰點を受くべきである。

鼻 はさながら本種の卓越せる嗅覺力を保證するやうに充分廣く且ツ發達してゐなければならぬ。

肩と胸 肩は傾斜して美しい。胸は深くてよく發達してゐる。しかし前脚の運動の自由を妨ぐる程廣くもなく又圓くもない。

背と腰 犬の大きさや躰重に比しては非常に強く且ツ引きしまつてゐて、僅に尾の方へ傾斜してゐる。

後軀 は廣くて、十分圓く肉附がよい。それは犬が不良の天候、凸凹ある土地、繁茂せる荆棘の中で終日最も困難な情況の下に働いてても不撓の活動力と推進力とを維持するこ

とが出来ゐる爲である。

尾 他のスパニエル種よりもつと軽く且ツ活潑であるべきコツカア、スパニエルにあつては、全スパニエル中の純血ものたる最大特長として附根は低い、その保持は僅ヨリ高くてもよいとせられてゐる。しかし決して背の線より上に向けてはならぬ。元來尾の保持が低ければ低い程その保持と動かし方がよいわけであるが、むしろ背と同線に保つべきである。作業に従事中この保持方で絶えず尾を動かしてゐるならばコツカア、スパニエルは全スパニエル種中の最も朗らかな最も陽氣のものであらう。

足と脚 この偉大な小さな獵犬に驚くべき

努力を期待する爲には、脚は骨がよく發達し飾毛に富み且つ眞直でなくてはならぬ。集中せられたる體力を支ふる爲には脚は充分短かくなくてはならぬ。しかしかの満ち〜たる活動力を殺ぐ程過短てはいけない。

足は丈夫で圓く所謂猫足である。あまり大なるものも、廣がつてゐるものも又關節の弛いものもよくない。この特種のスパニエルは胴の長き點に於ても將又肩の低き點やその他に於ても、大型のフィールド、スパニエルの系統を正確に追ふものでない。即ち背はヨリ短く、脚はむしろヨリ長くある。

被毛 は平毛か或は波毛であつて、その質は絹絲狀である。又本格の飾毛を持つてゐな

ければならぬ。決してワイヤ風、羊毛風又は捲毛ではいけない。言ひかへれば、波毛即ちセツタ風であり而も毛はあまり過多でなく又縮れてはならぬ。

全貌 大體觀た所で以上列記の諸件が確認せられねばならぬ。即ち純正なる血統ミ體型の集結で、才智、從順、善性、愛嬌及活潑等が表はれて居らねばならぬ。

(23) ゴードン、セツタ

(59) ブラック、エンド、タン、セツタを見よ。



MARIEMEAU MARY ROSE (daughter of Ch. Laund Lindrum).
Winner of 17 firsts at four shows; best Non-sporting Fuppy at Richmond
and Bournemouth Ch. Shows.

コ リ

(24) コ リ

原産地—スコットランド サイズ—中型
用途—牧羊 銃獵、軍用、護身番犬、整飾的
伴侶犬等

◎權威のクラブ。ザ、コリー、クラブ(英國)
内種—ラフ、コーテットとスムース、コーテ
ット又他にビアーデット、コリーなるものが
ある。

標 準

頭蓋 是平たく、耳の間は適度に廣くて漸
次眼の方へ尖つてゐる。ストツプは唯僅に認
められるのみ。頭蓋の廣さは頭蓋と鼻口部

とを合せた全長に比例すべきである。而もそ
の全長は犬の大きさに關係するものである。
頬は充實して居らず又突き出てもゐない。
鼻口部 は鼻先の方へ尖つてゐて可なり長
い。而も弱く見えてはならぬ。又剪み取られ
たやうでもないけなしい、たるみがあつてもい
けない。どんな毛色のものでも鼻は黒くな
ければならぬ。
齒 は大きく丈夫で、よく揃ふてゐること
しかし極めて僅の不揃は許される。
顎 はしつかりして強い。
眼 は顔貌上極めて大切のもので、よく犬
の表情を示す。眼は中等 大で稍斜に附
いて居り、巴且杏形である。眼の色はマ

ルス毛 (黄灰色に黒の交りたるもの) のもの
は別として他は凡て鳶色でなくてはならぬ。
マイルスには時々(一方或は兩方)藍と白即
ち青磁色がある。眼の表情は才智が満ち
て居り、聞き耳を立てるときは鋭敏な用心深
い相貌を表はす。
耳 は小さく、根本は適度に廣く、頭の側
面に附いてはならぬ。休むときは普通後の方
へ投げかけてゐるが、用心するときには前に
起し半立耳にする。そのとき耳の先は傾聴の
態度を示し僅に垂れるものである。
頸 は肉附がよく、力強く可なり長く、
胸 は強く、よく張つた肋と深い胸とを有

つてゐる。よく傾斜した肩の後が可なり廣く、腰は極めて力が強い。犬は前脚の上に真直に立つてゐなくてはならぬ。

前脚は真直で、肉附がよく骨が充分豊でなくてはならぬ。肘は内に向いても外に向いてもいけぬ。前腕は稍肉附がよく、骸は弱くなく而もしなやかである。

後脚は腿は筋肉に富み、飛節の下はすつきりとして腿が發達し、後膝はよく曲つてゐる。

足は卵形で、足裏はよく饅頭が出来て居り、趾はアーチ形で互に接着してゐる。後足は前足よりもアーチの度が少い。飛節は低くて力が強い。

叢毛尾 尾は過度に長く、犬が静止するとき尾の先を上の方に旋回して下げてゐるが、興奮するときは輕快に保持することが出来る。しかし背の上には揚げない。

被毛は極めて厚く、上毛は觸ればざらざらし、下毛は柔くてふわふわして密生してゐる。殆ど皮膚が見えない位密である。

と鬘縁とは極めて豊富であり、マスク即ち顔は滑で、耳もその先の方は滑だが根本の方は毛深い。前脚は飾毛がよく附いて居り後脚も飛節以上の部分は同様である。凡そ重被毛の犬は飛節以下の部にも飾毛があり勝

であるが、この犬はすつきりと滑でなくてはならぬ。尾の毛は極めて豊富でなくては

いけない。

毛色 コリーの毛色は何れでもかまはない。

一般の特性 コリーは柔軟性に富む活潑な犬である。深き胸は肺の力を現はし、力ある頸と傾斜したる肩と又よく曲つてゐる飛節とは速力の大なることを示し、而も賢らしい表情を有つてゐる。コリーはごつごつしてゐるといふよりも競走型であるからその脚は可なり長くなくてはならぬ、簡單に言ひ表せば、コリーは自由に正しく動作するとき持久力と活潑な才智とを示さねばならぬ。肩の高さは牡にあつては二十二吋乃至二十四吋、牝は二十吋乃至二十二吋である。體重は

牡は四十五封度乃至六十五封度、牝は四十封度乃至五十五封度である。

スムース、コリー 滑毛種と剛毛種の差は唯その被毛だけである。即ち滑毛種の毛は剛く、密に而も全然滑である。

主なる缺陷 避けなければならぬ主なる缺陷は……圓屋根型の頭、高く飛び出た後頭の骨、重く垂れた耳若くは突き立つた耳、弱い顎、剪み取つたやうな鼻口部、真丸いじつと見つめる眼若くは淡色の眼、曲つた脚、平たい足若くは兔足、捲いた毛若くは柔な毛、牛飛節、捻れた尾又は背の眞上に上げた尾、上下顎の長短。



Photo., Star Photos., Perth.
BALMACNEIL SCOTT.

スコツテイシユ、ピアードッド、コリー

評點規尺

頭と表情	15
耳	10
頸と肩	10
脚と足	15
後軀部	10
背と腰	10
尾	5
被毛と裝縁	20
大きさ	5
合計	100

編者曰く……ピアードッド、コリーは口ひげを持つてゐるからかく名けられた一種であるが、その體形は右標準のコリーとは異なり、むしろ、オールド、イングリッシュ、シーブドックに似た犬である。即ち彪々の被毛と方形體型を有つてゐる。しかしその尾の様

子は右の標準通りで普通のコリーに同じである。性質はその容貌の粗野なるにもかゝらず極めて柔和で従順である。

今日では作業コリーと觀賞コリーとは別々のものとして區別せられてゐる。作業コリーの最も優秀なるのは舊型の黒白種である。それに亞いではスムース種。ピアードッド種も或地方では賞用せられてゐる。

(25) ゴールデン、リトリヴァ

原産地一露國（英國に於て近年洗鍊）

標準

左の各號を除いてはフラット、コーテッドリトリヴァに同じ……(78)を見よ。

- (一) 毛色は黄金色である。
- (二) 耳はヨリ大である。
- (三) 眼の色がヨリ淡い。



Photo., Thor, Fall.
CHAMPION WINTER.

サモエド

(サの部)

(26) サモエド

原産地—露國東北部(英國に於て洗鍊)

サイズ—中型。

用途—樞犬(家庭の伴侶にも良い)

◎權威のクラブ。ザ、サモエド、クラブ
(英國)。

標準

全貌 サモエドは當然作業犬であるから強く活潑でなくてはならぬ。而も優雅である。沍寒の中で作業に従事するので、その被

毛は厚くて天候に抗堪するものでなくてはならぬ。サモエドが正當の仕事をする爲には、弱い背は不適當であるからそれは長くてはいけない。しかしチャウ、チャウのやうなつまつた背では輓曳犬として大なる不便を來たす。本種犬の蕃殖家は恰好にして適度の背を持つものを作出することに努力しなければならぬ。詳しく言へば、胴は長くなく而も筋肉に富み、且ツ活動の自由を得せしむる爲、深い胸とよく張つた肋と強い頸、眞直な前脚と著しく強い腰とを持たねばならぬ。充分成長したる牡犬は肩の高さが凡二十一吋なくてはならぬ。胸の深きことが必要とせらるるので前脚は適度に長きことが要求せらるる。甚

しく短い脚を持つ犬は不可とせらるるのである。後軀は特別よく發達して居り、後膝はよく曲つてゐなければならぬ。不健全な後膝や牛飛節の兆候があるものは嚴格に罰點を附けられるものである。

被毛 厚くて、密な、柔かき、短い下毛とその下毛を貫いて生へてゐる剛い上毛とで體はよく被はれてゐなければならぬ。その上毛は體から離れて眞直に立つて居り、決して捲いてはならぬ。

頭 は力が強く楔形である。頭蓋は廣く平たい。鼻口部は適度の長さを持ち、前顔部は尖つて居るがあまり鋭く際立つてはゐない。耳はあまり長くなく、耳先は僅に圓

く、兩耳は互によく離れて居り、耳の内側は毛でよく被はれて居る。眼は暗色で、互によく離れ凹んで居り、敏捷と才智の相を持つてゐなければならぬ。唇は黒い。耳の前方の毛は短くて滑である。鼻と眼の縁は黒いのがよいのであるが、鳶色でも肉色でも差支ない。顎は強くよく揃つた歯を有つてゐる。

背はその長さが適度で、廣く且ツ極めて肉附がよい。胸と肋 胸は廣くて深い。肋は張ツて心臓や肺に充分なる室を與へる。後軀は極めて肉附がよく、後膝はよく低下してゐる。牛飛節や眞直い後膝は極めて



ANGEL OF AYOT.
サルーキ

て排斥すべきものである。脚は眞直で筋に富み又立派な骨を持つてゐる。足は長くて平たく且ツ僅に擴がつてゐる。足裏は毛を以てよく裏附けられてゐる。尾は長くて毛は房々し、犬が緊張するときには背の上に揚げ、休止のときは時として垂れてゐることがある。大さと重さ 牝犬は肩の高さ二十吋乃至二十二吋にして重さ四十五封度乃至五十五封度。牝犬は高さ十八吋乃至二十吋にして、重さ三十六封度乃至四十五封度である。毛色 毛は純白か、白とビスケット色か、クリーム色である。

(27) サルーキ

原産地—アラビア サイズ—中型の
輕種。用途—獸獵、競走犬、整飾
的伴侶犬。

標準 (暫定)

全貌 グレーハウンドよりも小さいが、大體グレーハウンドによく似た骨格を持つてゐる。砂漠や岩山を越えて羚羊を捕へることが出来るだけの速力と耐力を保證し而も優美と均齊とを表はさねばならぬ。

頭は狭くて長く鼻先の方へ自然に尖つてゐる。兩耳の間は比較的廣くて平である。耳は細長く完全に垂れて居り、長い絹糸状の飾毛を以て美しく飾られてゐる。眼は深くて遠視が利き、而も威嚴と柔和と忠實さを表はさねばならぬ。

頸は長く極めてよく持ち上げてゐる。胸はよく傾斜したる肩、極めて深い胸、アーチした腰、引き上つた腹を持ち、これ等の點はグレーハウンドに酷似してゐる。脚は細長く而もその臑は強くしてよく發達してゐる。前脚は眞直であり、後脚は下腿が長く各關節は速力を發揮するやうに具合よく曲つてゐる。

尾は長く垂れてゐるがその先が稍曲つてゐる。尾は細長くしてよき飾毛を有つてゐる。

被毛 全體に剛くて短い。殊に鼻口部と脚の下部の毛は極めて短くて滑である。而も耳と尾とは長き美しき絹糸状の飾毛を有たねばならぬ。これがグレーハウンドと大に異なる特徴である。

毛色 色々と變つたものがある。即ち白、クリム、赤、鹿毛、金茶、鐵灰色と黃褐色の模様、黒と黃褐色の模様及三毛等。

大さ 色々と變化してゐるが、先ツ二十五吋を狙つてゐる。

(シの部)

(28) シープドック

シードックには種々あるが、オールド、イングリッシュ、シードックは(13)を、シエトランド、シードックは(30)を、ジャーマンシードックは(31)を見よ。

(29) シーリハム、テリア

原産地—イングランド。サイズ—小型。用途—土獵(家庭の小伴侶にも良い)◎權威のクラブ。サ、シーリハム、テリア、



シーリハム、テリア

クラブ (英國)

標準

シーリハムはテリア界に於ける體力と果斷の化身といふべきものである。犬の大きさに比しては非常な實質を具へて居り而もよく釣合がとれて活潑である。

頭蓋は兩耳の間が廣く、僅に圓くなつてゐる。格段のストツプはなくて眉の間に僅の凹痕がある。顎は長く、四角で、力が強く、上下揃つてゐる。廣い鼻孔を有つてゐる大きな黒い鼻は上等の出來榮である。胸の後に尾の附根の間は比較的短い。しかし上膊骨と肩胛骨との關節から臀の後ま

で (編者曰く……肩先より臀端までの長さ) は可なり長い。それ故大なる屈撓性があるのである。胸前は比較的廣く、肋は極めて深くしてよく後方に組み上つてゐる。胸は前脚の間によく低下して心臓や肺臓に大なる室を與へてゐる (それは長時間地下に留まらねばならぬこの犬の爲に極めて肝要なことである)。

被毛 下毛は厚く、上毛は剛いワイアである。

耳 の大きさは中等大で、附根は低く、頬に密著して保持してゐる。後軀 廣くて頑丈であり、強い下腿とよく曲つた後膝とよく低下した飛節とを持つてゐる。

脚 は短く、重い骨を持つてゐる。前脚は體が兩脚の間によく低下することを許す範圍に於て極めて眞直である。足 は中等大で、厚い足裏を極めて強い爪を持つてゐる。

眼 は稍廣く離れて居り、大さは中等大で色は暗い蔦色即ち暗いしばみ色である。齒 は強くて大である。犬齒は相互に密に吻ひ合つてゐる (下顎の過長又は上顎の甚しく過長のもの極めて非難すべきである)。頸 は長さ中等で、非常に強く且ツ肉附がよい。

尾 は斷尾すべきもので、直立してゐる。毛色 全白若くは頭と耳にレモンかタンか

又は貉毛の斑のある白である。胸に斑紋のあるものは嫌はれてゐるが、失格ではない。大さ 肩の高さ十二吋以下、體重は牡犬にして十八封度乃至二十封度。牝犬は十六封度乃至十八封度である。

評規規尺

頭	10
眼	10
耳	5
頸	5
體	15
尾	2
脚	15
被毛	20
毛色	3
大さ	15
合計	100



Photo., Thos. Fall.
CH. PEABODY PANACHE.
By Downfield Olaf ex Eltham Park Estelle.
Born May 31, 1930. Fee, Four Guineas.

シエトランド、シーブドッグ

(30) シエトランド、シーブドッグ

原産地—英國シエトランド島、サイズ—小型、用途—護羊犬又は伴侶犬。

◎權威のクラブ。ザ、シエトランド、シーブドッグ、クラブ及ザ、スコツテイシユ、シエトランド、シーブドッグ、クラブ(以上英國)。

標準

そのサイズが小さい外、大體に於てコリーの各部と同じである。今その要點を掲ぐれば、全貌、人目を引く美しき容貌を持つてゐる頑丈な小型の犬である。才智と恰愼なことに於てはコリーと同じである。假令小軀に

して愛翫視されても、宛もシエトランド、ポニーが中部地方の馬に於けると同様、この犬は作業コリーの複製物として各部の審査をしなければならぬ。
頭 コリーのやうにあまり長くなく且ツ顔は驚の嘴のやうでない。耳は完全なる半立耳であつて稍大きい。しかし打ち伏せになつてゐない。耳はよい豊富な飾毛を附けてゐる。眼の大きさは頭の大さに釣合つて居り、稍巴旦杏形に傾き、宛も山鳴の眼を連想はしむるやうに柔和で圓くてきら／＼してゐる。
胴 は長くて脚の間に低下してゐる。尾は豊富な叢毛尾で美しく垂れてゐなければならぬ。

脚はむしろ短く、足は長くて飾毛を持つてゐる。
被毛 は二重で、上毛は長くて平たく絹絲狀の傾がある。頸の飾毛が特に目立てゐる。
毛色 白、黒、濃灰色の總毛のもの又は白とタン、黒とタンなぞもあるが、黒白にタンと斑紋を有つもの即ち三毛が最も美しいとせられてゐる。セイブルと白のものも亦タイピカルである。虎毛のものは全然失格とせられてゐる。
大きさ 重さは十二封度乃至十四封度にして肩の高さ約十二吋。
缺點 スミス、コート、垂耳、淡色の眼、圓屋根形の頭蓋、曲つた脚、背の上に捲き上げた尾。



VOSS V. BERN, Z.Pr.

シエバド

(31) シエバド

(アルゼーシアン、ウルフ、ドッグ、又はジャーマン、シーアドッグ)

原産地—獨逸—サイズ—中型の大用途—牧美、軍用、警察用、護身番犬等
◎權威のクラブ。獨乙—S.V.、及英國—サアルセーシアン、ウルフ、ドッグ、クラブ。日本—帝國軍用犬協會。

標準

全貌 シエバドは中等大の犬よりも僅に大きい。體は稍延びて、よく發達した筋肉を持ち力強く、輕捷である。活潑にして

注意力と鋭敏性を有つ。大さは地方に依つて多少異なるも平均肩の高さは六十糎乃至六十五糎、牝は五十五糎乃至六十糎である。油斷のないこと、忠實なこと、勉勵なこと、誘惑に陥らないこと、きびくしてゐること、が動作の上に現はれてゐなければならぬ。外形の美しいといふことも必要であるが、これが爲に作樣能力を毫も犠牲にしてはならぬ。
頭 は體の大きさに釣合ふべきであるがあまり重過ぎてはならぬ。頭はかつちりと乾燥し兩耳の間は適度に廣く、鼻の方へ尖つてゐる。ストツプは最少限である。頬は充實せず、おだやかにカーヴして圓く側方に消えて

前の方へは突き出てゐない。頭蓋は僅に盛り上つてゐて、中央は極めて僅な凹線がある。鼻梁は眞直にして額の延長線と殆ど同一線上にある。唇は固く引きしまつて齒の上に密合してゐる。齒は特に強く缺のやうに上下相吻い合ひ上齒列が過長であつてはならぬ。耳は中等大で、その根本は廣く、頭の高い所に附いてゐる。耳は鋭敏に突立つてその先は鋭く尖つて前向きである。耳の形は巴旦杏の殻を半分にしたものに似てゐる。耳の先が柔くてコリーのやうに半立のものもあるが立耳のものを生産することが望ましい。しかしこれは作業能力には何の關係もないことである。斷耳したものは垂耳のものは排斥す

べきである。眼は中等大で巴旦杏形であり少しく斜に附いてゐる。眼は突き出てゐない。その色は暗色である。眼には活潑性と理解性。他人を猥りに信ぜざることがよく表はれてゐなければならぬ。

頸 はよく發達したる筋肉を持つて強い。その長さは中等で喉垂皮はない。興奮するときは高く持ち上ぐるも平素は殆ど水平に保持する。又興奮するときには僅に鬣を起す。**胸** 胸は深いがあまり廣くない。肋は平たく腹は適度に引き上つてゐる。背は直くして強く發達してゐる。その長さは肩の高さよりも少しく長い。短背長脚の犬を生産してはならぬ。又本種は決して闘犬的體型を有つて

はいけない。作業に必要な旋回運動は後軀の諸關節の角度が良好なるに依るものである。臀は廣く肉附がよく、尻は長くして下方に下る。

尾 は厚い毛が叢生してゐる。尾の長さは飛節に届く。その先を少しく鉤状に曲げてゐるものもある。静止のときは少しく弓状をなして垂れてゐるが、興奮のときは又は行動間は強く屈曲して揚げる。しかし背と同線より高く揚げるものはよくない。先天的に斷尾したやうに短いものがあるが實用に用ひないがよい。人工的に斷尾したものはよくない。**前軀** 肩はよく後方に傾斜して、平たくてよく筋肉を附てゐるが重過ぎてはいけない。

前脚は何れの方から見ても眞直である。**後軀** 上腿は廣くて力強い筋肉を有つてゐる。後膝はよく曲り、下腿は長く、飛節はよく低下して強い。**足** は圓くて短い。趾はアーチして互に密接してゐる。足裏は固く、爪は短くて強い。爪の色は暗色である。狼爪は數々後脚に現はれるがこれは缺點ではない。しかしこれは廣踏肢勢に陥らしめ又外傷の原因をなすものであるから、生後直に切り去らねばならぬ。**被毛** 被毛の種類には短毛、粗毛、長毛の三種があるが普通多く飼はるるものは短毛種である。三種とも密毛であつて上毛はその質が硬い。短毛種の上毛は滑である。シエバ

トはどんな天候の時でも働かねばならぬから、被毛はよくこれに堪えるだけの力を持つてゐなければならぬ。**缺點** 實用上の能力を防ぐるものは……短背長脚、體の輕きに過ぐるもの又重きに過ぐるもの、軟弱な背、角度の足らない脚、骨の小さい脚、柔い被毛又は過短の被毛及下毛の不足のもの、頭の重きに過ぐるもの又深さの足らないもの、過長過短の顎又顎の弱きもの、尖り過ぎたもの、齒の鈍いもの又は弱く尖つたもの、上下の顎の長過短過不揃のもの、牛飛節、趾の廣がつたもの、垂耳又は何時も保持不具合のもの、尾の捲き上つたもの、人工的に手術した耳と尾。



CH. CHANBURN LUPIN (K.C.S.B. 120 MM)

シュナウゼル

(32) シュナウゼル

原産地—獨逸、和蘭陀、サイズ—中型の中、中型の小、小型の三種。

用途—警察犬、番犬等

◎權威のクラブ。ザ、シュナウゼル、クラブ (英國)

標準 (概要)

全貌 ボーダー、テリアによく似てゐるが、むしろテリア種の特性を持つてゐない。その體形と毛色とは人目を引き付けるもので、從順と堅忍を表はし喧嘩でない。眼と顔貌とは威嚴を示し警戒心の強い

ことを現はさねばならぬ。
頭 は長く、しつかりしてゐる。頭蓋は平たく、ストツプは軽くして額の上線は殆んど直線狀に鼻口部に移る。鼻口部は廣くして深く、剛い豊富な長い口ひげを持つてゐる。耳は垂れてゐるが、原産地では普通斷耳せらるるを例とす。眼は中等大で卵形、その色は暗色でなくてはならぬ。眉は剛い毛を以て重い。上下顎は強く、よく揃つてゐる。齒は正しくて強い。
頸 は長さ適度にして肉附がよく、よく持ち上げて僅にアーチしてゐる。
軀幹 四角な體型ではあるが小づまりのものでなく、肩の高さよりも胴の長さが僅に長

い。肩はよく後方に傾斜してゐる。胸の廣さは適度で充分深い。肋はよく張り、後軀は肉附がよくて強い。尾は短く斷ち、輕快に保存してゐる。
脚 前脚は眞直で、後脚は強く踏張り内外いづれにも偏らない。足は小さくて圓い。
被毛 は毛深くて下毛は柔い。上毛は粗剛でなくてはならぬがワイアではない。特に眉毛と口鬚は發達し、力強い風毛を發揮しなければならぬ。
毛色 は各種の陰影を持つ銀灰色又は胡椒と鹽即ち金灰色である。
大さ 肩の高さ十八吋で胴の長さ二十吋を標準とするも、大型のものはエアテール、テ

リア位、小型のものは十二吋乃至十四吋。



Photo, Walter Gayer, N. 10.
WHAT-A-GAME.

シバキ

(33) シバキ

原産地—和蘭陀 サイズ—小型。
用途—小舟の番犬又は屋内の小番犬
◎權威のクラブ。ザ、シバキ、クラブ
(英國)。

標準

頭 は狐型である。頭蓋は圓くはないが廣くてストツプは軽い。鼻口部は長さ適度にして、精美なれども弱くはない。眼の下は豐滿である。鼻は黒くて小さい。眼は暗き褐色にして小さく、圓いといふより

も卵形に近い。而も張つてはいない。輝いて生々した表情に満ちてゐる。
耳 形—適度の長さで、附根があまり廣くなく先の方へ尖つてゐる。保持しつかりした立耳。立つたままではその内側の縁は頭蓋と出来るだけ直角をなすこと、そして縦の方向には曲るこゝは出来ない程強い。
齒 は強くしてよく揃ふ。
頸 は強く豊滿、むしろ短い。肩附のところか廣くて、僅にアーチしてゐる。
肩 は肉附がよくて傾斜してゐる。
胸 は深く、胸前は廣い。
背 は短く、直く且ツ強い。
腰 は力強くして胸前の方からよく引上つ

てゐる。
前脚 は全然眞直で具合よく胴の下に附いて居り、體に釣合つた骨を持つてゐる。
後脚 は強く肉附がよく、飛節はよく低下してゐる。
足 は小さくて猫の足のやうである。趾にてよく立つてゐる。
後軀 前軀に比して精細であるが、肉附がよくてよく發達してゐる。無尾である。
尻 はよく圓味を持つて居る。
被毛 は黒色にして豊富、密にして剛い。
頭と耳と脚とはスムーズである。背及脇の毛はよく伏つてゐるが、頸のまはりの毛は立つて厚き鬣即ち頸卷を成形する。臀の端に

は飾毛を付けてゐる。
 體重は約十二封度。
 全貌 敏感な表情を持つ極めて活潑な
 小作りの犬である。居常輕捷の風采を有つて
 ゐなければならぬ。
 失格 垂れ耳又は半立耳。
 缺點 白い毛のあるものは忌むべきであ
 る。しかし失格ではない。
 編者曰く……毛色は黒でなくてはならぬが、
 毛がわりときは多少錆色を帯びることがあ
 る。

各部の對照評價

頭、鼻、眼、齒……	20
耳……	10
頸、肩、胸……	10
背、腰……	5
前脚……	5
後脚……	5
足……	5
後軀……	10
被毛と色……	20
全貌……	10

合計 100

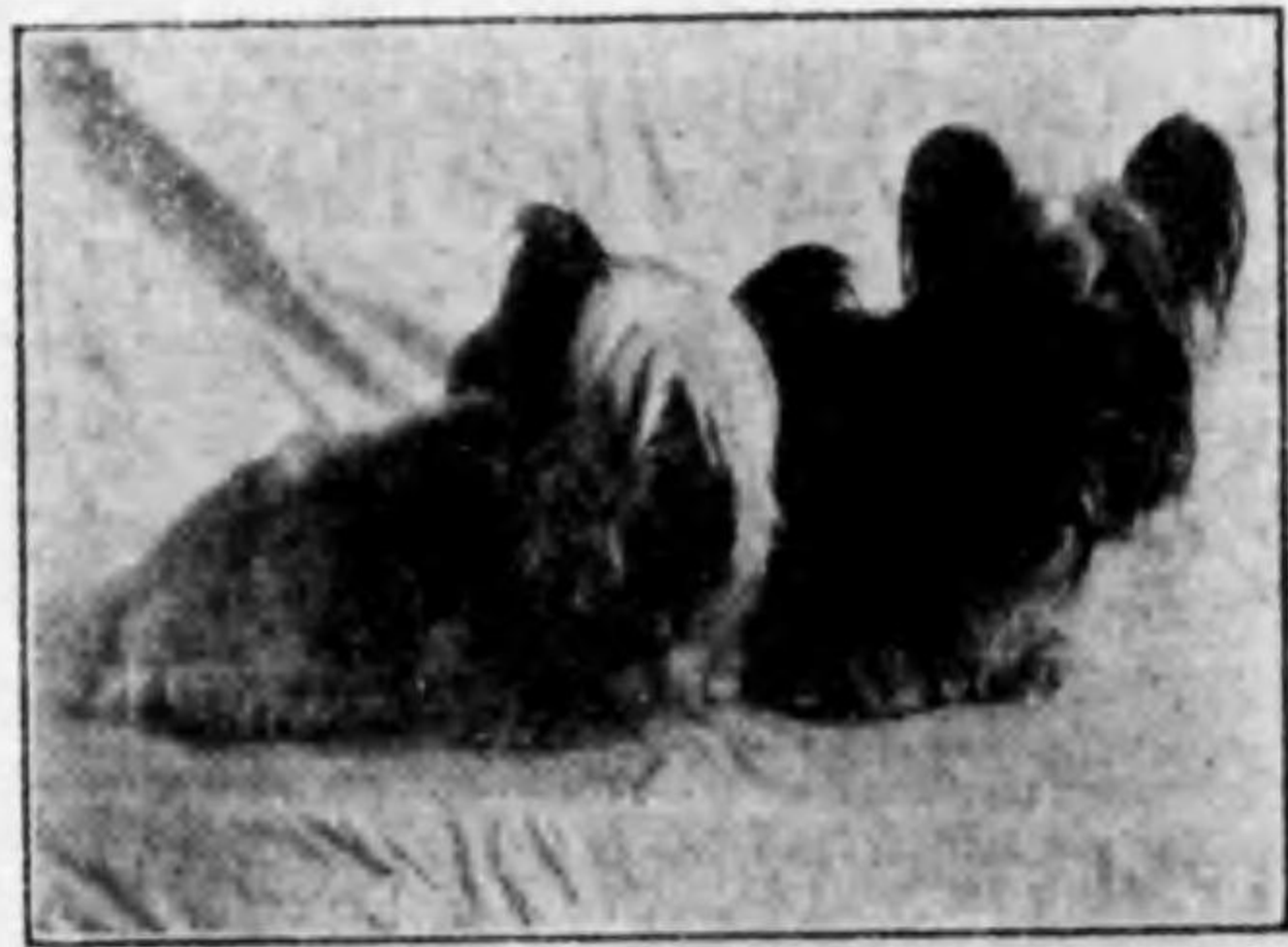


Photo., Hollanz, Warwick.

SOLLY OF MEEREND AND HIS DAM,
CHAMPION BECKY OF MEEREND.

スカイ、テリア

(スの部)

(34) スカイ、テリア

原産地—スコットランド(スカイ島)

サイズ—小型。用途—土 獵 (家庭の小

伴侶にも良い)

◎權威のクラブ。ザ、スカイ、クラブ、オブ
スコットランド及スカイ、テリア、アソシエ
ション(英國)。

標準

頭 は長い。力強い顎と密接に吻ひ合ふ齒
 を持つてゐる。頭蓋は眉の前方が廣く耳の
 間は狭い。そして眼の間とその前方に僅の凹

痕を以て鼻口部の方へ段々尖つてゐる。眼ははしばみ色で、中等大、互に近寄つてゐる。鼻口部は常に黒い。耳（立耳と垂耳）立耳のものは大きくなく、外側の縁が直立し内側は互に斜に寄つてゐる。垂耳のものはヨリ大きくて、垂直にべつたりと垂れ前に寄つてゐる。

胸は極めて長くて低い。肩は廣く、胸は深く、肋はよく張り側面に平な觀を與へ卵形をなしてゐる。後軀と脇腹は充實してよく發達してゐる。背は水平で、僅に腰角から肩の方へ傾いてゐる。頸は長くてなだらかにアーチしてゐる。

尾垂れてゐるときは——上半部は垂直で

下半部は後方に曲けて投げてゐる。揚げてゐるときは——背の傾きの延線上に伸ばし、それよりも高くは上げず又捲きもしない。

脚は短くて真直で肉附がよい。狼爪はない。足は大きくて前方に向いてゐる。

被毛（二重）下毛は短くて、密で、柔かく羊毛風である。上毛は長く平均五吋半、剛くて真直で、平たく、縮れても捲いてもぬない。頭の上の毛はヨリ短く、ヨリ柔らかく、前顔や眼に覆ひかぶさつてゐる。耳の毛は内側に垂れ、側方に房毛を垂れてゐるが飾毛のやうに耳を圍み而も耳の形が見えるやうになつてゐる。尾も亦優美に飾毛を附けてゐる。

毛色（二種とも）暗いかそれとも淡いブルウ即ち灰色、黒い點を持つ鹿毛。頭と脚の影は胸の毛色に近い。

大さ（ザ、スカイ、クラブ、オブ、スコットランドの説明） 牡は肩の高さ九吋
長さ—頭蓋の後から尾の根まで二十二吋
半、鼻口部から頭蓋の後まで八吋半、尾の根より先まで九吋——合計四十吋。牝は僅に少

い。
平均體重—牡は十八封度、牝は十六封度。牡は二十封度を越えず又十封度より小さくはない。牝は十八封度を越えず又十四封度より小さくはない。（以上）

編者曰く……スカイ、テリアには立耳のものゝと垂耳のものゝの二種あるが、耳を除いては他の各點は同一標準である。垂耳のものは縦に折目があつてはいけない。

毛色は普通スレート色のものが多い。鹿毛色のものは少い。耳と鼻口部と尾の先は黒くて頭蓋と脚とは胸と同じ度合の色を持つわけである。



DOMINO OF DELBROOKE.

スコッティッシュ、テリア

(35) スコッティッシュ、テリア

原産地—スコットランド サイズ—小型。
用途—土 獵 (家庭の小伴侶にもよい)
◎權威のクラブ。ザ、スコッティッシュ、テリア、クラブ (英國)。

標 準

頭蓋 是比较的長く、僅に圓屋根型をなし長さ約四分の三寸の剛い毛を以て被はれてゐる。頭蓋は兩眼の間に一種のストツプ即ち凹痕を持つてゐるので全然平たくはない。
鼻口部 是極めて強く、段々鼻の方へ尖つてゐる。鼻は黒色で程よき大きさである。

顎は上下共完全に揃ひ、鼻が口よりも稍突き出てるので宛も上顎が長い感じがするが齒列は正しいのである。
眼 色は暗き褐色即ちはしばみ色である。眼は小さく、鋭く極めてきら／＼しむしろ凹んでゐる。
耳 は極めて小さく、立耳か半立耳である。(立耳の方がよい) 決して垂れてはいけない。耳は先が尖つて毛は長くなく天鵞絨のやうである。耳は切つてはならぬ。耳は先の部分に縁飾が附いていない。
頸 は短く、厚く、肉附がよく。肩に強く附いてゐる。肩は傾斜してゐる。
胸 は犬の大きさに比しし廣く又比較的に深

い。
胴 是適度に長い、スカイ、テリアのやうに長くはない。むしろ平肋で、肋はよく後方に組み上つてゐる。後軀は極めて強い。
脚と足 前後兩脚共に短く、極めて重い骨を持つてゐる。前脚は眞直で體の下に具合よく附いてゐる。即ちスコッティッシュ、テリアは肘が外に出てゐない。飛節はよく曲り、腿は極めて肉附がよく、足は強くて小さく且ツ短い毛で厚く被はれてゐる。前の足は後足よりも長い。
尾 是長さ約七寸で、斷尾することなく、僅に曲げて往々輕快に保持してゐる。
被毛 毛はむしろ短い (約二寸) その質は

極度に剛く且ツワイアである。體全體に濃密である。

大さ 重さ十五封度乃至二十封度である。作業の爲に最もよい重さは牡十八封度。牝十六封度に可成近いがよい。

毛色 鋼鐵色即ち鐵灰色、黒虎毛、鳶虎毛、灰虎毛、黒、砂色及麥藁色である。白き斑あるものは非難すべきもので、唯胸だけは差支ない。而も小なものに限る。

全貌 顔貌は極めて鋭く、輝いた活潑な形相を持つ。頭は昂起してゐる。この犬は(被毛の短い關係で)實際よりも高さが高く見えるが、小じんまりして後軀は肉附がよくなくてはならぬ。事實スコツテイシュ、

テリアなるものは本質的に一のテリアであるが、あまりにも十把一とからげに考へてはならぬ。肩の高さは九吋乃至十二吋でなくてはならぬ。

特別の缺點 鼻口部 上下顎いづれか過長過短のもの。

眼 の大なるもの又は淡色のもの。

耳 大なるもの、先の圓きもの又は垂耳

又あまりに澤山の毛で重く被はれてゐるものも同様缺點とす。

脚 曲つたもの又は僅に曲つたもの、肘の外方に出たもの。

被毛 絹絲狀のもの、波毛のもの若くは捲毛の傾きあるものはいづれも散毛と同じく

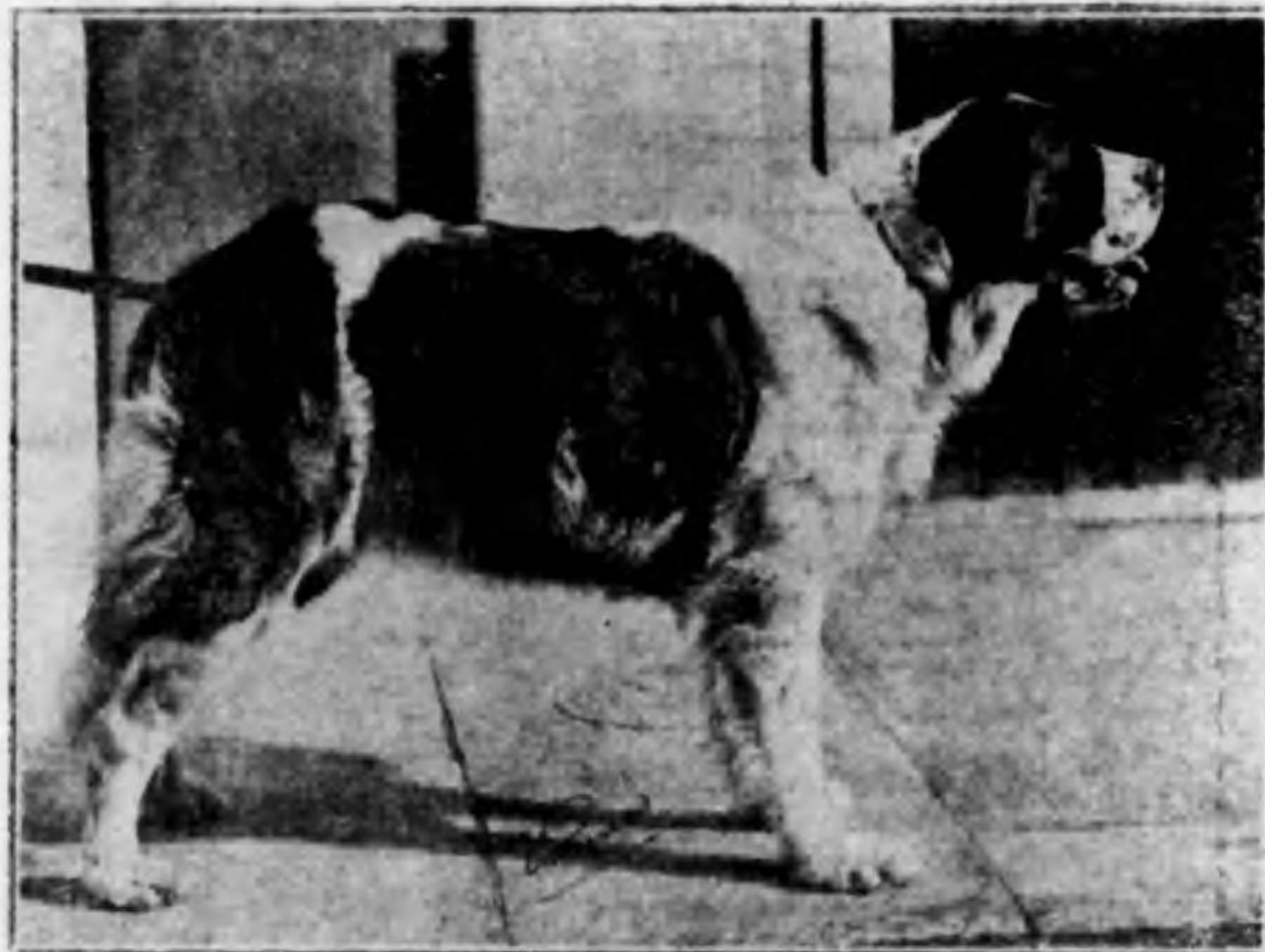
非常な缺點である。大さ 二十封度を超えたものは落膽すべきものである。

評點規尺

頭.....	7.5
鼻口脚.....	7.5
眼.....	5.0
耳.....	5.0
頸.....	5.0
胸.....	5.0
胴.....	15.0
脚さ足.....	10.0
尾.....	2.5
被毛.....	15.0
大さ.....	10.0
毛色.....	2.5
全貌.....	10.0
合計	100.

(36) スパニエル種

スパニエル種を大別すれば銃獵種トリー種の二がある。銃獵種にはアイリツシユ、フォータ。イングリツシユ、フォータ。クランバー。サセツクス。フィールド。イングリツシユ、スプリング。コツカア等がある。その内代表的のものとして(5)(22)(54)を見よ。又トリー種は(16)を見よ。



セント、バーナード

(セの部)

(37) セ ッ タ

セッタ種にはアイリッシュ、イングリッシュ、ブラック、エンド、タンの三種がある。(2)、(6)、(59)を見よ。

(38) セント、バーナード

原産地—スウェーデン瑞西(普通は英國に於て改良せられたる種類を意味す) サイズ—大型の最重種 用途—護身番犬

◎權威のクラブ。ザ、セント、バーナード、クラブ(英國)

標準

頭は大きくて重々しくなくてはならぬ。頭蓋の周囲は鼻より後頭部に至る頭の長さの二倍よりも大なること。ストツプより鼻先までは程よく短きこと。眼の下は豊満し鼻口部は四角なるべし。眼より下顎に至る深さは大にして唇は十分深きこと。但しあまりゆら／＼と動揺しない。鼻よりストツプまでは真直にして、ストツプは急變し且ツよく際立つてゐること。頭蓋は廣くしてその頂上は圓きも、圓屋根型ではない。眉部

セの部

は稍高くなくてはならぬ。耳は中等大にして頬に接着す。しかし附根は強くて、重き飾毛を有たぬ。眼はむしろ小さく且ツ深い。色は暗色であつて兩眼はあまり近寄つてゐない。下脛は垂れさがり可なり瞬膜を現はしてゐる。鼻は大きくて黒い。よく發達したる鼻孔を有つこと。齒はよく揃ふ。表情慈愛と威嚴と明智の相を表はさねばならぬ。頭は長くて肉附がよく且ツ僅にアーチしてゐる。喉垂皮は發達してゐる。肩は廣くて傾斜し鬚甲は發達してゐる。

胸ごうに關する全體ぜんたいの説明せつめい 胸は廣くて深い。背は尻しりに至る迄水平であつて、腰が僅にアーチしてゐる。肋あはぢは十分張り且ツ後方によく伸び上がる事。腰は廣くて肉附がよくなくしてはならぬ。

尾びはむしろ附根つけねが高く、その長さは長い。長毛種ちやうもうしゆにあつては叢毛尾そうもうびを有つてゐる。休止きゆうししてゐるときは低く垂れ、興奮こうふんするとき又は運動中うんどうちゆうは背の水平線すいへいせんよりも僅に高く揚げる。

脚あし 前脚ぜんあしは眞直まっすくで骨が強く且ツ可なり長い。後脚こうあしは極めて肉附にくづけがよい。足は大きくて引きしまり、よくアーチした趾あしづめを有つてゐる。

一色より成る斑紋はんもんを有つもの。斑紋はんもんは次の通り――鼻口部びしぐち白く、顔かほに白き流星りゅうせいを持ち、頸くびの周圍まわりに白き頸卷くびまきあるもの。胸むね前脚ぜんあしと足及尾おしの先の白きもの。顔かほ及耳みみに黒の影かげあるもの等である。顔かほの流星りゅうせい廣くして頸卷くびまきに通ずるものにあつては、體からだにも斑紋はんもんがあり且ツ頭の頂部ちやうぶも有色しきなるものが望ましい。體重たいじゆう 牝犬めいけんは百七十封度ひゃくしちふうど乃至二百十封度、牝犬めいけんは百六十封度ひゃくろくじふふ乃至百九十封度である。

大さ 牝犬めいけんは肩の高さ少くも三十吋さんじゆうしん、牝犬めいけんは二十七吋にじふしちしん以上(各部の釣合つりあひを害がいせざる限り高ければ高い程よい)。各部の比率わりあひがよくて實質じつしつの量が豊富ほうふなること。全般ぜんぱんの輪廓りんかくは大なる體力たいりきと持久力じきうりきを想おもひ起おこさしむるものでなくてはならぬ。

被毛けいもう 粗毛種ろもうしゆにあつては密みつにして平着へいちやくすること。むしろ頸くびの周圍まわりには一層豊富いっしやうほうふにして又腿またしには飾毛かざりもうを有つ。但しこの飾毛かざりもうはあまり重過ぎない。滑毛種すべもうしゆにあつては毛は密みつにして剛かたく、平着へいちやくして短い。但し腿またしと尾びには僅わずかに飾毛かざりもうがある。

毛色けいしきと斑紋はんもん 毛色は赤か橙だいだいか又は虎毛こらげの影かげあるもの(濃い程よい)或は白地しろぢに上記の

編者曰く……右は云ふまでもなく英國系えいこくけいのものである。これには二種あつて一は長毛種ちやうもうしゆ(粗毛種ろもうしゆともいふ)一は短毛種たんもうしゆ(滑毛種すべもうしゆともいふ)である。

英國種は瑞西原産すいせいげんさんの犬にマスチフを交雜かざし瑞西種すいせいしゆはその後ニューフオンドランド犬にゆうふうおんどらんとけんを交雜かざしたものである。従つて兩種の間には可なりかなりの差がある。英國種が大である。瑞西種の被毛けいもうは長短の中間である。



Photo. Theo. Fall. CH. KING'S WALDEN JETSAM.

ダックスフンド

(タの部)

(39) ダックスフンド

原産地—獨逸 サイズ—小型。種類—短毛種、長毛種、剛毛種。

用途—土獵 一般獸獵、家庭の伴侶

◎權威のクラブ。ザ、ダックスフンド、クラブ (英國)。

標準

全貌 大體の外観は極めて胴の長い低い犬である。緊張した肉附のよい體を短い僅曲つた前脚の上に載せてゐる。長い頭とその耳

の保持方とは勇敢で大膽に見え又現智を現はしてゐる。

頭 は長くて、上から見れば圓錐狀に見え、横からは鼻口部が尖つて楔形に見え

る。頭蓋は腦の室を大きくする爲狭いといふよりもむしろ廣い方である。それは僅にアーチして、ストツプなしで可なり眞直い。しかし深くもなく又切り取つたやうでもない。

眼 は大さ中等大、形は卵形で斜に附いてゐる。極めて明るく鋭い表情を有たねばならぬ。眼の色はその毛色によつて異ふ。

レヴァ、エンド、タンのは別としてその他のものは暗色である。レヴァ、エンド、タン種のは黄色でよい。斑點種のは淡

色の點々ある鼻はレヴァ、エンド、タン種と斑點種だけは差支ない。

色即ち青磁眼である。

鼻 は濃い黒色がよいとせられてゐる。肉色の點々ある鼻はレヴァ、エンド、タン種と斑點種だけは差支ない。

耳 は程よく高く附いてゐる。横から見れば眼の水平線の上方に附いて居り、よく後に引いてゐて平たい。鬚を作るもの、尖るもの又は狭いものはいづれもいけない。頬によく着いて垂れ自由に動かすことが出来る。注意を呼び起すときは耳の背を上の方や外の方へ動かす。

頸 項が僅にアーチして適度に長い。肉附がよいが喉垂皮はなくすつきりしてゐる。上方と前方によく保持してゐる。

前脚 は犬が地下で働くので強くて緊縮してゐる。自然胸や肩のあたりは深くて長く且つ廣くなくてはならぬ。肩胛骨は長く後方によく傾斜してゐる。肩は骨が強く筋肉に富み肋に密接してゐる。しかし自由に動かすことが出来ねばならぬ。腕は僅内方に曲つて居り足は僅外方向きになつてゐる。それは**チベンデル**椅子の（編者曰く：脚の外方に曲つた家具を**チベンデル**式といふ）舞踊とても噓ふべき曲脚の観がある。眞直で短い狭い肩には眞直な短い上腕を伴ふのが常であるが、それはよくない。即ちそれは鈍角になつて居り、發達のよくない胸前とキール胸即ち鷄胸を持つことになる。體の後からの重

で前の方に押し出されてゐる腕は膝のところ
で脚を前に押し出すことになる。之に反して
廣く傾斜してゐる肩は前脚と前足の頑丈
なことを保證するものである。
脚と足 前脚は極めて短く骨は強い。僅に
内方に曲つてゐる。横から見れば、可なり眞
直で決して前に曲つてゐない。即ち前方に押
し出されて居らぬ。足は圓くて強い。足裏
は厚く、趾は緊縮してよく**アーチ**してゐる。
爪は強く黒い。この犬は四脚の上に平均
に體重を載せかけて立たねばならぬ。
胸 は長くて肉附がよい。胸はむしろ極
めて深くも狭くもなく眞の卵形である。胸は
心臓や肺臓に適當な室を與へるやうに兩前脚

の間に低くかゝり、胸前は高くて極めて突き
出てゐる。肋はよく胸の方へ**アーチ**してゐ
る（平肋でない）。腰は短くて強い。背の
線は肩の後が僅に低下して唯腰の上だけ少し
く**アーチ**形になつてゐる。尻は肩よりも高
くなくてはならぬ。それで大體の様子は釣
合がとれてゐるやうに見えるのである。
後軀 臀は圓くて廣く力の強い筋肉が附い
てゐる。臀骨はあまり短かくなく廣くて傾斜
してゐる。上腿は太くて程よき長さを持つ
て居り直角に臀骨に接合してゐる。下腿は
他の獸類に比較すれば短くて直角に上腿に附
いて居り、極めて堅固な筋肉に富んでゐる。
後脚の骨は前脚の骨に比ぶれば軽い。しかし

極めて強い筋肉に富み、臀端が圓くなつて居
り、後膝の關節はよく發達してゐる。後か
ら見れば、後脚は廣く離れて眞直であり、牛
脚肢勢でない。この犬は後軀が肩よりも高
くなくてはならぬ。
尾 は可なり高く附いて、根本は強く先は
尖つてゐる。しかしあまり長くはない。それ
は彎曲して居らず、又高く揚げ過ぎてゐるな
い。可なり飾毛を付けてゐるがあまり多くは
ない。叢毛尾の方がむしろ貧弱な毛のものよ
りもよいのである。
被毛と皮膚 毛は出来るだけ短くて密でな
くてはならぬ。それは濃厚で滑であるが、
逆に撫れば手に抵抗を感ずるのである。皮膚

は靱強で弾力があるが體によく喰付てゐる。
毛色 一色種——一色種には色々の色が承認せられてゐる。即ち濃い赤、黄がかつた赤、煤けた赤なぞが含まれてゐる。その中では濃い赤や櫻色の赤が好いとせられてゐる。一色種にあつては體や頭なぞに淡い影のあるものはよくない。黒色は稀であるがこれはブラツク、エンド、タンの一變種である。二色種——二色種は眞黒、茶褐色（レヴァ）、もしくは灰色のもので、それに金色即ちタンの斑紋があるものである。その斑紋は眼の上、頬と顎の兩側、耳の内側、胸、脚の内側と後側、足と尾の下側で尾の全長の三分の一の所に附いてゐる。以上列記の色に白斑のあるものは排

斥すべきである。唯胸の小さな白即ち數本の白毛が許さるる最大限である。斑點種——斑點種は殆ど白地と思はるる銀灰色に濃い灰色か茶褐かタン又は黒の暗き不正形の點（小さなものがよい）があるので、大體はきら／＼する不定の毛色の様に見えねばならぬ。斑毛種は獵犬として特に珍重せらるるものである。
躰重 牡犬は二十五封度迄、牝犬は二十二封度迄である。
 編者曰く……英國では一般に短毛種が多く飼はれてゐる。短毛種、長毛種、剛毛種とも毛質を除く他の各部は全部同様である。長毛種は長き剛き上毛を持ち、剛毛種は剛きワイアの上毛を有つてゐる。而も耳の毛は短き滑

毛である。



ダルメーシアン

(40) ダルメーシアン

原産地—南歐のダルマチア サイズ—中型
 用途—伴侶犬（往時は特に馬車に）及獵犬。
 ◎權威のクラブ。サ、ダルメンシアン、クラブ（英國）

標準

全貌 本種は強くて、肉附がよく、活潑な犬であることを表はさねばならぬ。輪廓に於て釣合がとれ、粗糙のところや贅肉がなく可なりの速力を伴ふ大なる耐久力を持つことを示す。
頭 は可なり長くなくてはならぬ。頭蓋

は平たく、むしろ耳の間は廣く、顴頰は可なり隙立つてゐなくてはならぬ——くはしく言へば、可なりのストツプがあつて、ブルテリアに要求せらるゝが如く鼻から後頭部に至る迄一直線でない。皺は全然ない。

鼻口部 長くて力強くなくてはならぬ。唇はすつきりして程よくしつくりと顎に適合してゐる。

眼 は程よく離れてゐる。大さ中位にして圓く、きら／＼して賢き相を表はさねばならぬ。その色は毛の斑點に従つて異ふ。黒點のある種類では眼は暗色（黒即ち暗褐色）、レヴァ點のある種類のもは淡色（黄即ち淡褐色）でなくてはならぬ。眼の縁は黒點種にあ

つては黒色、レヴァ點種にあつては褐色——兩種とも決して肉色ではいけない。

耳 はむしろ高く付き、その大さは中等大で、根元はむしろ廣く段々と圓い先の方へ狭くなつてゐる。耳は頭にべつたりと保持し、その質は薄くて精美であり、いつも點々がなくてはならぬ——澤山あればある程よい。

鼻 黒點種にあつては常に黒く、レヴァ點種にあつては常に褐色でなくてはならぬ。

頸と肩 頸は可なり長く、美しくアーチして、軽くて、先細でなくてはならぬ。肩は過度に斜になつて居り、すつきりして、肉附がよく、速力を表はさねばならぬ。

胴、背、胸及腰 胸はあまり廣くないが極

めて深く潤大であり、肋はよく張り而も決して樽形になつてゐない（それは速力の缺乏を示すであらう）。背は力強く、腰は強くて肉附がよく、僅にアーチしてゐる。

脚と足 脚と足とは非常に肝要である。前脚は十分眞直で、強く、骨が重い。肘は體に接してゐる。前足は圓く、よくアーチした趾（猫足）と圓き、彈力のある靱強な足裏を以て引しまつてゐる。後脚の筋肉はよく際立つてはゐるがすつきりしてゐる。飛節は低下してゐなくてはならぬ。

爪 黒點種にあつては黒白、レヴァ種種にあつては白でなくてはならぬ。
尾 はあまり長くてはいけない。附根は強

く、段々と先の方へ尖つて居り、粗糙でない。あまり低く附いてはいけないが、僅に上の方へ曲げて保つてゐる。而も捲かない。尾には點々がなくてはならぬ。澤山あればある程よい。

被毛 毛は短く、剛く、密に、精美で滑かに、きら／＼して見えねばならぬ。しかし決して羊毛風や絹絲狀ではない。

毛色と斑點 これは最も肝要な重點である。兩種とも地色は純白でなくてはならぬ。極めて徹底的で決して雜駁のものではない。黒點種の色は黒い點を持ち、濃くて美しいものほどよい。レヴァ種種のもは茶褐色の點を持つ。點はごちゃ／＼したもの

でなく出来るだけ圓くてよくはつきりしてゐなくてはならぬ。はつつきりしてゐればゐる程よい。點の大きさは二十錢銀貨大から五十錢銀貨大である。頭、顔、耳、脚、尾と各端末にある點は胴のものよりも小さい。

各部の評価

頭と眼	10
耳	5
頸と肩	10
胴、背、胸、腰	10
脚と足	15
被毛	5
色と斑點	30
尾	5
大きさと釣合等	10
合計	100



Photo., Thos. Fall.

SIMPLE JINKS.

ダンディ、デインモント、テリア

编者曰く……(一)自動車が出来ない以前には、この犬を馬車のお伴に用ゐることが流行した。コーチ、ドッグ(馬車犬)と呼ばれたのもこれが爲である。コリーが羊と仲がよいやうにこの犬は馬と仲がよい。(二)佛蘭西ではこの犬をリツトル、デインと呼んでゐる。一寸見た所でデインを小さくしたやうにも見えるが、元來デインとは何の血縁もない犬である(三)この犬の仔は生れたては純白である。二週間もすればだんく斑紋が出て来る……最初頸と耳……それから胴……尾は數週の後。

(41) ダンディ、デインモント、テリア

原産地—スコットランド サイズ—小型。

種類—胡椒色種と芥子色種

用途—土 獵(家庭の伴侶にもよい)

◎權威のクラブ。ザ、ダンディ、デインモント、テリア、クラブ(英國)。

標準

(クラブの標準書は極めて詳細のものであるから、茲には多少省略して置く)

頭は大くて、強い鼻口部を持つ。

頭蓋は耳の間が廣く漸次眼の方へ尖つて

る。額は圓屋根型。頭蓋は淡い色の絹

絲狀の房飾を持つ、即ちその色は胡椒色種

にあつては白く、芥子色種にあつてはクリム色である。鼻口部は頭の房飾よりも暗色であり毛質は前脚のものと同じである。鼻と口の内は黒即ち暗色。歯は強大でよく吻ひ合ふ。但し上歯は下歯よりも極て僅に前に出てゐる。

眼は廣く離れてゐる。大きくて充實しきら／＼輝き決斷力と才智と威嚴とを表はさねばならぬ。色は暗い。

耳は垂れて、頭に低く後の方へ附いてゐる。先の方へ漸次尖つてゐるが、むしろ前縁は直く、後の縁が斜に尖つてゐる。胡椒色種にあつては褐色の毛を持ち、芥子色種は胴の色よりも暗い芥子色である。耳の質はむしろ

薄く、長さは三吋乃至四吋。

頸は極めて肉附かよくて強い。

胸は長く強くて屈撓性に富む。肋はよく張つて圓い。胸はよく發達して前脚の間に低下してゐる。背はむしろ肩から下り坂になつて腰のところまでアーチしてゐる。それから尾の附根に向つて僅に下つてゐる。

尾はむしろ短く、言はば八吋乃至十吋である。尾の上面は胴の色よりも暗いワイア毛を持ち、下面は淡色でさまでワイアになつてゐない。而も美しき飾毛を持つてゐる。根本は大きく先は尖つてゐて捲いてゐない。興奮するときは根本が垂直となり彎刀状をなす。平素は背の線よりも僅に高く揚げ輕快に保持

してゐる。

脚 前脚は短く廣く踏む。足は平たくな

く、爪は褐色である。曲つた脚と平足とは排斥すべきである。前脚と足の色は胡椒色種にあつては胴の色に準じ美しきタン乃至は淡い鹿毛色であり、芥子色種のもの頭の色よりも暗い影を持つてゐる。兩種とも脚の前面よりも後面の毛が淡い。後脚は前脚よりも僅に長く、むしろ廣く踏ん張つてゐる。毛色は前脚と同じであるが飾毛がなく狼爪は持たぬ。

被毛 これは極めて大切なる眼點である。毛は長さ二吋にして、頭蓋から尾の附根までは剛毛と軟毛との混合である。これはワ

イア毛でなくて混合毛と呼ばれるものである。胸の下面の毛は上面のものよりも色が淡くて柔かい。

毛色 胡椒色か芥子色かである。胡椒色種は暗灰色から淡灰色の間色々であるが、中等の色合のものが最も喜ばれる。芥子色種は赤がかつた褐色から淡い鹿毛色の間色々である。

大きさ 肩の高さ八吋乃至十一吋にして、肩の頂點より尾の根までの長さは肩の高さの二倍である。但しそれよりも一、二吋少いのがよいとせられてゐる。

躰重 十四封度乃至二十四封度である。最もよい躰重は十八封度であつて、これは犬

の作業の爲最も適當なるものである。



Photos., Thus, Fall.
NEA SONGA.
By Nea Lopi ex Nea Blue Yeup Pai.

チヤウ、チヤウ

(チの部)

(42) チヤウ、チヤウ

原産地—支那
用途—番犬、伴侶犬
◎權威のクラブ。ザ、チヤウ、チヤウ、
クラブ(英國)。

標準

頭 頭蓋は平たくて廣い。ストップは軽く、眼の下は豊満である。
鼻口部 長さは適度で、鼻先から眼に至る迄幅が廣い(狐のやうに尖つてゐな

い)。

鼻 は黒く、大きくて廣い(クリーム即ち淡色の犬にあつては石竹色の鼻は許すべきである)。

舌 は黒い(编者曰ふ—暗緑色)

眼 は暗色で小さい(ブルウ色の犬にあつては眼の色が淡いのは許すべきである)。

耳 は小さく、尖つて真直に保持してゐる。耳は眼の上の前に具合よく附いてゐなければならぬ。これは本種の特徴たる表情即ちしかめがほを呈せしむるものである。

齒 は強くてよく揃ふ。

頸 は強くて豊満であり、肩の附着がよく僅にアーチしてゐる。

肩は肉附がよく傾斜してゐる。
胸は廣くて深い。
背は短く、直く、強い。
腰は力強い。
尾は背を越えてしつかり捲いてゐる。
前脚は充分真直で、適度の長さを持ち骨が太い。
後脚は前脚同様肉附がよく、飛節はよく低下してゐる。
足は小さく、短く、猫足であつて趾でよく立つてゐる。
被毛は豊富で、濃密であり、直毛にしてむしろ粗剛である。柔な羊毛状の下毛を持つてゐる。

毛色 は黒、赤、黄、ブルー及白等の單色で駁があつてはいけない（尾の下側と臀の後とは往々色が淡い。）

全 貌 生々として引きしまつた短い胴つまりの犬である。骨組が頑丈に連接し、尾はよく背の上に捲いてゐる。

失格の點 垂耳、赤舌、背上に捲かない尾被毛の白斑、黄犬と白犬を除く他種に於ける赤い鼻。

備考 スムース、チヤウはこの標準書に依りて審査す。但し被毛のスムースなことはこの限りでない。

編者曰く……（一）この標準書には「大きさ」に就ては何等示されてゐないが、牡は普通四十封度かそれよりも大きい。牝は牡よりも僅に小さい。（二）本種は英國に於て可なり洗練せられた。殊に毛色に於て……毛色は標準書に示してある通りであるが、ブルウ色が一番である。これについて赤……それから黒といふことになつてゐる。しかし一般の人氣としては濃い赤が喜ばれてゐると思ふ。



チン

(43) チン（ジャパニース、スパニエル）

原産地—日本 サイズ—トリー型。

用途—トリー。

◎權威のクラブ。サ、ジャパニース、チン、クラブ（英國）。

標準

頭 頭蓋は極めて廣く僅に圓い。頭は犬の割合よりも大きくなくてはならぬ。

鼻口部 は強くて廣い。眼から鼻までが極めて短い。上顎は兩眼の間に僅上轉してゐるやうに見えねばならぬ。下顎は上顎同様に上向きになつて居り、上顎に逢着するやうに

出来上つてゐなければならぬ。しかし下顎は上顎よりも僅に長い。それは齒の露出を防ぐものであつて缺點ではない。

鼻 は鼻口部の部分が極めて短い。鼻は開いた鼻孔を持つて幅廣くなくてはならぬ。

鼻の色は毛の斑紋と同じ色であること、即ち黒斑の犬は黒鼻、赤又はレモン斑の犬は赤即ち濃い肉色の鼻を有つてゐる。

眼 は大きく、暗色で光澤があり、むしろ突き出て廣く離れて居る。

耳 は小さく、V字形で、美しき飾毛を有つ。兩耳はよく離れて、頭の高い所に附いて居り、僅に前方に保持してゐる。

頭 は短く且つ適度の長さを有たねばならぬ。

これは宛も美しい帽子の前立を著けてゐるやうに見える。

被毛 は豊富で、長く、直く、むしろ絹糸状である。毛は絶封に波毛や捲毛ではない。しかし全體平伏しでなく僅立ち氣味である。殊に頸の毛は厚い。鬣即ち鬚襟を作るやうに立つてゐる。この鬣は臀や尾の濃密な飾毛と共に極めて美事な風采をこの犬に與へるものである。

毛色 は黒と白又は赤と白とのまだらである。この赤なる言葉にはセーブル、虎、レモン又はオレンジ等の色々の影を含んでゐる。しかしきら／＼して明るければ明るい程よい。白の部分は純白でなくてはならぬ。黒

ぬ。
胴 は引緊つた角型である。體と脚とで眞に正方形を描かねばならぬ（編者曰ふ……我國ではむしろ胴が僅に長いがいとせられて居る）

脚 は一目見て細く思はるるやうに骨が細くなくてはならぬ。十分に飾毛を有つてゐる。

足 は小さく、V字形で稍長い。この犬は趾で立つべきである。もし足に飾毛があつてもこれが爲に決して足の幅を廣く見せてはならぬ。しかし僅に長く見える。

尾 は背の上にしつかりと捲いてゐる。尾は豊富な飾毛を有つてゐなければならぬ。そ

でも赤でも斑點は凡て胴と兩頬と兩耳との上に對照的になくてはならぬ。

肩の高さ 高さは殆ど十寸。
體重 望ましき大きさは四封度乃至九封度である。體型さへよければ小さいもの程よいのである。

編者曰く……この種類は英國に於ても愛翫犬として可なりたふたばれてゐるが、何分にも身體が弱いので蕃殖者を苦しめてゐる。ペキニス（北京狎）におされてゐる主なる原因はここにあると見るべきであらう。



Photo., Thos. Fall.

ARSAIG OF ROTHERWOOD.

ディアハウンド

(テの部)

(44) デイアハウンド

原産地—スコットランド サイズ—

大型の中。

用途—鹿獵犬、特別の整飾伴侶犬

◎權威のクラブ。ザ、デイアハウンド

クラブ(英國)

標準

頭は耳の所が最も廣く、眼の方へ僅に狭くなり、鼻口部は一層尖つてゐる。鼻口部は尖つてゐるが齒ミ唇

とはよく揃つてゐる。頭は長く、頭蓋は圓いといふよりもむしろ平たい。眼の上が僅に高くなつてゐるがストツプといふ程のものはない。頭蓋は體の他部よりも軟い長い毛を以て程よく被はれてゐる。鼻は黒く(暗い影色の犬は暗灰色のものを持つこともある)僅に驚鼻である。淡色の犬にあつては黒い鼻口部がよいとせられてゐる。むしろ絹絲狀のよい口ひげと可なりの顎ひげを持つてゐる。耳は附根が高く、犬が休止するときはグレイハウンドのやうに後に疊み、興奮時は鬣をそのままにして起し、半立耳にさへするところがある。立耳はいけない。頭にべつたり

垂れ下つてゐるか又は重き毛を持つてゐる。大なる厚き耳は缺黠中の最悪のものである。耳は柔く光澤があり廿日鼠の被毛に觸る感じがする。小さいだけよい。耳は長毛即ち飾毛を有たぬが時としては耳の體部と先に銀色の絹狀の毛を有つてゐることがある。全體の毛色が何であらうとも耳は黒即ち暗色でなくてはならぬ。頭と肩 頭は長い—即ちグレイハウンド式の特色を發揮せしむるだけの長さを持つ。しかし、長過ぐる頸は必要でない又望ましくもない。何となればこの犬は作業中グレイハウンドが爲すやうに頸を前にかがむることを要求せらるることがないからである。又良種の

ものが持つてゐる。鬣は頸の長さを短く見せしむるものであることを記憶せねばならぬ。その上、ディアハウンドは口で鹿を保持することが出来るだけの強い頸を持たねばならぬ。頸の背部は頭の接合部に於て極めて秀てゐなければならぬ。咽喉部は凹凸がなくすつきりしてゐる。肩はよく傾斜し、肩胛骨はよく後方に位置して両方の間があまり廣くない。重みを附けた肩又は峻しい肩は極めて悪い缺點である。

尾は可なり長く尖つてゐる。地上より一時半、飛節から一時半下の所まで届く——犬が静止してゐるときは十分眞直に垂れてゐるかそれとも曲げてゐる。運動に方つて興奮

するときは曲げる。どんな場合でも背の線より上方に揚げてはならぬ。尾は毛でよく被はれ内側は厚きワイア毛を有ち、外側の毛はヨリ長い。尾の先の方に僅の飾毛のあるものは排斥すべきでない。捲尾或はリングテールは甚だ好ましくない。

眼は暗色である。一般に暗褐色即ちはしばみ色で、極めて淡色の眼は好ましくない。休止中は穏な相を表し程よく張つてゐるが犬が立つときは鋭き遠望の眼付をする。眼の縁は黒い。

背と胴 一般の骨格は大型の骨の太いグレイハウンドとでもいふべき風である。胸は廣いといふよりも深い。しかし狭過ぎ又平肋

でもない。腰はよくアーチして尾の方へ下つてゐる。直背は望ましくない。これは山登りには不適當で且つ視を難いものである。

脚と足 脚は廣くて平たい。可なり廣い前腕と肘を持つことが望ましい。勿論前脚は出来るだけ眞直でなくてはならぬ。足はよくアーチした趾を持ち密接して小じんまりしてゐる。尻は下つて、出来るだけ廣く、力が強くなくてはならぬ。腕骨は互に廣く離れてゐる。後脚は後膝がよく曲つて、腕骨から飛節までの長さは極めて長い。飛節は廣くて平たい。牛飛節、弱い骸、直後膝及擴がつた足は極めて悪い缺點である。被毛 胴と頸と臀の被毛は剛きワイアで、

その長さは三寸か四寸でなくてはならぬ。頭と胸と腹の毛はすつと柔い。前脚と後脚との内側には僅の飾毛があるが、コリーの飾毛のやうにはない。ディアハウンドは髭々の犬である。しかし多毛ではない。羊毛風の毛はいけなない。或優良系に於て剛毛の中に僅の絹絲毛を混えたものがあるが、本格的の被毛は厚き密伏したる髭々のものであつて、觸れば剛くてぢり／＼の感がする。

毛色 は人の好き／＼であるが、暗いブル、グレイが最もよいといふに異議がない。その次が暗淡各様のグレイか虎毛である。暗い色のものが一般に好まれてゐる。黄と砂色の赤即ち赤鹿毛のもの殊に黒斑を持つもの

(くはしく言へば耳^{みみ}鼻^{くちばし}口^{くちばし}部^{くちばし}に)も同様に貴^{たか}ばれてゐる。白毛^{しろけ}は凡^{たゞ}ての權威^{けんい}者に依^よつて非難^{ひなん}されてゐる。しかし最も暗色^{あんしき}のものにあり勝ちの白い胸^{むね}と白い趾^{あし}とは左^{ひだり}まで排斥^{はいせき}すべきものでない。元來^{もとより}デイハウンド^{デイハウンド}は單色^{たんしき}の犬^{いぬ}である。白毛^{しろけ}は少^{すく}いだけよい。白^{しろ}の流星^{りゅうせい}や白^{しろ}の頸卷^{けいまき}は全然^{ぜんぜん}失格^{しつかく}である。それを許^{ゆる}すとしても他^{ほか}日^ひこれを取り除^{のぞ}く工夫^{くふう}をしなければならぬ。良^よ血種^{けつしゆ}の犬^{いぬ}に尾^{おし}の先^{さき}に僅^{わずか}の白毛^{しろけ}があることがある。

牝^メ犬^{いぬ}の高^{たか}さ 二十八^{にじゅうはち}吋^{いんち}乃至^{およ}三十^{さんじゅう}吋^{いんち}。釣合^{つりあひ}を害^{がい}さななければこれよりも高^{たか}くてよい。しかしそんなものは稀^{まれ}である。
牝^メ犬^{いぬ}の高^{たか}さ 二十六^{にじゅうろく}吋^{いんち}以上^{いじょう}。いくら大きく

とも牝^メ犬^{いぬ}よりも大きいといふことはないからあまり粗糲^{そざう}でない限り二十六^{にじゅうろく}吋^{いんち}以上^{いじょう}でもよいといふことになる。牝^メ犬^{いぬ}も牝^メ犬^{いぬ}同様^{どうよう}過高^{かこう}なるものは使役^{しやく}上^{じやう}よろしくない。大なる牝^メ犬^{いぬ}は大なる犬^{いぬ}を蕃殖^{はんしよく}しサイズを保持^{ほし}せしむるによいものである。
體重^{たいじゆん} 牝^メ犬^{いぬ}は八十五^{はちじゅうご}封度^{ほうど}乃至^{およ}百〇五^{ひゃくご}封度^{ほうど}。
牝^メ犬^{いぬ}は六十五^{むそご}封度^{ほうど}乃至^{およ}八十^{はちじゅう}封度^{ほうど}。
編者^{へんしや}曰^いく……この種^{しゆ}はスコットランド^{スコットランド}原産^{げんぜん}であるが、アイルランド^{アイルランド}原産^{げんぜん}のウルフハウンド^{ウルフハウンド}に極めてよく似^にてゐる。狭^{せま}い犬舍^{いんしや}の中^{なか}におさなく寝^ねてゐること、大食^{おほく}しないこと、廣^{ひろ}場^ばに出^でせば疲^{つか}れるまで自分で活潑^{かつせき}に運動^{うんどう}をとることが特長^{とくちやう}である。

(トの部)

(45) トーイ、スパニエル

これは一定^{いじやう}の固有名^{こうめい}でなく、トーイ^{トイ}用のスパンニエル^{スパニエル}といふ意味^{いみ}である……(16)及^{およ}(43)を見よ。

(46) トーイ、テリア

これも前項^{ぜんこう}同様^{どうよう}の意味^{いみ}である……(60)及^{およ}(63)を見よ。

(47) トーイ、ブードル

これも前項^{ぜんこう}同様^{どうよう}の意味^{いみ}である……(53)を見よ。

(48) ドーベルマン、ピンシヘル

原産地^{げんぜんち}—獨乙^{ドイツ} サイズ—中型^{ちゆうぎやう}の中^{なか}用途^{ようど}—軍用^{ぐんよう}、警察^{けいさつ}用^{よう}其^{その}他^{ほか}護身^{ごしん}番犬^{ばんけん}等^{らう}
◎權威^{けんい}のクラブ。獨乙^{ドイツ}ドーベルマン、ピンシヘル協會^{かいぎ}。

標準



ドーベルマン、ピンシエル (48)

全貌 中等大の犬で釣合がよく優美な力強い體軀を持つ。肥胖に過ぐるもの又はグレイハウンドの如き瘠型のものはいづれもよくない。胸は割合に短く引きしまつた體型を持ち比較的なる地積を占めて立たねばならぬ。この犬は一見して大なる速力と持久力を想はしめ、その眼は智能と決斷力を表はし、動作は活潑でなくてはならぬ。

頭は全體楔状であつてその先は鈍い。頭蓋は平く、頬も亦平であるがその筋は強い。額より鼻先に至る線は鼻梁と一致するかそれとも極めて僅に眼の間が凹んでゐる。鼻梁は眞直であるかそれとも僅にアーチしてゐる。顎は充實して強く、眼の下は豊満である。顎

は前より見れば楔状であるが、決して力の不足を示す程尖つてはならぬ。唇は引きしまつてゐる。齒は正しく揃ひ且つ強大である。眼は暗色で鼻は黒い。但しブラウン、エンド、タン種又はブルー、エンド、タン種にあつては眼と鼻の色が稍淡い。これは出来るだけ暗黒色に改良しなければならぬ。耳は附根が高く、適度に斷耳せらる。

頸は程よく長くして強い。胸の方に向つて徐々に擴つてゐる。頸はよく持ち上げ、頸の背筋は眞直であるかそれとも僅にアーチしてゐる。

胸 背は直くして過長ならず緩んでゐてはいけない。腰は強く充實し少しくアーチし

て尻の方へ滑に擴つてゐる。胸前は廣くして決して狭く尖つてはならぬ。胸壁はよく張り平肋ではいけない。肋は深くして充分肘に達してゐる。腹はよく緊つてゐるがグレイハウンド程でない。體高と體長とは同等なるをよしとす。尾は短く截られ、牡犬にあつては一時半乃至二吋。牝犬は一時乃至一時半。

前脚 脚はすつきりした圓い骨を持ち、筋肉退しく全然眞直に立つてゐる。肩は長くよく傾斜し胸への附着がよくて筋肉に富んでゐる。

後脚 腿は長くして廣く發達したる強筋を持つてゐる。後膝は可なり曲り、飛節はその角度があまり鈍角でなく強くしてよく發達し

てゐる。飛節は内外いづれにも偏つてはならぬ。散は垂直に立つ。

足は短く引きしまつてゐる。趾はアーチして互に密接す。爪は強くして曲る。狼爪はこれを忌む。これを有つものあれば生後速に切り取らねばならぬ。

肩の高さ 牡は空三種乃至六種、牝は五種乃至空三種とす。(我國の軍犬資格)。

被毛は短くして剛く、密生して伏してゐる。波状をなしてはならぬ。

毛色 黒と黄褐色、褐色と黄褐色又は暗灰色と黄褐色の三種ある。その色は鮮明にして光澤がなくはならぬ。色々の駁は許されないが、胸前に於ける小さな白毛は之を許す。

特性 ドーベルマン、ピンシエルは忠實、大膽、勇敢にして生れながらにして鋭敏と才智とを具へ、極めて警戒心が強い。勇猛性を有つてゐるが極めて従順にして訓練容易、嗅覚鋭敏にして忍耐力を有つてゐるから軍用警察犬及家庭犬として理想である。

缺陷 叙上の標準點に合せざるものは缺陷であるが、その著しきものを擧ぐれば……正しき型に反してグレーハウンド型に傾いたもの、臆病な神経質のもの、あまり軽過ぎるもの、あまり重過ぎるもの、脚のあまりにも短きもの又は長きもの、あまりにも狭き體格、タンの部分に代ふるに鹿毛色を以てするもの。



MRS. J. LEE, VICTORIA, NEWFOUNDLAND, CH. SHELTON, VIKING.

ニュー、ファンドランド

(二の部)

(49) ニュウ、ファンドランド

原産地—北米ニュウ、ファンドランド島
 サイズ—大型の中、重種
 用途—水上救護犬、護身番犬
 ◎權威のクラブ。ザ、ニュウ、ファンドランド、クラブ(英國)。

標準 (權威J、H、ベイリーの解説)

毛色 黒色ニュウ、ファンドランドはいふまでもない毛が黒である。しかしこれは他の色が一つもないといふ意味でなく大多數のも

のは若干の白斑を有つてゐる。この白斑は排斥すべきでない。但しこれは胸と趾と尾の先だけに限る、事實上胸部の白斑は純粹種の模範とさへ言はれてゐる。頭や胴に白毛のあるものは黒色種の中に入れず他の種類のものとして取扱はれる。この黒色はむしろ鶯色に近似つて見える鈍き黒である。黒色種の外には黒とタン、青銅色又は黒と白とのものがある。黒と白との種類は優位に置かれてゐる。しかし黒白種では美しき斑紋を有つといふことが極めて重要視されてゐる。頭は黒で鼻口部と流星とが白であり、體と脚とは白でそれに大なる四角な鞍形の黒斑を有たねばならぬ。しかし體と脚にもその外にも多分小さ

な黒點があらう。毛色を除いてはその他は同一の標準に據るべきである。
 頭は廣く且つ頑丈であること。しかし外観上無暗に重く見えてはならぬ。鼻口部は短く四角でがつちりしてゐなければならぬ。
 眼はむしろ廣く離れ、深く凹み、暗色で小さく、少しも瞬膜を現はしてはならぬ。
 耳は小さくて、側方に接著し、精美な短き毛を有つこと（耳には毫も飾毛を有たねぬ）。
 表情 才智と威嚴と親切とを十分に表はさねばならぬ。
 胴は長く、四角で、頑丈なこと。腰は強くてよく充實し、胸は深く且つ廣くなくてはならぬ。

脚は全然眞直であつて、胴の長さには比し稍短い。力強くて肉附がよく圓き骨を有つこと。足は大きく、圓くて趾は互に密接する。
 尾は丁度飛節の下迄達するだけの長さを有つこと。捻れて居らず又決して背の上に捲いてはならぬ。

被毛 被毛の質は極めて大切である。豊富な下毛を以て密であること。上毛は稍粗剛にして直い。捲毛は大に排斥すべきである。良き被毛を有つ犬は長時間水の中にあつても、その皮膚を濡すことがない。
 全貌 大なる力と、犬の骨格や大きさに對しての活動力とを表はさねばならぬ。體は脚の間に緩く掛り、歩様は僅にロールする。即

ち横揺がするのである。これは水夫のロールの歩き方になぞらへられて本種の特徴とせらるるものである。
 大さ 牡犬は百四十封度乃至百二十封度、牝犬は百十封度乃至百二十封度。肩の高さはそれ／＼二十七吋乃至二十五吋。

標點規尺

頭蓋の形	8
耳	10
眼	8
鼻口部	8
頸	4
胸	6
肩	4
腰及肩	12
後軀及尾	10
脚及足	10
被毛	12
大さ、高さ、全貌	8
合計	100

頭...34
體...66



A GROUP OF THE "REYNALTON" BASSET

バセットハウンド

(ハの部)

(50) バセットハウンド

原産地—フランス 英国—サイズ—小型。
種類—スムース、コーテッド、ラフ、コートド 種と剛毛種。
用途—狩猟用、時に銃 獵にも用ゆ。
◎權威のクラブ。英国ケネル、サークル。英國のサ。バセットハウンド、クラブ。

標 準 (サー、ジョン、ミレーズ) の解説に依る

バセットは恐らく他種に類を見ざる程、體の割に骨が大である。
頭蓋はブラッドハウンドのやうに高く聳

え、威嚴と或表情を示す。鼻は黒くて唇は垂れ下つてゐる。齒は犬の割合に極めて小さい。

耳はブラッドハウンドのやうに垂れ、柔き天鵞絨の布片のやうである。

眼は暗褐色で、感動と才智とに充ちてゐる。眼は可なり凹んで居り、著しく瞬膜を現はす。バセットは意地悪るの眼を持つてこの出来ないハウンドの一である。

頸は長くて而も極めて強い。垂れたる上唇は殆ど胸のあたりまでも届くものがある

胸はブルドックのものよりも廣い。地上二吋以上離れてゐないものもある。肩は強力であつて彎脚に終る。彎つ

た脚は宛も一の關節の塊であるかのやうに見える。

背と肋とは強く。背は著しく長い。

尾は普通のハウンドのやうに輕快に保つ獲物の臭氣を嗅ぎ出すや尾を活氣付ける。その振り方で新しき臭か否やを判斷することが出来る。

後軀は極めて強く且つ肉附がよい。その筋肉は飛節のところ迄しつかりと附いてゐる

皮膚は滑毛種にあつては他のハウンド同様に柔い。剛毛種にあつてはオッターハウンドのものに似てゐる。

毛色は勿論人々の好き／＼によるが、三毛のものが最も喜ばれる。三毛とは頭、タン

色で胴が黒と白のもの。



CH. MONAMIE COQUILLE.

パピロン

(51) パピロン

原産地—南米、メキシコ。サイズ—トイ型。用途—トイ。

◎權威のクラブ。ザ、パピロン、クラブ (英國)。

標準 (概要)

全貌—パピロンはスマートな愛嬌たつぷりのトイ犬である。

頭—頭蓋は比較的に大なるもアップル、ヘッドではいけない。鼻口部はあまり長くなく眼の前より急に尖つてゐる。眼は暗色に

して程よき大きさを持ち充分なる愛嬌を表はさねばならぬ。耳は本種の大切な特徴の一端も蝶が翅をひろげたやうになつてゐる。即ち耳は充分開いて前方に向つて立ち、その根本は比較的に廣くその先は鋭く尖つてゐる。耳の大きさは割合に大きい。頸は美しき飾毛を有ち、よく持ち上げてゐる。體は稍長く前軀より後軀に互りすつきりしたスマートの型である。背は直い。脚と足—前脚は骨が精細で、真直でなくてはならぬ。後脚の後膝及飛節はあまり曲つてゐない。而も飛節は低下してゐる。足は可なり長く稍々兎足に近い。

被毛—稍々長き絹絲狀の被毛は適度に豊富であつて、頸と臀と脚には美しき飾毛を持たねばならぬ。殊に耳には長い飾毛があつて一層耳を蝶の翅のやうに想はしむる。これは本種の大切な觀賞點である。

毛色—赤、マホガニータン、ルビイ、栗毛又は濃暗黄色の全色かそれとも白地に以上列記の何れかの色又は黒の斑紋を持つ。白地に斑紋あるものが近頃歡迎せられてゐる。その斑紋は場所と大きさが對照的でなくてはならぬ。殊に顔面部の白き流星は狭くして正しく宛も蝶の胴體を想はしむるものが望ましい。大小—釣合さへとれてゐれば小さいほどよい。



Photo., Hedger, Latham.
RIBBLEVALE RANDOM, K.C.S.B. 192 M.M.

ビーグル

(ヒの部)

(52) ビーグル

原産地—英國　サイズ—中型の小と小型
(ポケットビーグル)　用途—獸獵
◎權威のクラブ。ザ、ハリリア、エンド、ビーグル、アソセイション(英國)。

標準

頭 粗糙でなくて可なり長く強力である。頭蓋は圓屋根型をなし適度に廣く、峯型を現はす。ストツプは際立ち、鼻口部は削りとられてゐない。唇はよい垂皮を持つて

ゐる。

鼻 は黒くて廣い。鼻孔はよく開いてゐる。眼の色は褐色即ち暗きはしばみ色もしくははしばみ色である。凹んでも居らず又張り出してゐない。溫和な相を現はしてゐる。耳 は長くて低く附いて居り、その質は精美で、優美な襞をなして頬に接着して垂れてゐる。

頸 は適度に長く僅にアーチしてゐる。咽喉部にはいくらか喉垂皮を持つてゐる。

肩 はすつきりして僅に傾斜してゐる。胸は背の前後の聯結の間が短い。胸はよく低下して居り、肋は可なりよく張つて後方によく組上つてゐる。力の強い腰は腰上げ

をしたやうに上つてゐない。

後軀 腿のあたりに筋肉が多く、後膝と飛節はよく曲つて居り又飛節は低い。

前脚 は全く眞直で具合よく體の下に附いて居り、その實質は豊で骨は圓い。

足 は圓くて趾の關節はよく結合して居り足裏は強い。

尾 の長さは適度で、附根が高く尾は太くて輕快に保つてゐる。しかし背の上に捲き上げてゐない。

毛色 はハウンドの有つべき色ならば何でもよい。

被毛 滑毛種——滑で極めて厚い。あまり精細でなく又短くもない。剛毛種——極

めて厚くてワイア毛である。
 高さ は十六吋を越さぬこと。 ポケット
 ビーグル種は十吋を越してはならぬ。
 全 貌 小じんまりした體格のハウンドで
 粗野でなく、大なる持久力と活力の感じを起
 さしめねばならぬ。

编者曰く……フオックスハウンド種とハ
 リア種とビーグル種の三つは従兄弟同志とい
 つてよい—フオックスハウンドが長兄、ハ
 リアか次兄、ビーグルガ末の弟である。フオ
 ックスハウンドは鹿や狐を狩り、ハリアと
 ビーグルとは兎を狩る。自然そのサイズが異
 ふ……フオックスハウンドは肩の高さ二十二

吋乃至二十四吋、ハリアは十六吋乃至二十
 吋、ビーグルは十六吋以下である。——殊に
 十吋以下のビーグルをポケットビーグルとい
 ふ。
 右はいづれも組を作つて獵に用ゐる種類で
 ある(ブラッドハウンドの如きは單獨にて用
 ゆ)。フオックスハウンドや大型のハリアは
 乗馬にて、小型のハリアやビーグルは徒歩
 にて用ゐるを常とする。
 フオックスハウンドは滑毛の一種であるが、
 ハリアとビーグルには滑毛と剛毛の二種が
 ある。以上三種共品評會犬ではなく全然の實
 用犬である。しかしその體型も觀賞に値する
 ものがある。



NUNSOE NICKOLAS CHRISTOPHER ROBIN WITH A BRACE OF HIS PUPPIES.

ブードル

(フの部)

(53) ブードル

原産地—佛蘭西、白耳義等。サイズ—中型
 とトイ型。種類—紐毛ブードル、捲毛ブ
 ドルの二種。
 用途—輓曳犬、水中拾來犬(以上中型)。
 トイ殊に藝當犬(トイ型)。
 ◎權威のクラブ。ザ、ブードル、クラブ。及
 サ。カアリー、ブードル、クラブ(以上英國)

標準

全 貌 極めて活潑で賢く、高尚に見える

犬であつて、自ら意氣揚々と構へて居る。
頭 は長く真直で精美である。頭蓋は廣くなく、後頭は峯が僅に高くなつてゐる。
鼻口部 は長くて（しかし尖つてゐない）強い——頬は豊満でない。歯は白く、強くよく揃ふ。齒齦は黒い。唇は黒くて緩んでゐない。
眼 は巴旦杏形で極めて暗く、熱情と才智とに満ちてゐる。
鼻 は黒くて尖つてゐる。
耳 耳皮は長くて廣い。附根が低くて顔にべつたりと附いてゐる。
頸 はよく釣合がとれて居り強い。頭を高くと揚げて威容を保つことが出来る。

肩 は後方によく傾斜して強く肉附がよい。
胸 は深くて適度に廣い。
背 は短く、強くて僅に凹んでゐる。腰は廣くて肉附がよい。肋はよく張つて緊つてゐる。
足 はむしろ小さくて形が整つてゐる。
趾 はよくアーチして足裏は厚くて硬い、
脚 前脚は肩から真直に付き、骨と筋肉に富んでゐる。後脚は肉附がよく飛節は低くよく曲つてゐる。
尾 はむしろ附根が低く、具合よく保ち決して捲いたり背の上に揚げたりしない。
被毛 は極めて豊富で、その質は可なり剛

い。紐毛種のものにはむらのない紐になつてしつくりと垂れてゐる。紐毛でない種類のものは毛は極めて厚くて強く、その長さにはむらがない。捲き方は密で厚く、房や紐のやうになつてゐない（編者曰ふ……この種を捲毛ブールドルといふ）。

毛色 は總黒、總白、總赤、總藍である。
白色ブールドル は眼が暗色で、鼻と唇とは黒か又は極めて暗い肝臓色でなくてはならぬ。
赤色ブールドル は眼が濃い琥珀色で、鼻と唇と爪とは暗い肝臓色でなくてはならぬ。
藍色ブールドル は毛色にむらがなく、眼と唇と爪とは暗色でなくてはならぬ。

白色、赤色、藍色種共に右の外は凡て完全黒色ブールドルと同じである。
注意！ 體の唯三分の一だけ毛刈すること額の毛を残すこととを切にお勤めする。

各點の評價

全貌と動作	15
頭と耳	15
眼と表情	10
頸と肩	10
體、腰、背の形、及尾の保持	15
脚と足	10
被毛と被毛の色及質	15
骨、筋肉及健康状態	10
合計	100



Photo., Ralph Robinson, Redhill.
WRIBBENHALL WARLOCK.

フィールド、スパニエル

(54) フィールド、スパニエル

原産地—英國 サイズ—中型。

用途—銃 獵 (家庭の伴侶犬にもよい)

◎權威のクラブ。ザ、スパニエル、クラブ (英國)。

標 準

(これは黒色種の方であるが斑紋種の方) (も毛色を除く他はこれと同じである)

頭 是はブラッドハウンドやブルドックと同様、この偉大なる獵犬にとつても全くその特徴を表 象するものである。頭の眞の特徴と顔付とを見ればこれは高級種である

こと、氣品を具へてゐること、高尚であることが直に合點出来る。頭蓋はよく發達してゐる。頭の大瘤を以て著しく高くなつてゐる。これは就中それとはなしに其の特徴を表はすものである。鼻口部の幅はあまり廣くない。長くて傾斜してゐるが決して削りとつたり、四角に截つたやうではない。横から見れば、鼻から咽喉部にかけて漸次曲線を描いてゐる。眼の下は傾斜してゐる。この部分の厚いのは頭全體に粗末の感じを與へるものである。鼻口部全體にわたつて嗅覺神經の發達を自由ならしむるだけの表面を有つてゐる。それでこの犬が最高の嗅覺力を有つことになるのである。

眼 是はあまり充實してゐないが小さくもない。又引込みもせず張り出てもゐない。眼は暗いのはしばみ色即ち濃い鶯色である。云いかへれば黒に近い。眼の表情は眞面目で唯ならぬ柔順と智能とを現はしてゐる。
耳 是は頭の精美なることに與つて大に力がある。それは低く附いて適度に長く、廣くて可なりセツタ風の飾毛を附けてゐる。
頸 是は犬が獲物を持つて來るさき疲れないやうに、極めて強く且ツ肉附がよい。しかしあまり短くはない。
體 (大きさと釣合を含む) 體は長くて極めて低い。肋は極めて強く、腰のあたりまでよく組み上つてゐる。背は眞直かそれとも僅

にアーチしてゐる。決して弛んでゐない。體重は約三十五封度乃至四十五封度。鼻はよく開いた鼻孔を持つて大に發達してゐる。色は常に黒である。肩と胸 肩は傾斜して自由に動き、胸は深くよく發達してゐる。しかしあまり圓くも廣くもない。背と腰 背と腰とは極めて強く、肉附がよい。水平であつて犬の高さに比ぶれば割合に長い。後軀 は極めて力強く筋肉に富み、廣く充分に發達してゐる。尾 は具合よく附いて低く保つてゐる。尾は十分直線狀で、出來得れば背の水平線よ

りも下に保つこと即ち僅下向きの傾向があつて、決して背の線よりも高く揚げない。尚行動中も常に低く保つてゐる。尾は絹絲狀の波打つた飾毛で美しく飾られてゐる。足と脚 足はあまり小さくなく、趾の間は柔な飾毛で保護せられてゐる。足裏は十分に強い。脚は眞直でその骨は大であり、強く短い。眞直かもしくは波狀のセツタ風の飾毛を以て美しく飾られてゐる。飛節の下方に過分の飾毛あるものは排斥すべきである。被毛 は平毛かそれとも僅に波狀をなしてゐる。しかし決して捲いてはゐない。被毛は天候に抵抗するここが出來るやうに充分厚く

密であり、短くてはいけない。毛質は絹絲狀で艶があり、生來精美である。一面に於てはけばくでなく他方に於ては捲毛やワイア毛でない。毛色 全法眞黒で、光澤があり且ツ單純色である。胸に小さな白色あるものは一の障害ではあるが失格ではない。全貌 身體の寸法とその體格とを以て出來ることは何事でも習得し、何事でも遂行する獵犬であることを表はしてゐる美觀と實用との偉大なる結合體である。編者曰く……水用スパニエルは陸用スパニエルと可なり異ふ。ここにアイリツシュ、ウヲータ、スパニエルの標準の概略を示せば：

：色は美しき濃いレヴァか紫褐色。頭蓋は大きく可なり丸屋根型。頭には縮れた冠毛がある。眼は小さくて暗色、斜に附いてゐる。耳は附根低く長い（十吋乃至十二吋）。鼻口部は強くて長い。ストツプは明瞭であるが眉部や額が高くなる程でない。頸は可なり長くて肉附がよい。肩は傾く。胸は深く、むしろ狭い。背と腰は強くてアーチしてゐる。前脚は直くて骨が太く、上から下まで全部毛が長い。後脚は飛節が極めて低く、後膝はむしろ直い。飛節から下の内側だけ毛が短い。足は大にして毛が多い。尾は根本から二吋を除き短毛で、尖つて低く保つ。被毛は短くてちり／＼捲縮して厚い。鼻口部、前額、尾だけは短滑。高さ二十一吋乃至二十三吋。



CH. DEESMERE DESDEMONA.

スムーズ、フォックス、テリア

(55) フォックス、テリア

原産地—イングランド。サイズ—
中型の小。種類—スムーズとワイア
用途—土 獵、小振りの好伴侶。
◎權威のクラブ。ザ、フォックス、テ
リア、クラブ（英國）。

標準

頭と耳 頭蓋は平たく、程よく狭
い。眼に近づくに従つて漸次狭くな
る。ストップはあまり明瞭でない。
しかし横から見れば額と顎の項上の
間がグレーハウンドよりも多く凹んで



WHITELOW WINDFALL.
ワイア、フォックス、テリア

ゐる。頬は豊満でない。耳はV字
型で小さく、程よき厚さを持ち且ツ頬
に接するやうに前方に垂るべきであ
る。フォックスハウンドのやうに側方
に垂れてはならぬ。顎は上下とも強
く、筋に富み強く咬みつく力を有つべ
きである。しかし何れにしてもグレー
ハウンドや現代のイングリッシュホワ
イト、テリアのどちらにも似てゐると
いふ程ではない。眼の下はあまり落ち
込んでゐない。しかし此部分は楔形の
直線状に向下してゐるといふ程では
ないが可なり削り去られてゐる。鼻口
部は鼻先に向ひ漸次尖り、鼻は黒色で

ある。眼は暗色にして小さく、むしろ凹んでゐる。熱情と活潑と才智とに満ちてゐなければならぬ。その形は圓いのがよい。齒は上齒が下齒の前方に密合し出來得るだけ揃つてゐなければならぬ。

頸は喉垂皮なく、すつきりして筋肉に富むこと。その長さは適度であつて肩の方へ下るに従ひ漸次廣くなくてはならぬ。肩と胸 肩は長くして後方によく傾き、肩端あざやかにして鬚甲は明瞭である。胸は深くして而も廣くない。

背と腰 背は短く直にして強く且つたるみが見えてはならぬ。腰は力強くして極めて僅にアーチしてゐる。前部肋骨は可なり張

つてゐるも、後部肋骨は深くなくてはならぬ。しかし此の犬の肋骨はよく發達してゐなければならぬ。後軀 尻は全く垂下せず而もすくんではならぬ。強くして肉附がよい。腿は長くして且つ力が強い。飛節は地面に近く、フォックスハウンドのやうに飛節の上に立たねばならぬ。決して後膝關節の上に眞直に立つてはならぬ。尾はむしろ高く附着し輕快に保ち而も背上に持ち來り又は捲いてはならぬ。尾の力は充分強くななくてはならぬが槌の受鐵狀になるのは之を忌む。脚と足 脚はいづれの方よりこれを見るも眞直なるべく。前脚の踝關節は少しく見え

るかそれとも全然見えない。歩行の際には前後脚とも眞直に運ばねばならぬ。後膝關節を外方に向けるのはよくない。肘は體に對して垂直にかゝり且ツ體の側に於て自由に働き得ること。足は圓く、緊つて大きくない。足裏は硬く且ツ強靱でなくてはならぬ。趾は可なりアーチし、内向きでも外向きでもない。被毛 は直くして平く、剛くして密に且ツ豊富でなくてはならぬ。腹と腿の内側の毛のないのはよくない。毛色は白地を主とし虎斑赤斑又は肝臓色の斑はこれを忌む。但し色は大なる問題とするには足らない。對稱、大きさ、性格 この犬は一般に爽快で生き／＼して活潑な容貌を有ち、小さく纏ま

た骨ミカミが肝腎である。但しこのこゝはブオックス、テリアなるものはごつ／＼した粗糲なものであることを意味するものでない。——速力と持久力と體力とはともによく現はれてゐなければならぬ。而も各部の對様のよいこゝはフォックスハウンドを模範とすべきである。この犬はハウンドのやうに脚が瘠せて長くもなく又短か過ぎてもいけない。この犬は前に述べた通り、短き背を以て廣く踏張り宛も駿逸なる獵馬のやうにた、ねばならぬ。かくしてこの犬は最大の推進力と躰軀に相應はしき最大の伸張歩度を出すことが出来るのである。體重は本種の作業能力を判定する一定の準據とはならない——一般の體形

と大さと輪廓とが主要な點である。犬が疾驅したり急に止つたり又狐を溝に追ひつけることが出来るならば體重の一封度位の輕重は大なる問題ではない。但しこれに關する品評會の約束では體重二十封度以上のものはいけないことになつてゐる。

失格とすべき點左の通り

- 一、鼻 白、櫻色及この色を以て廣く點々のあるもの
 - 二、耳 立耳、チュウリップ耳、又はロース耳を有つもの
 - 三、口 上顎又は下顎のいづれかが過長過短なもの
- 編者曰く……スミス、フォックス、テリアアミワイア、ヘアード、フォックス、テリアとはその被毛が異ふだけで他は全部同一の標



フォックスハウンド

準に據るべきである。因にいふ、近頃ワイア種の方が世界的に人氣をあほつてゐる。英國では目下ザ、ワイア、フォックス、テリア、アソシエーションといふ協會が多數の會員を集結して發展してゐる。尙犬の大きに就ては近來比較的小さなものが喜ばれる傾向が強く……即ち「十八封度以下」説が優勢である。

各部の價	
頭と耳	15
頸	5
肩と胸	10
背と腰	10
後軀	15
尾	5
脚と足	15
被毛	10
對稱、大きさ性格	15
合計	100

(56) フォックスハウンド

原産地—英國。 サイズ—中型の中。用途—獸獵。◎權威のクラブ。ザ、フォックスハウンド、クラブ（英國）。

標準

頭 可なり廣い。ブラッドハウンドのやうに峯が聳えてはゐないが頭蓋の頂點から前額骨までの長さは長い。眉は極めて秀でて居り、頬は眼から鼻まですつきりと削られてゐる。耳は附根が低く薄くて、自然のままで恰好がよい。しかし大きくはない。鼻

は大きく、顎は強くて揃ひ。而も唇の垂皮を僅に有つてゐる。表情は恐しく、最良の擊攘力を時々表はす。

眼は極めて輝き、深く附いて居り、決斷力に充ち、極めて確固不拔の表情を持つてゐる。フォックスハウンドの形相は頗る人目を引くものである。

頸は十分すつきりして絶対に緩い皮膚がない。頸の長さはかがむ爲にも威容を發揚する爲にも大切肝要なものである。

肩肩胛骨はよく後方に傾き、その上廣くて強くなくてはならぬ。長き強力なる上膊に接合する。

脚と足 骨は腕より下方が完全に眞直てな

くてはならぬ。踝まで同じ大さで下つてゐる即ち所謂「ダウン、ツウ、ザ、トース」である。膝は殆ど平く水平である。趾のところで猫足型である。各趾は出来るだけすつきりと整つてゐる。

前部肋骨と胸前 深き立派な肋が極めて大切である。胸前は具合よく肘の下に位置せねばならぬ。

背と腰 背は眞直でなくてはならぬ。凹背は見るから不快、鯉背は最悪のものである。腰は廣くして後部肋骨は深く長く、尻の上方まで僅に秀でてゐる。

後軀と飛節 後軀はあまり長くあり得な

い。豊満にしてよく下腿を表はし、低下せる眞直の飛節に出會ふ。骸は短くて形のよい足を有つてゐる。

被毛 は剛い。しかし短くて滑である。毛質はチク／＼する程剛いが綺麗に撫で附いてゐる。

毛色 褐色と黒とが完全に混つてゐる所謂ベルポア、タン（これには色々の形と大きさの白斑が附いてゐる。白は光澤はないがはつきりしてゐる）。頭と後膝にタンの斑紋のある黑白種。灰と白の一種たる貉斑。淡黄と白のレモン斑。暗黄と白の兎斑等。
尾 は長くて輕快に保つ。しかし捲かない。時として半分白い。

高さ 牡は二十三吋半乃至二十四吋。牝は二十二吋乃至二十二吋半。

(57)

フラット、コーテッド、リトクイーヴァ、リトリイーヴァの一種である。……(78)を見よ。



(CH. LEO OF REYNALTION)
ブラッドハウンド

(58) ブラッドハウンド

原産地—。英國サイズ—大型の小
用途—獸 獵、警察犬、軍用犬、護
身番犬等。

◎權威のクラブ。ザ、アソシエーシ
ョン、オブ、ブラッドハウンド、
フリーダース（英國）。

標 準

一般性格 ブラットハウンドは嗅
覺に依つて一緒に狩りする犬が持つ
べき凡ゆる特點と特性とを最高度に
持つものである。この犬は極めて力

強くして普通の他の獸獵犬よりも地上に幅
廣く立つ。皮膚は觸れば薄く感じ極めて緩
い。殊に頭と頸の周圍は著しく、深き鬘を
持つてゐる。
高さ 牡成犬の中等平均高は二十六吋、牝
は二十四吋である。牡成犬は通常二十五吋よ
り二十七吋の間に在り、牝は二十三吋より二
十五吋の間に在る。しかし牝牡ともにその特
徴と品質が備はつてゐれば大なるものがよい
とせられてゐる。
體重 牡成犬の中等平均體重は良好なコン
ディションのとき九十封度。牝成犬は八十封
度。牡犬は百十封度に、牝犬は百封度に達
するものがある。體重は高さと同じく品質

と鈞合とがとれてゐれば大なる程よい。
表情 は高尚で威嚴があり、嚴肅と才能
と力とを表象してゐる。
性質 は著しく愛嬌があり、仲間や他の
犬と争闘を好まぬ。この犬はいくらか遠慮勝
ちで、飼主の親切や矯正に對して感じ易い。
頭 は長さの割合に狭く、體の割合に長い。
顛部から鼻口部の先まで唯僅に尖つてゐる。
即ち上からと横から見れば、側面は平たく、
全長を通じて幅が同じであるやうに見える。
横顔を見れば、頭蓋の上面の輪廓線は前顔の
輪廓線と同一平面に在る。鼻の先からスト
ップ（眼の間の中點）までの長さはストップ
から後頭の峯の後までの長さより短くては

たらぬ。頭の全長は後頭部の突起から鼻先まで、牡犬は十二寸かそれ以上。牝犬は十寸かそれ以上である。

頭蓋 は長く狭い。後頭部の峯は極めて顯著である。眉は眼が深く附いてゐるので高く見えるかも知れぬが、實際は秀でてゐない。

前顔 は長くて深く全長を通じて同じ幅である。横顔は四角な輪廓線を有つてゐる。

眼 は眼窩の中に深く沈降してゐる。眼の縁は下脛が重き唇の垂皮の爲に引き下げられ開かれてゐる關係で、菱形即ちダイヤモンド型になつてゐる。眼の色は毛色に依つて變化し、暗きはしばみ色から黄色にまで色々

である。はしばみ色の眼は赤黄褐色種の犬には極めて稀であるがそれは普通よいとせられてゐる。

耳 は觸れば薄くて柔な感じがする。非常に長く、附根が低い。耳の下部は内方と後方に捲かれて優美な襞を持つて垂れてゐる。

皺 頭は殆どどの部分でも溢れる程の緩い皮膚を持つてゐる。頭を低く保つときは一層格別に皺が現はれる。その時は皮膚が殊の外前顔の上と顔の側面に縮くぶら下つた稜と襞とを作る。

鼻孔 は大きくて開いてゐる。
唇と上唇の垂皮及喉垂皮 前面に於ては唇は四角に垂れ、前顔の上線と直角をなすと

共に後面に於ては深き垂れ下つた垂皮を作る。そして頸の周囲の緩き皮膚の垂れ下つた襞に續つき極めて顯著なる喉垂皮を構成する。これらの特徴はその度は少いが牝犬にも現はるるものである。

頸と肩と胸 頸は長い。肩は肉附がよく、後の方へ傾斜してゐる。肋はよく張り、胸は深き龍骨状をなして前脚の間によく低下する。

脚と足 前脚は真直で、骨が大である。肘はその形が四角に出来てゐる。足は強くよく接合してゐる。上腿と下腿とは極めて肉附がよい。飛節はよく曲り、低下してその形は四角に出来てゐる。

背と腰 背と腰とは強く、腰は強くして僅にアーチしてゐる。

尾 は長くて尖つてゐる。下面には適度に豊富なる毛を附け、むしろ高く附いてゐる。

歩様 歩き方は弾性があり、振り調子で自由である。尾は高く保持するがあまり多く背の上に捲かない。

毛色 は黒と黄褐色、赤と黄褐色又は黄褐色である。色の暗いものは淡色の毛を交えることもある即ち貉毛。又時としては白色を以て霜降になつてゐるものもある。白色の小さな斑は胸、足及尾の先には許すべきである。



CORNWALLIS TOREADOR ("BANG").

ブラック、エンド、タン、セツタ

(59) **ブラック、エンド、タン、セツタ**
 本種は以前ゴードン、セツタと呼ばれたものである。スコットランド原産。セツタ種中最も人氣が少い。左記の事項を除いてはイングリッシュ、セツタに同一標準である。(6)を見よ。
 本種はイングリッシュ、セツタやアイリッシュ、セツタに比すれば稍重く、スパニエル型よりもハウンド形の方が濃厚である。即ち鼻口部が一層深く、唇も一層重い。耳は稍ヨリ長く、眼は時としては瞬膜を現はす。毛色は勿論黒とタン……その黒は眞の黒でタンはマボガニー色のタンである。タンの模様は頬と眼の上と足と骸とに現はれてきら／＼輝いてよく境界が立つてゐる。前脚と臀部と

の飾毛は美しきタンでなくてはならぬ。



Photo., Sport and General.
HALF MOON POSY AND
HALF MOON IMPERTINENCE.

ブラック、エンド、タン、テリア

(60) **ブラック、エンド、タン、テリア**

原産地—イギリス。サイズ—小型とトイ型の二種。別名—俗にマンチエスタ、テリアとも呼ぶ。
 用途—土獵とトイ。
 ◎權威のクラブ。ザ、ブラック、エンド、タン、テリア、クラブ(英國)。

標準

全貌 本種は鼠の穴で仕事をす
 るに適してゐて、ホイペツト型では

ない。
頭は長くして平たく、狭くて凹凸がなく、頬は肉が枯れ全體は楔形である。眼の下はよく充實し、顎は尖つてゐて、しまつた唇と揃つた齒を有つてゐる。

眼は極めて小さく、きら／＼輝き、兩眼は可なり近接して居り、その形は長階圓形である。

鼻は黒い。

耳の保持法に就ては斷耳が禁ぜられてから兎角の議論がある。大なる種類のもものは多分垂耳が正しいのであるが、トイ型の方は立耳か半立耳が最も望ましいのである。
頸と肩 頸は可なり長く、肩から頭の方へ

狭くなつてゐなければならぬ。肩は傾斜し頸は喉垂皮がなく、僅に後頭部のところがアチしてゐる。

胸は狭いが、深くなくてはならぬ。胸は程よく短くて、腰が適度に高くなつてゐる。肋はよく張つて肩は腰のあたりが僅にアーチして再び尾の根の方に下つてゐる。尾の附根が肩と同じ高さである。

足は兎足といふよりも猫足に近い。尾は程よく長くて、尻の端末のアーチしてゐるところへ附いてゐる。根本は太くて先の方へ尖り、尾は背よりも高くは保持しない。

被毛は密で、滑で、短くて光澤がある。

毛色 黒は眞黒、タンはマホガニー色でなくてはならぬ。その配色の具合は次の通りである……頭に於ては鼻口部が鼻のところまで

タンで鼻梁は眞黒。兩頬と兩眼の上に輝いたタンの斑点。下顎と咽喉がタンで耳の内側もタン。前脚は下から膝までがタンであつて、どの趾にも黒い線（ペンシル、マーク）がある。後脚の内側はタンであるが飛節のところまで黒に斷ち切られてゐる。尾の下側もタン。肛門の縁もタンであるが尾で陰される程度のも。胸の兩側に僅のタン。後脚の外側にタンのあるもの——通常これを股引を着けてゐるといふ——は著しき缺點である。どこでもタンの中に黒が割り込んではいけない。

言ひかへれば、黒とタンとの境ははつきりして居なければならぬ。

體重 トイ種では七封度を越えないこと。大なる種類のもものは十封度乃至二十封度が望ましい。

編者曰くこの犬はマンチエスタアを流行の發祥地とするのでマンチエスタア、テリアとも呼ばれてゐる。英國に於て斷耳が禁せられるまでは不斷の流行犬であつた。しかし、斷耳せないこの犬は甚しく觀賞の價値を損するフオックステリアがこれに代つて洗鍊せられたので、この犬の耳を改良する程の意氣込もなく衰退のままに今日に至つた。



ブラッセルズ、グリフォン

(61) **ブラッセルズ、グリフォン**
 原産地—白耳義。サイズ—トリー型。
 用途—トリー。
 ◎權威のクラブ。ザ、ブラッセルズ、グリフォン、クラブ、オブ、ロンドン。

標準

全貌 貴婦人向きの小さな犬で—賢い
 活潑な頑丈な小じんまりしたもの—それは
 何となく毳髪を想ひ出さし又人間らしい表情を以て人の注意を引き附けるものである。
 頭 は圓い。剛い不揃の毛を持つてゐる。
 その毛は眼の周囲と鼻と頬のものがヨリ長

い。

耳 は白耳義で行はれるやうに断耳すれば立耳になるが、断耳しなければ半立耳である。

眼 は極めて大きくて黒色又は殆ど黒に近い。眼の縁は黒く、睫毛は長くて黒い。眉は毛で掩はれてゐる。眼の周囲には毛をかぶらないで眼は完全に露出してゐる。

鼻 は常に黒くて短い。鼻の毛は眼の周囲の毛に出會ふやうに上向きに生えてゐる。極めてはつきりしたストップを持つてゐる。

唇 は黒い縁を持つて居り鬚が生えてゐる。その鬚に僅の黒毛のあるのは缺點ではない。頭 は齒を現はさないやうに突き出てゐる。

る。僅の頤ひげを以て縁付られてゐる。

胸 はむしろ廣くて深い。

脚 は出来る丈眞直で、長さは適度である。

尾 は直立してゐる。三分の二のところまで断尾する。

毛色 ブラッセロア種は赤。ベルゲス種は完全なブラック、エンド、タン。

毛質 剛きワイア毛、不揃ひでむしろ長くて深い。ブラバンソン種は滑で短い。

體重 輕種は最大限五封度。重種は最大限九封度である。

缺點 避けなければならぬ缺點は—淡色の眼 絹絲狀の頭の毛 褐色の爪 露出した齒 舌を垂れるもの 赤鼻。



An untouched photo, by Thos. Fall.
SHEIK'S FORTUNE.

ブルテリア

(62) プリンズ、チャールズ、スバニエル

キング、チャールズ、スバニエルの一種であつて、三毛の種類を俗にかく呼ぶのである——(16)を見よ。

(63) ブルテリア

原産地——イングランド。サイズ——中型とトイ型の二種。用途——土獵、闘技、護身番犬、トイ。◎權威のクラブ。ザ、ブルテリア、クラブ(英國)。

標準

全貌 大體の外観は釣合のよい動物そのもので、機敏と優雅と上品と果斷の化身である。
頭 は長くて平たく、耳の間が廣くて鼻の方へ尖つてゐる。頬の筋肉はない。眼の間にはストツプがなく顔の方へ僅の凹痕がある。顎は長くて極めて力が強い。黒い鼻と開いた鼻孔とを有つてゐる。眼は小さく極めて黒く、巴且杏形がよいとせられてゐる。唇は襷がなくして出来るだけしつかりと接合してゐなければならぬ。齒はその形が正しくて正確に吻ひ合つてゐる。上下顎

の過長過短の如きは大きな缺點である。

耳 は半立耳たるべきこと。しかし他の耳も失格ではない。

頸 は長くて僅にアーチして具合よく肩に接合し頭の方へ細くなつてゐる。頸にはブルドックのやうに緩い皮膚は全くない。

肩 は強く、肉附がよくて傾斜してゐる。胸は廣くて深く、よい圓味のある肋を持つてゐる。

背 は短くて肉附がよい。しかしこれは犬の大體の輪廓に比して度はづれではない。

脚 前脚は全然真直で、その筋肉はよく發達してゐる。肩のところを外に出てゐない。所謂快走輪廓に出来てゐる。踝關節は極め

て強い。後脚は長い。前脚に比べて長く、肉附がよい。強い真直な飛節が地面に近く低下してゐる。

足 は兎足といふよりも猫足に近い。

毛色 は白でなくてはならぬ。

被毛 は短くして密に、手を觸るれば剛く感ずる。美しい光澤を有つてゐる。

尾 は犬の大きさに比して割合に短い。極めて低く下の方へ附いてゐる。根本は太く、先は精細に尖つてゐる。下方約四十五度の角度に保ち決して曲ることなく又背の上に揚げてはならぬ。

肩の高さ は十二吋乃至十八吋。

躰重 は十五封度乃至五十封度。

編者曰く——近年白地に虎毛の斑のあるものが流行してゐる。言ひかへれば、色に於ては本種の洗練前に立ち歸つたともいへる。あまり意義のない毛色の流行といふものは凡そこんなものである——コツカア、スパニエルなどもこれと同じこと。元來ブルテリアは虎斑のものであつたが、これを全白にするには可なりの苦心と年月日を要したものであるのだ。我々は流行の行詰りに注意せねばならぬ。トイー、ブルテリアの小さきものは四、五封度。小さいもの程喜ばれてゐる。尙トイー種も全然本種準に據るべきであるが、前額部が多少アツプ、ヘッドであることは或程度迄止むを得ないやうである。



CH. HOLLYCROFT SUGAR.

ブルドッグ

(64) ブルドック

原産地—英國 サイズ—中型の中、重種用途—護身番犬と伴侶犬（従前は闘技犬）
◎權威のクラブ。ザ、ブルドック、クラブ及ブルドック、クラブ、聯盟（以上英國）。

標準

次の標準は各種の説を比較吟味して英國ブルドック、クラブに依つて採用せらるることになつた。完全ブルドックの標準である。抑もブルドックを審査するに方つては第一、全貌に於てブルドックらしき感

想を完全に與へるか否か 第二、大さと形を構成に於て各部の釣合がよいかどうか（或點が特に飛び抜けてよいのもいけない）
 第三、態度、勇氣、歩様、性質その他各部に就ての精査し、牝犬は牡犬だけの威容と發達とを有たぬことを酌量すべきである。
 全貌 ブルドックの一般外觀は滑毛にして肥太むしろ身丈が低く、幅廣で力強く緊縮してゐなければならぬ。頭は驚く程大にして犬の大きさに比して極めて大。その顔は短く、鼻口部は極めて廣く曲つて上向になつてゐる。胴は短くてよく接合してゐる。四肢は頑丈で筋肉に富んでゐる。後軀は極めて高く、強。むしろ重い前軀に比ぶれば軽く出來てゐる。

この犬はエアシャ即ちハイランド牛の容貌を想はしむる如き力と決斷力と活動との表現を持たねばならぬ。
 頭蓋 は極めて大きくなくてはならぬ——大きければ大きいだけよい——その周經（耳の前で量る）は少くも肩の高さだけなくてはならぬ。前から見れば、下顎の角から頭蓋の頂まで極めて高く見え、極めて廣く四角でなくてはならぬ。頬はよく圓味を帯びて眼の外方に擴がつてゐなくてはならぬ。横から見れば頭はその後部から鼻先まで極めて高く極めて短く見えねばならぬ。前頭部は平たい。決して高くなつて顔に覆ひかぶさつてはならぬ。前頭部と頭の周圍の皮膚は極

めて緩くて大なる皺を作ること。
 鬚 即ち前額骨は極めて秀でて廣く四角でなくてはならぬ。そして眼の間に深い廣い溝を作る。この溝はストツブと名けられ深くて廣く、頭蓋の頂上迄も痕跡をとどめながら頭を縦に分つこと。

眼 は前から見れば、耳から出來るだけ遠くて、頭蓋の下の方に附いてゐなくてはならぬ。眼の角はストツブと直角の線上にあり全然頭の前面にあること。眼は出來るだけ離れてゐるがその外角は頬の輪廓線の内方になくしてはならぬ。眼は適度の大さでその形は全く圓い。凹んで居らず凸出てもゐない、又その色は極めて暗くなくてはならぬ——全然とは

言はぬが殆ど黒く、前から見て白い所が見えない。
 耳 は頭の高い所に附いてゐる。詳しく言へば、前から見れば兩耳の前内縁は頭蓋の頂上の輪廓線に接合する。即ち兩耳は出來るだけ離れて高く付き、眼から遠かつてゐる。耳は小さくて薄い。形はロース耳といふのが最も正しいのである。ロース耳とはその背部を内方にたたみ、上縁即ち前縁は外方と後方に曲げ、耳殻の内側の部が見えるものをいふのである。
 顔 は頬骨の前から鼻までの長さが出來るだけ短く、その皮膚は深く密接したる皺を作つてゐる。鼻口部は短く廣く黒い。殆ど兩

眼の間に在る。眼の内角（ストツ中點）から鼻先までの長さは鼻先から下唇の端までの長さよりも長くはならぬ。鼻孔は大きくて廣く、その色は黒い。兩鼻孔の間にはよく際立つた直線を有つてゐる。

上唇の垂皮 即ちチヨブは厚くて廣く垂れ下つて居り、深く下顎の側面（前面ではない）を完全に掩ふてゐる。前面に於ては下唇と接合し齒を完全に掩ひ、口を閉ぢたときには齒が見えてはならぬ。

顎は廣くて巨大で四角でなくてはならぬ。犬齒即ち牙は廣く離れてゐる。下顎は上顎の前方に著しく突き出て、上轉してゐなくてはならぬ。下顎は廣くて四角で、兩犬

齒の間に齒列の揃つた六枚の小さき前齒を持つ。犬齒は大きくて強い。

頸は適度の長さを持ち——長いといふよりもむしろ短い——極めて太くて深くて強い。頸は背部がよくアーチして居り。厚き緩い皺のある皮膚が咽喉のまはりにあつて、それが下顎から胸にかけて喉垂皮を作つてゐる。胸は文字通りに極めて廣く、圓く突き出て深い。それで前から見れば幅廣の短脚の犬に見える。

肩は廣くて傾斜し、深くて極めて力強く肉附がよい。胸前は豁大で圓く肩の頂上より胸前の下端まで深く、前脚の間に充分低下してゐる。

る。その直徑は大であり前脚の後方が圓い。（平肋でなくて、肋はよく圓くなつてゐる）。胸は後の方へ肋がよく組上つて居り、腹は引きしまり垂れてゐない。

背は短くて強く、肩のところ幅廣くて腰のところ比較的狭くなくてはならぬ。背は肩の後に近く僅に下つてゐる（最低部）。そこから脊柱が腰の方へ高くなつてゐる（その頂は肩の頂よりも高い）。それから再び一段と急に尾の方へ下つてアーチ形を作る——本種の著しき特徴——これを「ローチ、バック」と名ける。もつと正確に云へば「ホイール、バック」である。尾「スタイン」と呼ばれる尾は附根が低

く、むしろ眞直に突出して、それから下方に向ひ、その先は水平になつてゐなければならぬ。尾は全長を通じて全然圓く、滑であつて、飾毛や粗い毛を附けてはならぬ。長さは適度——長いよりもむしろ短い——であつて根本が太く急に細く尖つてゐる。尾は下方保持（尾の先は絶對に上に曲らない、又螺旋状や不具の形でない）であつて、背の上に揚げる事が出来ないやうに形つくられてゐる。

前脚は極めて頑丈で強く、廣く離れて太く、肉附がよくて眞直である。よく發達したる腓はむしろ弓形の輪廓を現はしてゐるが脚の骨は太くて眞直でなくてはならぬ。決し

て曲つてはならぬ。前脚は後脚に比してむしろ短い、これが爲に背を長く見せたり又は犬の活動を殺き跛者のやうになしてはならぬ。骸は短く真直で強い。前足は真直で僅に外方に向ひ、適度の大さで可なり圓い。趾は緊つて厚く、よく割目が立つてその節は高く秀でてゐる。

後脚は大きくて肉附がよくなくてはならぬ。前脚よりも割合に長い。それで腰を高め、腰から背にかけて長く、肉附をよくせしむる。脚の下部は短く、真直で強い。後膝は圓い。僅に體から離れて外向きになつてゐる。自然飛節は相互に近寄り後足を外方に向ける

ことになる。後足は前足のやうに圓くて緊まり、趾はよく割れてその節は高くなつてゐる。こんな構造であるが、この犬の歩様は特別に重くて拘束せらるるのである。即ち歩幅が狭く趾先でちよこ／＼と歩み、後脚を高く揚げないで地面を摺り、馬が短縮駢歩をするやうに右肩を前に出して走る。

被毛はその質が精美で、短くて密で、滑である(剛いわけは短いのと密な爲であつてワイア風になつてはいない)。毛色は全色かそれともスマツト(黒きマスクを持つてゐる全色をいふ)である。毛は輝いた純色で

なくてはならぬ。採点上からいへば、きらくした純色のものなれば全色かスマツトのもの、第一位は総虎毛、總赤、總白、その變化した總鹿毛等。第二位は駁のもの即ち混色のもの。

次の百點は叙上の標準に示す各部の關係價值を示すものである

口	5	頭の長さ	2
		四角さ	2
		下顎の突出さ上轉	1
チョブ	5	幅	2
		深きこと	2
		前歯を完全に掩ふこと	1
顔	5	短きこと	1
		廣きこと	1
		深きこと	1
		鼻口部の形上轉	1
ストツブ	5	深きこと	2
		廣きこと	2
		廣まり	1
頭蓋	15	大さ	5
		高さと四角さ	1
		廣さ	3
		形	2
			2
			4



ブルマスチフ

全貌 どのつしりしてゐるが活動性を持つことを現はさねばならぬ。マスチフ六〇%、ブルドック四〇%といふ形が氣質とを持つ。頭蓋は大きく鼻口部は廣くて深い。上から見ても横から見ても大體四角に見える。耳はV字形乃至はチュウリツブ形である。

標準(概要)

原産地—英國(近頃漸く一固定種と承認)
 サイズ—大型の小、重種
 用途—護身番犬、警察犬

(65) ブル、マスチフ

眼	5	{ 位置..... 2 大形..... 1 形..... 1 色..... 1
耳	5	{ 位置..... 1 形..... 1½ 大形..... 1½ 薄きこさ..... 1
胸と頸	5	{ 長さ..... 1 厚さ..... 1 アーチ..... 1 喉垂皮..... 1 廣さ、深さ、圓さ(胸)..... 1
肩	5	{ 大さ..... 2 廣さ..... 2 肉附..... 1
胸	5	{ 胸前の深さと厚さ..... 2 肋の容積と圓さ..... 3

背(ローチ)	5	{ 短きこさ..... 2 肩の廣きこさ..... 2 形、力、腰のアーチ..... 1
前脚	5	{ 頑丈のこと..... 1½ 短いこさ..... 1 發達..... 1 足..... 1½
後脚	5	{ 頑丈のこさ..... 1 長さ..... 1 形と發達..... 2 足..... 1
大さ	5 5
被毛	5 5
尾	5 5
全貌	10 10
		<u>100</u>
		<u>100</u>

眼は暗色。兩眼の間には可なり凹痕があり
ストツプは程よい。上下顎はよく揃ひ、力
強くて、あまり長くない。鼻口部には常に
黒いマスクを持つてゐる。鼻孔は廣くて大
きい。

頸は肉附がよくて力強い。

肩は筋肉が豊富である。

胸は比較的短く腰はしつかりと聯接して
ゐる。胸前は廣く、胸は深い。肋は圓く

張つて後の方へも十分に組み上つてゐる。

尾は眞直で強くてむしろ短い。

脚前脚は眞直にして骨が太く、腓の筋肉
がよく發達してゐる。後軀は極めてよく發

達してゐる。しかし活動の妨げをなす程でな

い。

毛色 鹿毛か虎毛の全色であつて黒きマス
クを持つ。小さな白斑は許されてゐる。

大さ 牡は體重九十封度乃至百十封度にし

て、肩の高さ二十七吋乃至二十八吋である。

牝は牡よりも體重に於て十封度、高さに於て

一吋少くてよい。



Photo. Hugh Robinson, H. Dall.
MARKSTON BEAUGAIRE.

フレンチ、ブルドッグ

(66) フレンチ、ブルドッグ

原産地—佛國(英國で洗鍊)。サイズ—ト
ーイ型。用途—トリー。クラブ。ザ、フ
レンチ、ブルドッグ、クラブ(英國)

標準

全貌 フレンチ、ブルドッグは活潑な、賢
い極めて肉附のよい犬で、小つまりの體格と
犬の割合に重い骨を持つてゐることが現はれ
てゐなければならぬ。
頭は極めて肝要な點である。大きくて四
角張つてゐなければならぬ。前頭部は殆ど

平たく、頬の肉はよく發達してゐるが突出してゐない。ストップは出来るだけ深いのがよい。頭の皮膚はくつついてゐないで前頭部には多くの皺を持つてゐる。鼻口部は短くて廣く、上に轉向し且ツ極めて深い。下顎は上顎の前方へ著しく突出してゐなければならぬ。齒は現はしてはいけない。

眼は大きさが適度であつてその色は暗い。犬が眞直に前の方を見る時には毫も白眼を見せない。兩眼はよく離れて下の方へ附てゐる。

鼻は黒くて大なること。

耳は蝙蝠耳で中等犬であり、その根本は大きく先は圓くなつてゐる。耳の附根は高く眞直に保つてゐる。耳の孔は前から見え

皮膚は精美で觸れば柔な感じがする。

頭は太くて短く、アーチしてゐなければならぬ。

胸は廣くてよく兩脚の間に低下し、肋はよく張つてゐなければならぬ。胸は短く肉附がよく、切れ上つてゐる。背は肩の方に廣く、腰の方に狭くなり完全にローチしてゐる。(編者曰く：64ブルドック標準の背を見よ)。

尾は附根が低く短くなくてはならぬ。根本は太く先の方へ尖り、背と同一水平線より體く揚げてはならぬ。

脚は前脚は短く眞直で、肉附がよい。後脚は強い。併し前脚に比れば輕なくてはならぬ。飛節はよく低下し、足は引きしまつて強い。

被毛は密度適度にして、黒色のものが極めて望ましい。



Photo., Morath's Press Agency.
ROULETTE OF WAITHMAN.

ペキニース

(への部)

(67) ペキニース

原産地—支那。サイズ—トリー型。

用途—トリー。

◎權威のクラブ。ザ、ペキニース、クラブ (英國)

標準

頭は巨大で、頭蓋は廣く、耳の間は廣くて平たい(圓屋根形でない)。眼の間は廣い。鼻は黒い。廣くて極めて、短く平たい。眼は大きくて暗色、張り出てゐて圓く、

きら／＼輝いてゐる。

ストツブは深い。

耳は心臓形であまり高く附いてゐない。

耳皮は鼻口部の下迄達する程十分長くはない
立耳でなく、むしろ垂れて長き飾毛を有つて
ゐる。

鼻口部は極めて短くて廣い。垂れてもい
ないが尖つてもゐない。皺を有つてゐる。

鬃は豊富で肩胛骨の外までも擴がつてゐ
る。頸の周圍に頸巻を作る。

胸の形前軀は重くて胸は廣い。後に至る
に従ひ殺げてゐる。獅子のやうで、胸はあま
り長い方ではない。

被毛と飾毛とコンディション 毛は長くて

密な下毛を持つ。眞直で平たく、決して波毛

や捲毛でない。むしろ粗いが柔い。臀と脚と
尾と趾との飾毛は長くて豊富である。

毛色 凡ゆる色が許されてゐる。赤、鹿毛、
黒、ブラック、エンド、タン、セーブル、虎毛
と白との駁。黒いマスク、眼鏡と耳裏のあ
るものが好いとせられてゐる。

脚は短い。前脚は重くて肘は外方に向
いてゐる。後脚は前脚よりも軽いがしつか
りして形が整つてゐる。

足は平たくて圓い。趾はよく立つてゐな
ければならぬ。足頸で立つてはならぬ。

尾は捲いて腰の上に具合よく保持してゐ
る。長い豊富な眞直い飾毛を持つてゐる。

大き トーイ犬であるから、體形が整つて

各部が満足であれば小さいだけよいとせられ
てゐる。兎に角十八封度を越ゆるものは失格
である。體重によつて組を分けるときは十
封度以下のものとそれを超ゆるものとの二に
分つ。

動作は自由で強くて高い。走るとき互に
交叉する足と、投げ出す足とは點數を減ぜら
る。關節の薄弱は罰點を受くべきである

各部の評価

頭.....	10
鼻.....	5
眼.....	5
ストツブ.....	5
耳.....	5
鼻口部.....	5
鬃.....	5
體形.....	10
被毛、飾毛、コンディション.....	10
毛色.....	5
脚.....	5
足.....	5
尾.....	10
大きさ.....	5
動作.....	10
合計.....	100